

- 一 丈助再度阿之事
- 一 三井寺一件
- 一 松苗植付
- 一 勢州松木より来状
- 一 造酒蔵母善光寺参り
- 一 平島一件和熟
- 一 久右衛門・源兵衛京参り
- 一 領右衛門・重兵衛同断
- 一 金六・浅次郎帳除之事
- 一 喜藤次京参り届
- 一 下切村長右衛門より当村彦市へ懸り田地一件
- 一 常貞寺・粟裏病死一件
- 一 伊勢拜借
- 一 秋葉祭礼取越久五郎・彦次郎罷出ル
- 一 尾州様初御入郡・付御祝書
- 一 成瀬様同断并尾州様御逢之儀被仰込
- 一 名古屋出火・付御見廻書状
- 一 名古屋山中初職一件
- 一 加納様御参府・付御用人中より之書状
- 一 三井様御慶事延御請招之事
- 一 初度雨請之事
- 一 加納二丁目出火之事
- 一 二度目雨請之事

- 一 三度目同断
- 元日
- 一 御年頭灌八郎・庄右衛門・小弥太・孫市一統申上、御盃被下
- 一 如定例御年頭御出、御本格葉師・上中屋天神・平島・新加納御陣屋・少林寺・法光寺・片岡・三井・常貞寺・久昌寺御道順也、少林寺へ五本入扇子箱・上中屋天神十疋御初尾、左右両社へ十式銅、葉師・常貞寺・久昌寺十二銅
- 五日
- 一 大山御使半右衛門
- 一 当村丈助秋葉参詣・付、昨夜与頭喜左衛門迄其段届候間、是迄庄屋より申出候事・候間、庄屋へ罷出可申段申遣候處、沙汰無之・付、以指紙呼出候所、当病之由・て不罷出候間、新類与三次・与三右衛門呼出、口書取申候一件、書類・有之
- (九日)
- 同日
- 一 新加納御陣屋より飛脚荷物頼来・付、右序・尾州御用人渡辺半九郎殿より之白木状箱届来ル、左
- 猶々本文之通・付、已来若々押て音物有之、持参之節たりとも、被致返戻候等、諸向え被相断候、此段も為御心得相達置候、以上
- 一 筆致啓上候、尾張殿勝手向不模通・付、追々敵候約被申付、当午年限・候処、今以模通之筋も不相見候、依之此節老中えも被相

- 届、此上来末年より亥年迄五ヶ年之間、是迄之通敵候約被致候付、諸向一統音物等堅相断被申候、就夫御附届等諸事は迄之通省略可被致候、此段相達置候様・と江戸表より就被申付越候、如斯御座候、恐惶謹言
- 十二月廿四日
- 渡辺半九郎
- 豊綱(花押)
- 坪内名様
- 一同日村役共不残、酒造蔵御託・罷出ル
- 十二日
- 一 酒造蔵義今日・て三七日・相成候・付、御答御免被仰付候・付、昨日村役始親類共呼出シ、指紙遣置候間、惣方罷出候・付、御免之段申渡し、酒造蔵宅へ惣方召連罷越、戸ノ御免被仰付之旨、当人え申渡ス、即刻御礼・罷出候、尤未吟味残シ居候・付、酒造蔵遠足留・親類預・申付候
- 十五日
- 御具足鏡開・付、村役・出入之者・鶏勘六・竜見・烈道・正入、其外寺方吉祥院等へは菓子盆・盛り蟹ふし・小豆少々附遣ス、今日正入義無摺儀・付罷出度、仍之朝罷出候て御祝儀申上引取、烈道・竜見・はしるこ・御酒被下候、村役・御出入之者・勘六・下々迄も御酒被下候事、女中へも御酒一銚子被下候事、半右衛門罷出酌致ス
- 十六日
- 一 村方へ博奕之儀御法度之趣相守可申旨申触候、文面日記・有之也

- 一 村役其外昨日之御礼・罷出ル、右序・当番庄屋喜藤次へ諸帳面等相渡し候段、元藏御届申上、喜藤次受取候段届出ル
- 一 今晚小弥太方男子出生之由、滝八郎迄届候由、同人より申上ル
- 一同廿二日
- 小弥太産穢明・付出勤、赤飯老重献上、紅絞切被下候
- 同日
- 芋島村武右衛門京都出立、大津上納金貳拾両相渡ス、尤柴山泰藏殿へ書状遣、右留日記・可有之候
- 同廿五日
- 一 当村要助落葉掻取居候・付、熊手井俵老ツ取揚、翌廿六日呼出、阿之上定之過料三百文申付ル、尤廿八日迄差出候様申渡候事
- 同廿七日
- 一 北島平右衛門罷出申上候は、来ル廿九日勇右衛門方之野口村より妻縁取結候之旨届出ル
- 同廿三日
- 一 殿様平島へ御出御座候處、平島・て御咄御座候は、先達て申上候江戸出府之儀は如何御座候哉之旨、御咄合御座候間、何レ三井とも相談之上取極可申旨、御答御座候處、左候ハ、三井表へ致御同伴可申旨被仰聞候故、御同道・て三井様へ被為入、右之段被仰談候所、何レ御用人共打揃内談可致方可然・付、廿七日少林寺・て出合之筈、御取極・て御帰御座候
- 同廿七日
- 一 庄右衛門被仰付少林寺へ罷出候所、岩佐清藏・加藤辰右衛門出会

て及談事候所、御当方様儀は何レ御両家様。御順シ被成候趣申
演候処、辰右衛門義は彼是被申候え共、是以前渡・平島御出府御
座候ハ、何様とも致し、御同様。出府可被致ト申事。て、取極候
儀無之。付、又々旦那方御出會之上被仰付候ハ、無提候間御出
府之用意。取懸可申候間、重て又候御出會御座候様可致旨。て引
取候

同廿八日

一平島様御出。て、昨日家来共寄合致相談候処難決、仍之何レ九ふ
御相談致度候間、三井表へ御同道之上、取極可申之旨被仰聞候故、
御前御挨拶。は、随分御同伴可致候え共、余り折々三井へ計り参
候も如何敷奉存候之旨被仰候処、左候ハ、庄右衛門被仰付被下候
ハ、拙者召連三井へ立寄可申之旨被仰聞候故、左様も可然候え
共、平島御出御座候ては、辰右衛門実意之所難相知候間、庄右衛
門計差遣候方可然哉之旨、御相談御座候所、至極宜かるべき之旨
被仰候間、庄右衛門被召出、御前。て、三井表へ参り辰右衛門内
存も承可申之旨被仰付、即刻参り申候、其内御酒等出し、彼は御
咄之内庄右衛門罷歸り、辰右衛門心腹之所難有かり、何レ。も丸
ふと被仰候所、至極之場。御座候えは、旦那も申達、御請可申
上候へ共、昨日より風邪。て引籠罷在候間、篤ト申聞かせ候間、
明後日迄御請御延引被下候様申候之趣、罷歸り申上候間、何レ明
後日之一左右御待之上、御決し御座候筈。て、平島様も御帰之御
用意。て御座候処、御帰際。て、御前島渡御咄し被成度との御事
。て、御居間。て被仰候は、江戸出府之儀今日は取極可申存念。

承知被下之旨、御前被仰、夫より色々被仰候え共、書取候趣意。
も無之候間、文略致候

同廿九日

一御前三井様へ御出、昨日之一件御咄之上、郡上表へも御文通可被
成御積。て被為入候所、折節太郎兵衛様御病氣。付、辰右衛門へ
委細御咄御座候て、以後平島御付合之儀、當時御見合之趣被仰置
候、就て平島奥様一件。付、たの御暇被仰付候え共、今以差置れ
候段、甚以御不都合。付、此方様。三井様共郡上へ被仰遣候儀嘘
。相当候間、未熟故不行届候間、平島表御勝手。御懸合御座候様、
郡上表へ可被仰遣段被仰候処、其儀は暫御見合被下候様辰右衛門
より申上候、何レ旦那快氣も候ハ、御伺可被申上候間、先々御延
引可被下候、郡上表えも三井御隠居様可然可被仰遣之由申候間、
左候ハ、可然相頼候之旨仰置れ、御引取御座候事

二月九日

一武右衛門義一昨日帰宅之由。て罷出ル、大津表一件は先々金貳拾
兩上納。て受取書来ル、跡金之処は若不出来。候ハ、武右衛門
帰次第、印形方小前召連レ罷出可申様申来ル、京都二条様拜借金
之儀は、引合通百拾石物成、石三斗三合かへ之相場。て大津少林
寺引物引、京都へ渡し金差引四兩余も過。相成候え共、先方。て
は利足。も不足之由申候由、仍之今式拾兩も差出候様申候由、仍
之講合。ても取立候様、馬淵申候由、仍之帰参之上取立出来致候
様可取計旨答、罷歸り候由

同十一日

て罷出候所、又候取極不申、甚以困り入申候間、是より三井へ参
り御同道致候て、行とも止るとも決し可申之旨被仰候間、其儀は
如何敷、何レ九ふ御相談被成度との御存念之由被仰候故、其儀ト
相心得候処、是から三井へ参り、辰右衛門へ被仰聞候ハ、何レ
とも決着は可仕候え共、何レ明後日と申事。候え共、其沙汰を御
待之上、何レとも御懸合可然奉存候え共、今日被仰聞候御振合と
ハ致相違、押て御取極之理。も相当り候間、一左右御待可然旨、
色々申候え共、中々以御承引無之、左候ハ、庄右衛門申候ハ、私
御供可仕旨申候処、御前被仰候は、庄右衛門罷出候ても同様之儀、
佐左衛門殿辰右衛門へ被仰聞候筋合恐入候計。て、丸ふと言場へ
は不行届候間、何レ。も今晚は御見合、明後日之一左右御聞之上
可然段申候え共、御聞入無之、左候ハ、当年出府は相止可申之旨
御申聞御座候間、此義も一左右御待之上之儀可然、先達ては牧右
衛門義もケ様之事とも申候事も御座候之旨、御前被仰候え共、平
島様被仰候は、其節心附候間申付不申候え共、此節は心附候間清
藏。は申付候、庄右衛門へもなせ不被仰付候哉、昨日少林寺。て
庄右衛門申候趣ト、御前之御口上とハ致相違候間、江戸へ御出府
と申事ハ御嘘。可有之旨被仰候間、嘘言は無御座候、御両家御出
さへ有之候へは、当方儀ハ急度参り可申旨被仰候ても、嘘言と御
打消御座候、其上色々被仰聞候事共、乍恐平島様御筋合之儀は一
ツも無之、其上先頃も源右衛門様と御入組之事も御座候て、右御
解合。今日御出も御座候所、又候ケ様入組ケ間敷被仰聞、毎度之
儀甚めいわく存候間、御出會申候儀も是限り。御座候間、左様御

一大盤若経転読一件は寺社記録。有之

同十三日

一山東庄屋弥兵衛罷出、馬灸治場日蔭。て不都合。付、場所替奉願
度、太平治前土取場。て相願申度、則今日わくいけ候間、差懸奉
願も恐候え共、御開濟被下置候様申出候間、滝八郎見分之上、南
北式間半・東西式間、馬繫松二本とも被下候、則書付取置候様申
付候、井山東より頼白坂へ出候道筋道狭く、通行難成候間、一間
通。仕度、今日馬のわく越いけ候序。取懸度由申出候へ共、道之
儀は追て序も有之候間、先見合候様申遣候事

同十五日

一山東庄屋罷出申上候は、笠田村十右衛門娘、久藏倅へ取取仕候由
届出ル

同十六日

一桃春院罷出、明十七日例年之通儀法相動候間、御使者御差出被下
候様願出ル、井此間大般若之節御礼も申上ル

一妙海寺へ証文井利足為持遺ス、右下書略ス

同十八日

一少林寺大盤若。付、山本滝八郎罷出ル、香代三十疋・供屯人

同廿一日

一右御礼・御備物等、以使僧差越

同廿二日

一当村庄屋元藏組猶七、昨廿一日罷出内々申上候は、倅□助義両親
申付候事共一向取不用、其上不情。付、御百姓相続無覺東奉存候

間、何卒御慈悲。被召出、御阿[]旨相願候段申出候。付、即刻明朝呼出候様申付ル。付、今朝親類為次差添罷出候間、一通阿り申付、猶又不情之由。付、毎夜式わッ繩をなひ、十日。式束ッ庄屋へ相納可申旨申付、受書取之置申候事

同廿三日

一 猶七為御礼淹八郎宅迄罷出、御蔭にて万事身しし候様子。相成難有由、御礼申上ル

二月廿七日

一 大釜吐井破損。付出役会合四ツ時、新加納より今尾富三郎・河田只右衛門、無働寺より永田左内、当方より山本淹八郎出役、一見之上野弁当と申事。て、場所。おゐて支度等差出ス、井酒出ス、其後人足共。渡候方可然旨。て、書付ヲ以申渡し、右積り請負候者有之候へ、急。御陣屋へ申出候様申渡、尤三ヶ村之内庄屋老人罷出候答

一 烈道死去一件法会留。有之

同廿五日

一 山東より十人伊勢参詣仕候由、庄屋届出ル

閏二月八日

一 山林境改庄右衛門・淹八郎出役、境目毎。塚築、間数打控主之印形取置候事

一同九日北島秀七善光寺参詣之由、届ケ出

て隠居被申候は、肅堂へ右之趣談し候処、肅堂申候は、右一件ハ追々平島様。も申候え共、兎角立障り不申候様被仰聞候、子細は右一件和尚御立入被下候は惑迷。候、両家より世話も御座候え共、夫さへ不取用候えは、和尚被仰聞候儀取用候ては、両家へ対し不相濟候間、御用捨可被下候旨、兼々平島様被仰聞、とんと手切。相成居候えは、肅堂より何とも難申上由申候間、左候へ、隠居使僧といふもの。て平島へ参り、牧右衛門・清藏心腹も承り可申旨申付、只今差遣候之旨被仰聞候、夫より暫見合候内。肅堂被帰候由。て、隠居より被申聞候は、肅堂儀途中。て清藏。逢、委細申談候所、何レ。も御届書御差出之所は可然御取繕被下候様申候由、右御届書之儀は何レ。も今日之所は御延引被下、早速取繕可申候間、御銘々御帰之上御主人様方へ可然被仰上、大の隠居御延引相願候趣被仰上可被下、尤打捨不置、明日平島様へ罷出、其上否肅堂を以可申上旨被申候間、兩人共引取、右始末申上候事

同十七日

一 淹八郎大釜吐井板出来。付、見分。罷出ル、御陣屋より河田只右衛門、無働寺より永田左内出役、明日・明後日之内。吐井出来候て、廿日より埋候積、先日堀割之節新加納より出役有之候間、廿日。は永田出役之答、夫より当方罷出候答、順。日割出役之答。先達て呼出阿申付候丈助、当日可納繩今以不致上納候間、今朝呼出、村役初親類阿申付候、当人義は勿論不情之所、親類・村役も差構不申段不碍。付、右之趣申付候、庄右衛門申聞ル

同十六日

一 兼て之下書之趣奉書半切。相認、淹八郎御陣屋へ御差出シ、尤三井加藤へ向参り何角内談之上、同道。て罷出候様被仰付、右供之者平島へ遣ス答、然所三井。て内談申候辰右衛門義も、同様被仰付候。付同道。て可参処、辰右衛門存念。は、少林寺和尚。ても相頼とふぞ此書付御陣屋へ不差出、事済候様致度、右御届御座候ては、以後御和順。相成候処何となく平島様。も御心よからず様。も存候え共、致方無之候、和尚義は少々平島へ意味合も有之趣。相見候えは不宜、隠居儀は此節尾州因幡へ被参留主中之事、然共銘々義理合も有之事。候えは、何レ松原・岩佐へも一応致対談度、如何可致哉之段被申候間、使遣候ても返事を待居候も手間取候間、いつそ平島へ参り可致内談哉之旨、談事候へとも、左候節ハ平島様御逢も可被下拜と被仰出候ては如何數候間、夫よりは大野慈得寺迄出張、右方へ岩佐成共松原成共、結合候方出張被具候様、可申遣方可然旨治定致し、夫より同道。て慈得寺へ参り候所、幸隠居帰寺。て御目。懸り、今日は平島様ケ様。之一件。付、御陣屋へ御届。罷出候、然共私共義理合も御座候間、岩佐・松原。一応対談仕度、夫故御やかましなから御席を御借申度、推参仕候、於私共も甚氣之毒仕候、御隠居様思召も無之哉之旨申述候所、夫は承り捨。も難相成候え共、老衰之事、其之上。一兩日中。は又々尾州へ罷越候間、愚僧立入御世話之儀不行届候間、肅堂呼。遣し、当住。為取計可申候間、暫く見合候様被仰聞候間、相待罷在候内無程肅堂長老相見、何かと別席。て隠居と内談有之候趣、其上。

一 平島松原・岩佐左。申遣ス

以手紙致啓上候、不勝之天氣相御座候え共御手前様方御安全。被成御勤、珍重之御義奉存候、然其。御奥様御離縁之義。付、彼は御世話向不行届候。付、被致方無之可被及義絶候之所、自得寺御隠居御承知。付暫く御預之上、御懸合も御座候え共、是以不行届趣。付弥御断。も御座候へ、乍御氣毒御儀絶被致候間、此段御手前様方迄得貴意候様被申付、如此御座候、以上

閏二月晦日

山本淹八郎

加藤辰右衛門

松原牧右衛門様

岩佐清藏様

尚々本文之趣御承知被置可被下候、以上

右は当方認、三井加藤氏へ向、平島へ差遣ス、返事左。

御紙面忝致拝見候、如仰不勝天氣御座候え共、各様方弥々御安全。被成御勤行、珍重御義奉存候、然は当方奥方之義。付、先達てより。御両家様彼は御世話被成下置、恐入奉存候、乍併。御両家様御思召。も行届キ不申。付、先達て御義絶可被遊之所、自得寺御隠居御承知被成、御氣毒被思召、暫く御預り之上御懸合等も御座候え共、是以不行届キ之趣。付、此上自得寺御隠居弥御断。も御座候えは、御義絶可被遊之段被仰下、則右之趣申達候、私共。おいても御氣毒恐入奉存候え共、致方無御座、右御返事得貴意候様被申付候条、如此御座候、以上

閏二月晦日

岩佐清藏

松原牧右衛門

山本滝八郎様

加藤辰右衛門様

尚々、本文趣は候えは致方無御座、御気毒恐入奉存候、以上別紙にて、兩人衆より内々にて左に申来ル内々別紙申上候、各様弥々御安全に被成御勤珍重奉存候、然は先達て岩佐清藏被召、御義絶之由被仰聞時節も、恐入被是申上候え共聞入無御座、恐入奉存候、猶又今日も右之御紙面被下候に付、各様方迄兩人共参上仕、可申上筋之義も申達候え共、是以不承知之趣、各様方へも御気毒失礼之段、御免可被下候、乍併此上之所万事恐入奉存候、余は御可被下候、御断旁如此御座候、以上

二月晦日

松原

山本

岩佐

加藤

一 大釜吐井伏セ替に付、新吐井出来に付、割合左に申来ル昨日は御苦勞に奉存候、然は新吐井御出分、左に相記差上申候間、代銀下切村庄屋太平治へ御渡可被下仕度奉存候

覚

一 銀百六拾四匁二分

新吐井代

内

銀四匁五分五厘

古吐井代引

残て

百五拾九匁六分五厘

御談申候趣、被申候間、至極御尤之御事、立婦旦那へ申聞、御左右可申上旨申置、罷歸候由

(三)

同二日

一 八ツ時頃和尚井茂左衛門同道にて相見へ、早速逢候趣、平島一件に付乍恐愚意申上度、和尚同道にて罷出候由、茂左衛門挨拶有之、夫より平島一件最初より不残物語候趣、何か案外之様子にも相見へ申聞候は、乍恐御尤至極之御思召、乍恐私式愚意仕候ては、御二人様と御老人様にては何レ平島様御取計方不宜に相当り、近くは帯刀様・新次郎様御同様御隠居にても被仰付歟、またいか様被仰出候も難計、左候節は御跡目ト申も無御座、其趣如何哉に奉存候、何レ和尚とも内談可致候間、先々暫く控候様申候間、暫退候内和尚と内談有之候に付、先々酒等出し、其上又々逢候所、右一件何レも和尚も残念に被存候間、此上暫御延日被下候へ、其内平島表へ懸合申度由被申候間、三井表如何様可申候も難計候へとも、併筋合之立候義に兎角も有之間敷候間、暫延引之義、私受持候間、早行御取計可被下候、何ッ頃迄に御左右可被下哉之旨申候趣、当六日迄に否申越へく旨、和尚返答に有之候、右にて先々引取被申候事

(八日) 一 松苗 買上、弁天向・札之辻向井・山東から池堤・大釜へり通

植させ候

同三日

此割

銀七拾九匁八分式厘五毛

前渡様御出分

三拾九匁九分壹厘二毛

無働寺様御出分

同

松本様御出分

右之通に御座候間、御承知可被下候、已上

閏二月廿六日

永田左内

山本滝八郎様

右之趣出役先より為持来ル

同晦日

一 少林寺より以使申越候は、平島一件夜前序も有之候に付、内々今尾茂左衛門へ談し候趣、右に付面談致度候間、此人と同道にて参り呉候様、庄右衛門方へ申来ルに付、庄右衛門罷出候趣、和尚被申候は、兼て之平島一件余り残念に付、序も有之候間昨夜茂左衛門に談し候趣、能ぞ御聞被下、何も御不通杯と申候て不輕義、上役等罷在候へ、直様罷出乍憚可申上候へとも、當時上役も無御座候儀、私風情罷出候て申上候も恐入候えとも、和尚御同伴被下候へ、私式にても罷出、乍憚御慈愛之所専一申上度、御三人之儀は何方様にて、若御行届も無之節は、御三軒之内に御老人か御二方は、是非筋合御聞合之御方も有之事に候間、是迄も何れ御助合に相成来り候義に候間、此節之儀は三井様は御縁家之儀、郡上表も同様之御事に付、万事御差引も有之候間、差当り前渡様は御座候間、不苦候へ、罷出候て御目通之上、御仁心之儀申上度候由、被申候間、夫故其元御招申候、右之訳合に茂左衛門被申候間、同道致候て罷出申度存候、左候へ、御逢も可被下儀哉、其段難計候間、

一 勢州松本より来状左

以急状一筆致啓上候、春暖之節其御地 嘉兵衛様御安泰被成御座奉賀候、然ハ先頃御尋越御座候当地 御役所御用金拝借之義、今日御役所より御沙汰御座候に付、早々申上候、尤是迄拝借被成有之候拾四兩元利上納仕、改七拾兩拝借仕候段申上候て御聞濟御座候、右七拾兩之内金十兩私方へ分借仕度候、私方無廻入用之筋有之候に付申上候、尤上納度々私より年々元利相添可申候間、左様御承知被下候様頼上候、私よりハ各様へ証文差出し可申候間、此度御持参被成候証文金高は七拾兩に御認候之、今尾周右衛門殿添翰等御持参、急々御越可被下候、御奉行所御留主にて彼は六ヶ敷御座候趣、私方入用も有之、色々事訳申入候て拝借出来に相成候間、何分七拾兩之内拾兩は私方へ各様より借用仕度候間、此段御承知可被下候様、嘉兵衛様へ宜被仰上可被下候、是迄之通之御本家御添翰井七拾兩之拝借証文、猶又元金拾四兩利足当月迄之趣御持参被成候て、此状届次第急々御出可被成候、遅り候てハ不宜候間、呉々も此状届候へ、御添翰・証文等御持参候て、村役人にて一日も早く御遣し可被下候、前段御頼申上候通り、此度拝借被成候内にて拾兩ハ、是非共私方へ借用仕度候間、左様御承知可被下候、右御承知も被下不申候へ、此度之拝借出来不申候間、何分私相働に候段御推察被下候様奉頼上候、村役人証文名前印形等は迄と相違も致候へ、其段御添翰へ断書被成候様、御取計可被下候、御添翰も七拾兩之文言御認御座候様、御取計可然候、去冬之通之御添翰御文言ハ、此度元利十四兩上納仕候間、改七拾兩

拝借被仰付可被下候旨御添翰御文言にて、坪内式部内何之誰より御認可然候、証文面へ去年之通にて三月より拝借来ル十二月廿日限り之趣にて宜敷御座候、御書入高ハ九十八石此儀式百四十五俵右之通御座候、村役人証文へ印形仕候者之印形も持参候て御差出し可被成候、右之段急々無間違一日も早く御差出し可被下候、恐申上度如斯御座候、呉々も此状届次第輕濟候

閏二月廿七日

尚々、此状届候ハ急々御添翰証文等持参候て村役人差出し可被下候、無間違此段御承知可被下候、本文ニ申上候私方借用之義兼て御承可被下候、御拝借之上直様私方へ拾兩ハ分借可仕候、尤私より各様へ御証文差入可申候間、宜御承知御座候様届書出様へ御申上可被下候、以上

兩人

松木雅之助

宅彦(花押)

一 同十五日浅次郎親類之者咎申付ル、右浅次郎義ハ去年中江戸御本家御屋敷ニ相勤居候処、欠落致候ニ付、当三月帳除ニ相成候処、立寄り居候を親類共無届差置候内、庄屋元藏梓源左衛門と致口論、右ニ付又々当所へ住居も難成候間立退申候由、夫故控田地作廻候者無之ニ付、浅次郎親類七人庄屋元藏方へ参、右田地庄屋作廻具候様、難洗申懸候段申出候ニ付、相料候処、浅次郎参り候ニ付不便ニ存、内々差置候ニ相違無御座、尤口論致候てより何方へ罷出候哉、行衛も知レ不申候由申候、就ハ親類共承知之上為立退候哉

四月廿八日

神谷太郎八

山岡右門

岩田源八

坪 嘉兵衛様

(五月朔日)
返事左ニ

貴札致拜見候、如仰向暑之節弥各様方御安泰ニ被成御勤仕、珍重之義ニ奉存候、然ハ此間ハ参上仕候之所、御丁寧御取扱被下、種々御馳走被仰付、忝仕合奉存候、猶又其節之趣、是迄之儀は何レ御内々御問合之趣ニ候え共、私参上之儀は表立て、尾張様へ御目通御願申上候振ニ候哉、又ハ隼人正様へ嘉兵衛御達被成下候節、直ニ被仰込候義哉、右之境御開落ニ付、為御念私迄御問合御座候趣、委細貴答得貴意候様被仰下、承知仕候、右ハ尾張様へ御目通之義ハ、先達て嘉兵衛より御手前様方迄御内々御問合申候節、其御許様より御取扱ニも可被成下之旨御答御座候ニ付、此度私参上仕候ハ、嘉兵衛義早速名古屋御中屋敷へ罷出、尾張様御目通之儀も被相願候方ニも可有之哉ニも被奉存候間、左候ハ、隼人正様ニも御逢も被成下候様仕度、又ハ尾張様御目通御取扱被成下候儀ニ候えハ、其御許様より之御沙汰御左右相待可申哉之段、御内々為御問合罷出候儀ニ御座候之趣御座候間、可然様奉願上候、以上

五月朔日

尚々、此間参上之節、得貴意候、先前之振合取調、右ニ順し候様

之段相料候処、承知ト申事も無御座、当所ニ住居難成候間引退候段、申置候段相答候故、誰方ニ申置候哉ト相尋候へハ、親類方不殘参り申置候由、相答候、尚更不埒之事ニ付、親類七人へ手錠申付候て組預ケニ申付候、尤組合も乍存差置候段無念之至ニ付、呵申付候、両庄屋・与頭不存ト申事も無之、浅次郎立寄り候を其儘差置候段、是又無念ニ付差控申付候源左衛門と口論之一件、追て可達吟味候え共、先々右咎申付候事

一 同日本郷弥兵衛呼、右ハ喜左衛門・伊右衛門持馬之義入組ニ相成候、弥兵衛より之願面ハ、金子式分式朱伊右衛門ニ貸有之、右之所へ馬差入候、馬代は金老兩老分朱之由、然所金老兩受取、馬代老分式朱不足故、追々喜左衛門へ及懸合候え共、金子渡し不申ニ付、左候ハ、右馬もやひ持ニ致具候様頼候へとも、是も喜左衛門不承知ニ付、無拠願出候趣書取候願面ニ付、喜左衛門呼出し相尋候所(以下空白)

一 同十七日村役共四人差控免ス

(四月廿八日)
以切紙申上候、向暑之節御座候え共益御勇健被為成御座、目出度御儀奉恐慶候、然ハ今度、尾張様御入部ニ付、恐被仰上度由、就てハ御目通御願被為成度旨、先年御逢之節は爰元之御願被為濟候儀ニ付、此度も右ニ御准被為願度、又ハ尾州御用人衆之向被為願候儀ニ御座候哉、先達て御内々為御問合、委曲御紙上之趣承知仕、則隼人正ニ申達候處、先振之通於当可被取扱被申候候、右之趣御承知可被成下候、依之申上候、以上

被成度、就ハ右取調御承知被成度、是又序之節得貴意候様被仰下、則別紙荒増得貴意候、且又此間ハ微看致進上候之所、御厚礼被仰下、痛入奉存候、以上

別紙申上候、寛政二年戊二月二日尾本定左衛門殿御入来ニて、尾張様御出入近日可済旨御申聞御座候

同二月四日夜、隼人正様より嘉兵衛方へ御直書を以、御出入済候趣被仰下、当十五日頃名古屋表へ罷出候ハ、大納言様御目通可有之旨被仰越候

同二月五日当方家来宮川門目、定左衛門殿御内宅へ参、一件及御内談候

同六日、隼人正様へ御答申上候ニハ、十三日出府可仕旨申上候同十三日名古屋へ罷出、十五日、大納言様御目通相済申候荒増右之趣相見申候、以上

五月朔日

岩 様
山 様
神 様
山本滝八郎

同十九日

昨日之一件ニ付犬山へ御使者山本滝八郎相勤ル、昨日之通御願書奉書二ツ切ニ認、例書は江戸表ニて御目見之儀も書加左

例

寛政二戊年二月十五日父故嘉兵衛、大納言様之初て、御目通仕候、其後於江戸表、寛政八辰年七月廿八日父故嘉兵衛、御目通仕候事

右ニ通ニ認、山岡右門へ及内談候、都合三通也、今日は山岡へ向

参り、万事内談之上、任差図月番御用人之可参積、外。口上書認遣、左。

口上手控

隼人正様倍御勇健被為成御座、恐慶之御儀奉存候、然先見之通嘉兵衛儀御座候ハ、隼人正様儀御達被下候様仕度奉願候、
中納言様へ 御目通之儀別紙ヲ以奉願上候間、是又可然様奉願上候、仍之以使者申上候間、此段宜御取繕御達可被下候、以上

五月十九日

右致持参、滝八郎罷越候、供之儀は略致し、侍一人・草履取計り差付、山岡右門へ参り候処、他行にて有之旨付、引取妙海寺・休足致居候て余程見合、供之者山岡へ掃宅之儀承遣候処、未帰候由、罷歸り候ハ、先方より沙汰可有之旨申来り、又々見合候内、掃宅之由案内有之付、山岡へ参り候処、早速被出、時候尋御口上演、扱昨日ハ御紙面被下候処、致他行不能貴報、失礼之段申演、右付任御心易、内々貴宅へ罷出候、昨日被仰下候御振合ハ、以使名古屋御同役中、又は当御表へ 御目通願書差出候様被仰下候、右は名古屋表へ罷出可申哉、又は当御表へても苦かるましく哉、旁御問合申候段申候処、右門被申候ハ、何れへ被仰込候も御同様之御事候間、当方へても宜旨被申候間、左候ハ、今日使者相動可申、附ては昨日御草案之趣相認持参仕候、御内見可被下段申候処、内見之上被申候は、御願書は宜候え共、御例書ハ 御目通ト御座候、右は昨日差進候草案認違ハも右之哉、右は御先振も御座候て、御願書ハ 御目通例書ハ 御目見ト御座候、

候

一 五日朝少々はら／＼と雨申候

同五日

一 今日瑞竜寺構敷日付、御参詣後加納へ土用御見廻可被成御出ト御出懸之所、途中にて風聞有之候は、加納宿昨夜九ツ頃より出火にて焼候由、仍之御園にて奉書紙・白木状箱等調、安池様にて火事見廻書状御認て、御供小弥太ハ為持被遣候、加納二丁目油屋より出火にて、東は魚屋角、南側ハ二文字屋にて留り申候、西は葛屋、北側は道元と申医師にて留申候

一 筆致啓上候、然今晚御町方之内出火御座候所、早速致鎮火、此上之御儀奉存候、仍之御窺申上度、各様迄如此御座候、恐惶謹言

松浦

川上

右之様ハ相覺申候、尤下書無之付荒増也、其外手札坪内御名便如斯認、二文字屋・三文字屋・龜屋・錢屋・滝屋へも見廻寄セ申候

同八日

一 洲原へ雨請御祈禱願落付、村役惣左衛門へ落願之所、差支付、元藏并惣代吉兵衛参ル、御初穂百疋、尤手紙を遣、右ハ定例地祭之節文面ハ准認遣ス、同九日夜中し／＼と明方降申候

同十一日

一 今日三日目付為御礼灯燈上ル、今晚も少々降申候

同十二日

右之趣草案参り候付、昨日申上候、尤 公儀へハ御目見 御三家へハ 御目通ト御認之儀ハ御尤奉存候へとも、御先振ハ有之趣ハ相見へ候へハ、若御先振ト致相違候ては、彼は御懸合ハ手間取候哉ハも奉存候之旨被申候間、草案致持参候え共、今日ハ不致持参候由申、左候ハ、乍自由今日使者之儀ハ相動、明日認替書状御手前様迄為持差上候ては如何哉之旨、及内談候処、随分苦しからす、今日御使者御勤御済之上、右之御認替之儀は拙者一名にて、御状にて被仰下候様致度段被申候間、其段可然御願申候由申演、

左候ハ、御月番御同役中へ罷出、使者相動可申哉之段申候処、幸右門殿月番之由、仍之先々引取、後刻参上之旨にて、妙海寺迄罷帰申候て、着用上下改、山岡氏へ罷越候処、右門殿縫上下にて御使者受御座候、同席へも這入不被申故、致挨拶、同間へ這入れ候間、御口上之趣申上候処、手控持参哉之旨尋付、持参候之旨及答、差出候処、右御預り申度由被申候て、差置申候、并御願書・御例書二通とも都合三通、是又預け引取、歸りかけ式台迄被送候、右付明早朝右認直し、書状ヲ以差遣候等取調候、右草案之趣故、留は略ス、尤両通差遣ス

同四日

一 暑氣為見廻使来付、犬山御用人中三人より、先達て之願書不用之方差戻ル、外ハ右門殿名にて手紙来、右ハ一件袋入有之

同四日

一 此節照統候付雨請願出ル、承届差遣候処、天神へ松明上候由申出ル、代参として庄右衛門相動ル、供屯人、六ツ過荒井山燈申

一朝六ツ寄ト申事にて桐之木え寄合、□□大明神へ千度参致候、尤昨日鬺取之上定之

一同十三日夜中より十四日朝迄不絶雨降申候

〔表紙〕
文化十酉之記録

御次

三井

定並(花押)

- 一年頭之次第
- 百姓礼受人別
- 鏡開人別
- 寺社方礼受
- 江戸飛脚年玉物留
- 一切通陣屋来状安藤新次郎殿家督相済候為知留
- 平島養女縁組願済留并内存留
- 村方政藏新客入組
- 一切通へ使者音物留
- 平島不念。付江戸より出府申来ル一件
- 三井家督振舞
- 平島久馬之丞家督祝。付請控
- 三井家督。付尾州御出入済来。付添書并礼状
- 村方三株より出訴
- 三井改名願并礼状
- 平島一件落着

ノ三拾九人

- 松本村辰藏米、屠蘇出候上達
- 勘六年頭盃遣ス、扇子二本持参
- 竜見・正入土器盃
- 夕泊初、鶏新吉・雌三井村そよ、蛤吸物・酒出ス
- 今朝買初、山本滝八郎右新吉方。て亭始調来、米壺升
- 三日 未
- 昼鏡開、菊谷竜見・同悴・おるん・おりせ・小弥太・孫市・久之助・おとら・秀之助・正入、於次難煮・飯・屠蘇・重結振廻
- 芋島村武右衛門病氣。付、悴定藏祝儀。来ル、連柿持参、同村清左衛門悴藤十郎同道、右より酒式升配符。て持参、難煮・屠蘇出シ候上。て達
- 平島村武兵衛悴彦九郎来ル、右同断
- 滝八郎・庄右衛門年頭。出ル
- 松本村定兵衛返持参、於台所屠蘇出ス
- 崎元良御逢、蛤吸物・燗酒。て盃
- 四日 申
- 桃春院・常貞寺・吉祥院罷出ル、式本入扇子箱持参、久昌寺罷出ル、皆々一同達、同席盃遣ス
- 少林寺御入、栗・扇子箱持参、表。て難煮・盃出ス、夫より奥へ通し燗酒。て御盃、下々茶漬、小僧へは屠蘇・難煮出ス
- 犬山妙海寺入来、御札・箸持参、燗酒。て盃達
- 加納・岐阜使半右衛門

一平島お国殿御届御添書留

元日 巳

一出懸前惣方礼相受申候、滝八郎・庄右衛門・小弥太・孫市盃遣候
一年頭道筋薬師参詣、当住坂口迄送り申候、常貞寺本尊拜、左右拜、相済常貞御位牌礼拝、終住持□□挨拶、婦り懸門迄送り、夫より上中屋天神拜礼、弥宜次郎左衛門へ目礼、平島へ行、書院へ通り、岩佐清藏へ申置、御陣屋。て当番河田只右衛門申置、片岡権右衛門年頭申述、権右衛門門迄送り、少林寺。て書院へ通り難煮・盃、相済燗酒出ル、下々迄難煮出候由、公儀御位牌拜礼、夫より此方#平島・三井位牌へ拜礼、廟所へも参詣、夫より法光寺へ立寄、式台。て申置、三井。て書院御通之所、辰右衛門罷出何レ。も可申聞旨申候。付、暫見合候内直様奥へ罷通り候様申候。付奥へ通る、難煮・盃・燗酒出、婦りかけ久昌寺へ参詣、門迄送る、八ッ過罷帰ル

二日 午

一惣方礼受
一村方頭百姓礼。出ル、左。人別
喜藤治 元藏 喜左衛門 惣左衛門 弥兵衛 平右衛門
茂兵衛 市兵衛 半兵衛 秀七 牧藏 清五郎 弥七 紋七
次郎右衛門 八郎兵衛 吉兵衛 佐兵衛 源四郎 利助
善兵衛 五郎右衛門 清六 彦市 茂七 孫六 庄左衛門
与兵衛 文藏 清次郎 次右衛門 桑藏 銀藏 久藏 常七
喜代七 林左衛門 甚太郎 七左衛門

一諦定御逢、燗酒

五日 酉

一犬山へ使燗半右衛門
一新加納より江戸状来ル、左。
貴札致拜見候、然此度御同苗佐左衛門殿御娘高木玄蕃様へ御縁組御願書、右佐左衛門殿より被差出候。付、御手前様よりも御同様被成御願候段被仰聞、御紙面之趣式部殿へ申聞候所、被致承知候、此段可及御報旨被申付候、恐惶謹言
十二月廿六日 前野半右衛門 寛常(花押)
六日 戌
一名古屋へ使与兵衛、山中へ連柿・外郎遣ス、尤追て参ル。付なまぐ御なし
一岐阜へ飛脚買物滝八郎遣ス
七日 亥
一惣方礼、村方庄屋与頭・出入之者・寺社・正入祝儀。出ル
一切通陣屋使左。
一筆啓上仕候、余寒之節御座候処弥御壯健被成御座珍重之御儀奉存候、然新次郎儀家督無相違鷹之間詰被 仰付候、右為御知為可得貴意如斯御座候、恐惶謹言
正月七日 時山忠左衛門 尚隣(花押)
松本仁左衛門

一 犬山城代井用人より年始状使来ル、返書遣ス
八日 子

一 岐阜陣屋より返書井年始状来、則返書遣ス

一 玉泉院来、御札持参、例年雑煮出屠蘇出ス、其上にて逢、盃致候所、今日は江戸飛脚にて取込付達不申候

一 岐阜法花寺より使、納豆来

一 江戸飛脚貫目四貫目少々輕シ、当年平島年番中野之村佐左衛門ト申者参り候由、遺物左

式部様之御着代金百疋

松之助様へ白鞘小刀三本

奥方様へ枝柿十五入一箱

小石川様へ干茸・枝柿七ツ・肴代南一・さき干井ずいき・木綿糸、喜兵衛え扇一・多はこ入、お重へ紅猪口二ツ但式□□、

初太郎足袋二足、久五郎へたはこ入、伝次茶二袋、宗三郎へ扇子二、藤五郎肴代南一・枝柿七ツ、娘兩人わけゆい一ツ宛、お

せいより遺さき干・手鞠二ツ

ト庵殿へ志保見まんちゆう二十入一箱

両寺へ南一ツ、茶湯料、東北寺へは茶五袋遣

半右衛門へ志はまんちゆう三十入一箱、内方へふとり一反

幸右衛門へ枝柿七ツ、是へ奥付故世話。成候間遣ス

滝瀬へ志はまんちゆう二十入一箱

山角藤十郎殿へ枝柿十入一箱

高木玄斎殿へ枝柿十入一箱

平岩長五郎殿へ枝柿十入一箱

作右衛門へ茶三袋

七貫目少々余分。付、酒代二十疋飛脚之者へ遣ス、酒出候事

九日寒風烈屋後雪降 丑

一加納へ年頭、駕籠・侍老人・草履取、年玉志はまんちゆう三十入

一箱・持遊三ツ・鯛巻枚巻箱。子籠塩引濁活糍付ふり有合。付持

参、新三郎殿へ砂糖曲物一ツ代老奴・鯛巻枚、右は去年より折々

色々来。付遣ス、藤四郎殿へも砂糖曲物一ツ、右二家安池より届

頼ム、林右衛門方へ外郎一本・くわし包一娘へ遣ス、高田乳母方

子供へも外郎一本遣ス

一如例年吉祥院家祈禱。来

十日 寅

一如例年常貞寺へ代香庄右衛門

一平島へ使遣ス、右は当五日江戸表より着状候処、先達て願置候養

女縁組願済来。付、平島へも同様申参り候事哉。付、日々便り相

待候え共、昨日迄も左右無之。付、右一件申遣ス、尤来状も致封

入為見申候、右返書一件袋。入有之、右序。大垣表状願遣ス

十一日 卯

一今日円照院様御命日。付代香滝八郎・庄右衛門兩人之内にて勤可

申所、所々年頭挨拶。遣候。付、孫市遣ス、道順洞筑瑞眼寺・山

後正殿寺・長塚村大願寺・浅野兵部、夫より新加納へ罷出、代香

濟小佐野安楽寺・上中屋上徳坊・祢宜へも寄候由、下切玄仲宝林

寺、右之通り相廻る

一平島より牧右衛門来ル、右は縁組願相済候。付、右為一礼以使者

申越ス、右一条は最初より彼是入組候。付、何角於当方致心配候

処、願差出候節は佐左衛門義も折々参り、牧右衛門義も同様数度

参り頼。付、添書ヲ以願候処、今度相済来り候えは今日迄も音信

無之ト申は、余り得手勝手成ル義、殊。一順相済候迄は兼て之女

在所。居可申儀。候処、去冬以来内々平島へ参り居候由、右等之

儀佐左衛門殿余り信義無之致方、以来逆も右之有之儀は眼前之義、

末頼母數社三家之甲斐有之候処、右体之儀共。ては末々面白から

ず、近く遠く附合、右女房候内は何様之義有之候共、先平島へは

参り不申方宜數ト存候、今日牧右衛門へも、佐左衛門殿若被参候

ハ、当時取込候事有之候間、御出も被下候様子。候ハ、御延引

被下候様申遣ス

十二日 辰

一安田屋太助年頭。来ル、枝柿巾着持参、雑煮出ス

十三日 巳

一小弥太鶴沼正法寺・玉泉院・野口行念寺使

一武右衛門年頭。来ル、雑煮出ス

一滝八郎・甚三郎、安兵衛方へ年頭使者

十四日 午

一総栄院様御命日。付小弥太代香

一孫市年頭使、下中屋西入坊・米野福藏寺・正浄寺・三ッ屋西□□・

牛子長光寺・一学・富士吉

一明日具足鏡開。付、如例庄屋組頭出入之者勘六・鶏助候新吉、正

入。竜見申遣ス

十五日

一平島縁組礼状今日迄沙汰無之。付、此方。三井より先礼状遣ス

一筆致啓上候、然。同苗佐左衛門義女高木玄斎方へ縁組仕度、先

達て奉願上候所、早速御許容被成下、願之通被。仰付、於拙者共

も難有奉存候、御手前様迄右御礼申上度如是御座候、恐惶謹言

正月十五日

坪内久馬之丞

坪内嘉兵衛

前野半右衛門

書 (花押)

一筆紙致啓上候、余寒強御座候え共御安全被成御座、珍重之御

義奉存候、然。同苗佐左衛門縁組願之義。付、何角御世話共相懸、

於私も重々忝奉存候、今度願之通被仰付被下置難有奉存候、右御

状当月五日着仕候。付、翌六日出。は右御礼佐左衛門より可申上

ト、左右相待居候処何之沙汰も無御座、仍之十一日出状之積り哉

。奉存候所、十日迄も無沙汰。付、如何之儀哉、尤別紙佐左衛門

方へも被仰遣候義。可有御座、左候ハ、私方へも何分左右等も可

有之儀ト奉存相待候へとも音信も無御座、仍之私方より御來書ヲ

以相済来り安堵之趣申遣候所、右返書。同様五日。御陣屋より

御状。て着之由、早速私方へも一礼可申越候処彼は延引相成候由

申越候、翌十一日家来松原牧右衛門ヲ以一礼申越候間、猶又江戸

表へ御礼早々御出状可有之旨申遣候、今十六日出。は是非々御礼

書差出候事ト奉存候所、又候何之沙汰も無之、余り等閑之義ニ奉
存候間、御内々御手前様迄得貴意候、右願ニ付先達て御細書被下
候節ハ、日々様ニ牧右衛門も参り、佐左衛門儀も兩三度も参り候
処、此節右願通御聞濟ニ相成候上ハ、不取敢御礼可申上候処、ケ
様延引仕候、佐左衛門存念如何哉ニ奉存候、右体之心得ニ御座候
ハは以後之儀も甚以不安心奉存候、就私共ニおゐても不行届候
様被思召、見越候儀ニは御座候へとも、以来之所無覺束奉存候間、
何卒義絶ニて仕度、右之段は御届ニて相済候儀哉、御願申上候筋
ニも可有之哉、内々相伺申候、何事ニよらず私共申候義不相用、
左候ハは心付候儀共助言仕候ても不行届、然節は私共不念之筋ニ
も相当、以後御答等相蒙候ては迷惑仕候間、内々右之段御手前様
迄申上候、右申上度如此御座候、恐惶謹言

正月十五日

坪内嘉兵衛

前野半右衛門様

一同廿二日一ノ宮より国府之宮・津島へ相廻り、夫より熱田・名古屋所々参詣之積ニて出懸、同廿七日罷帰り申候、右留守中村方入組、政藏新客彼是やかましく、此一条は用部屋日記ニ留有之候故文略

一同廿四日庄右衛門三州中泉御役所へ拝借金懸合ニ罷出ル、右は旧冬参り頼置候所、当早春彼表より以飛札、金貳百兩相済候趣申来り、仍之当月中又々罷出懸合ニ可及旨返書遣置候、然所右利足沓割半之由、左候ては高利ニも有之候間如何可致裁杯申合候え共、

御座、既ニ御両家よりハ御礼状被差出候、御願元ニて未御礼状御差出無御座候儀ハ、如何之訳合ニて右様等閑之御取計ニ御座候哉、定て御所存被有之候儀と被存候、左候えは御文通御懸合ニては中々以相分不申候間、三月朔日迄無御相違御出府可被成候、右之段可得御意旨被申付候、恐惶謹言

二月六日

前野半右衛門

坪内佐左衛門様

寛常(花押)

右書状持参之上、何分江戸表へ可然取計具候様、佐左衛門殿厚被頼候へ共、即答何共難相答、勘考之上、明日ニも以参可申上旨申答候

同十四日

一 乍仏参大般若按抄旁少林寺へ罷越候ニ付、三井へ立寄、昨日佐左衛門殿ニも三井へ被立寄候事哉とも存候間、昨日之一件内咄等可致ト存、三井へ参候処、久馬之丞殿仏参留守ニて、辰右衛門ニ逢、右一条申聞、昨日佐左衛門殿持参有之候江戸より之来書写為見、猶又途中か又ハ少林寺ニおゐて久馬之丞ニも可掛御目候間、其節御談可申旨申置、夫より少林寺へ参り候所、於右寺久馬之丞致対面、一件咄合候処、平島よりは者三井へ一向沙汰も無之由、右一条は何レ平島迷惑筋ニも御座候間、兼てハ平島へ参るまじき覚悟ニ御座候へ共、夫は佐左衛門殿への意味合、家ニ対し候ては此度之義先ハ易意ならざる事ニ奉存候間、殊ニより候ハ明日御透ひ可申上候間、平島へ御同伴致、篤ト清藏・牧右衛門内存も承知之上、御相談可申上旨相咄、引取申候、右帰る懸途中より孫市平島

又重て之ニ有之、且は庄右衛門罷出候ハ、沓割之方拝借も可相成哉ニ付、幸永井正入も秋葉へ参詣致候間、同人も参詣致度、旁々出かけ申候、同日夜名古屋ニて致対面候、翌廿五日名古屋ヲ致出立候事

九日

一 三井家督祝ニ付皆々可参様申来ルニ付、今日源右衛門同道ニて行、道具・挾箱・草履取、三井村東迄足輕兩人罷出居致案内、於書院二汁七菜料理出テ奥ニて又々饗有之、膳部家内四人前重箱ニ入為持来ル

十日

一 昨日之為挨拶孫市三井へ遣ス

十二日

一 平島ニて久馬之丞殿家督為祝義振廻有之ニ付、罷越候様申越候え共、心不能事共も有之ニ付、源右衛門為名代遣ス

十三日

一 七ツ過頃佐左衛門殿入来、右は江戸表前野半右衛門より来状之所、三月朔日迄ニ罷下り候様申来ニ付、不取敢被参候由、文面左ニ

一 筆致啓上候、然は去冬中貴様御養女御縁組願、最初より種々御心得違之御願書御差出ニ付、御不都合之事共式部殿ニも得と被致承知、御願易意ニ不相済候処、申談取計申聞候上、式部殿格別之勘弁ヲ以、則御願之通被申付候、定て先例之通早速早春ニも御礼状御差立可被成義と被存候処、何分御沙汰意御座故、乍御延引も当春飛脚之節は定て是非御差出可被成事ニ被存候処、是又其儀無

へ遣ス、則口上書左ニ

一 五月節句後村方足立・松波・田中三苗惣代久右衛門・為次・丈助より出書差出ス、右願面不都合之義ニ付、不取上差戻、右書面等別紙用部屋留ニ有之

切紙袖ニ 坪内嘉兵衛様

野垣源兵衛

拜啓、追日向署御座候処御安康被成御座奉珍賀候、然は拙者儀明後廿八日爰許出立、川添廻村、御屋敷許致通行候、就ては順路程能時刻ニ相見候付、御村方ニて昼支度之心組ニ御座候、尤調度之儀は從是致手当候間、模寄宜所手狭ニても不苦候間、隨身從者等ニて上下八九人休息所一ヶ所手当致具候様、宜御取計被下度、此段御頼得貴意度如此御座候、以上

五月廿六日

尚々、本文之趣具々も乍御世話可然奉頼上候、且乍差越御心配ケ間敷儀決て無御座様仕度、分けて御断申上候、已上
右申来ルニ付返書遣不申候、当日村役ニ申付、当方へ案内可致旨申付、当日此方へ相見候

一 六月十八日陣屋より使来ル、左ニ

御手紙拝見仕候、如仰向署御座候え共、被為揃御壯健被成御座奉大悦候、然は御同苗佐左衛門殿一儀ニ付度々御連名御状被下、早速尊答可申上管御座候処、久々相勝不申、其上半身右之手へかけ甚痛強、一向認メ物等出来不仕引込居候故、心外ニ尊答大延引

相成候段、何分御高免可被成下候、其上式部殿より未いつれ共不被申遣、少しも相分り候へ、其段可申上と追々延引。相成候段、與々御免可被成下候、然は当春御飛脚便之節、龜末之品入御覽候処、御叮嚀御挨拶被仰下、甚以痛入候仕合奉存候、何ぞと奉存候処一向被引居候故、思召之処奉忍入候。

一 御同苗佐左衛門殿御出府之義。付、追々御詫被仰下、則御書面を以申聞候処、何レ得と勘弁被致可被申遣旨之処、猶又貴公様より数度被仰下候義。御座候間、いつれも被仰下候通承知可被致候え共、未何レ共不被申出候、定て重便も被申出候義と奉存候、在様御承意可被下候、且内輪色々入組候趣御座候由被仰下、右ハ如何之訳合。御座候哉、當時之御様子相何度奉存候、扱又御同人御男子無御座、兼々御心当テ養子御進被成候趣、此節達て假養子被致度御咄合御座候由、右は差掛此節御願書御差出被成候は如何敷思召、先ッ御見合之方可然旨御挨拶被成候趣、何ト御願書等も被差出度旨、達て御願被申候。付、御内々御問合被仰下、右御假養子之義ハ、御当人御勝手次第之義故、御願書被差出候ても不苦候、弥御故障之義も無之候えハ、早速御願之通り相済可申義ト奉存候、佐左衛門殿御娘女老人御座候え共未御届無御座候由、右御届方之義被仰下、右は聲養子之御積り。御座候ハ、御娘子之方先へ御届被成候方御願と奉存候、夫共御娘子外へ後々御縁組も相成候ハ、何レても宜御座候え共、定て外へ御縁談と申義。も有之間敷と奉存候間、先ッハ先へ御届被成候方可然奉存候。久馬之丞殿御家督後御定例御親類書等御差出之義ハ、此かたより

以上

一同廿七日三井久馬之丞殿、代々之名太郎兵衛ト改名致度由被申候。付、則来月五日迄。陣屋へ願書差出候趣。付、今日暑氣見廻。参り候間認メ遣ス、左。

一 筆致啓上候、然は同苗久馬之丞義、代々之名太郎兵衛ト改名仕度旨、今度願書差出申候、同人願之通被。仰付被下候様、宜御取可被下候、頼入奉存候、恐惶謹言。

七月六日

坪内嘉兵衛

前野半右衛門様

一 十二月十七日三井より名古屋書状為持来ル、其以前平島牧右衛門来ル、右は御用人より問合之書状持参之所、平島へ計由来候事ト存、返書及相談候所、此方へも同様申来り候。付、平島返書相止、何レ御参会之上御相談可申旨。付、廿日三井へ寄合候筈、則同日三井。て参会之上、左之通返書下書致、同廿一日三井より平島へ向為持遣し、翌廿二日名古屋へ平島より為持遣答。致相談候。以手紙令啓達候、甚寒候え共弥御無事珍重存候、然は貴所御家格之儀。付、別紙之通御問合申入候、乍御世話委曲御申越候様致度、如此候、以上。

十二月朔日

尚々、別紙之趣坪内式部方えも承合候え共、猶更御問合申入事候、以上。別紙。

御達申上御差出被成候御振合之由、被仰下承知仕候、右之趣一向相弁不申、御家督も相済候義故、定て御差出可被成義と奉存候、前々如何故右之御振合。御座候哉、御旗本方御振合。ては、御家督相済候えハ直。御親類書等出候義故、右之御振合と計存居、前々之義承意不仕故、御達し不申上候え共、右は御差出被成候方可然奉存候、且御養実御認メ分ケ之義も被仰下候え共、是は何レても宜御座候、早く相分り候方。御認メ可然ト奉存候。

一 御内々相伺候太郎兵衛殿御病氣御差重リ。付、久馬之丞殿え御家督御願。御座候趣、前々之御振合は御差重。て事切レ、別段。は御死去之御届は御差出不被成候哉、此段乍序相伺置度奉存候。

一 貴公様御心願之義、平島一件。付御差控不被仰下候義、尤式部殿も兼て御直。御咄合も有之、旁々以御見合被成置候趣、右は如何之御振合。御座候哉、御承意被成度由、御尤承意仕候、式部殿も其御筋え御内咄し致し被置候え共、未急度致候義相分り兼候由被申聞候、兼て御直談被申候通り、随分其御筋へ度々御咄合御座候趣承知仕候、式部殿。は是非御見立被申度旨被申居候、少しも相分り候ハ早速可申上候、左様御承意可被成下候、猶重便心事可申上候、先尊報旁早々如斯御座候、以上。

六月十一日

前野半右衛門

坪内嘉兵衛様

尚々、兎角未不順之氣候。御座候趣、切角御厭御壯健被成御座候様奉存候、毎度愚家之者へ御伝言被成下、申聞候趣難有、猶又宣申上度旨申聞候、乍来御方々様乍憚宜被仰上可被下候、奉願候、

公儀 御代替井貴所繼目御礼之節 御目見有無、且献上物・拝領物・其外御動品之事

一 公辺おゐて都て御取扱振之事

一 御本家坪内式部方。て被取扱振之事

右之外御家格へ附候儀、當時之模様委敷承度候事

御紙面致拜見候、余寒之節弥御堅勝被成御座珍重奉存候、然は拙者共家格之儀。付御別紙之儀致承知候、則別紙ヲ以得貴意候、右御報如此御座候、以上。

十二月廿二日

坪内佐左衛門

坪内嘉兵衛

尚々、御別紙之趣同苗式部方へも御問合御座候由、致承知候拙者共取繕候義は不得貴意候事。御座候、銘々御答可得貴意候義。御座候へ共、同様之義。付、乍略義連名。て貴報、得貴意候、以上。別紙左。

覚

三人名前

右三人之儀は 権現様御朱印頂戴仕、嫡家坪内惣兵衛都合四人連名。被成下候儀は、本家一堵。可被召遣。上意之由、承伝申候、依之三人共大御番相動候趣、御免被成下、在所。被差置、御上洛。日光御社参等之節奉供仕候、本家遠国御役等蒙。仰候節、一堵。相動候事、寛文年中江州水口御城番之節、本家坪内支蕃相動候。付、三人共相動候、其後元禄年中坪内惣兵衛駿府御加番被仰付候。

付、本家より伺之上、御奉公ヲ以三人共相勤候様被 仰付、御扶持方被下候、帰之節御老若相廻り、在所へ引取申候事
一 御目見之儀當時中絶仕、江戸表へ罷出候節は、本家同道にて御老若へ罷出候事

一年々差出候宗旨証文、本家式部連名にて 公辺へ差出候事
一 本家にては式部同席仕候事
一 尾張様御出入之儀は先年より仕来り、御直之御書翰等所持仕候事
右之趣御座候、當時無役ニ付、公辺向御取扱之儀は無御座候、其御表御取扱品、則家格ニ相成候事ニ奉存候事

〔表紙〕
文化十一戌記録
甲乙酉丁戌
己庚辛壬癸

- 一 大津拜借分延引願之事
- 一 九條殿講会一件
- 一 井戸堀之事
- 一 厄祝之事
- 一 村方入組常貞寺・武兵衛取扱一件
- 一 北島七兵衛入牢并江戸下シ之事
- 一 米野村出入ニ付坪内主税殿家来安田要人より内談之事
- 一 庄右衛門大津行一件
- 一 太郎兵衛殿縁組願
- 一 本家松之助殿婚姻済来状一件
- 一 本家安産悦書状
- 一 尾州へ拜借願并文通等改格ニ付右演説書写
- 一 役金延引書付留
- 元日 癸巳 天氣風少々烈至て余寒強
- 一加納より使来
- 一 雑煮 くし貝 向香之物ニ 手塩皿田作ニ 貝吸物
煮豆 花かつを こんぶ二 盃内 豊寿福 取看 するめ 柿尾布 かつのこ
- 一 鏡餅飾置

出懸前惣方礼、滝八郎・庄右衛門・小弥太・孫市孟遣ス

一年頭供方、徒士兩人・近習・中小姓・駕籠四人・鎧・挾箱・長柄傘・草履取・合羽籠、押一人道筋薬師へ参詣、当住坂口迄送り、常貞寺本尊并左右拝・常貞御位牌礼拝、終住持へ挨拶、帰リ懸門迄送り、夫より上中屋天神東にて佐左衛門殿行逢、戸明ヶ摺通り、天神へ参詣、祢宜次郎左衛門ニ目礼、大野慈得寺へ寄ル、夫より平島へ行、牧右衛門取次書院へ通り、岩佐清蔵火鉢等出、牧右衛門罷出候て奥へ罷通り候様案内ニ付、辞退致候へ共達て進候ニ付奥へ通る、お国殿いるかわ迄出迎、次之間へ通り候所、上の間へ通り候様挨拶有之候え共罷通、清蔵女房喰積出ス、雑煮・蛤吸物出、土器三方出る、お国殿達て始候様挨拶ニ付相始、お国殿へ遣ス、此方にて給納、吸物引替、鯉・燗酒出ル、重看数子・午房・煮豆・田作等にて給終、暇乞致シ相立、夫より御陣屋へ罷出、取次河田只右衛門、玄関へ上り申置、片岡へ寄る、夫より少林寺、三井一堵ニ成る、本尊・本家位牌、公儀御位牌・平島・三井・此方は勿論拝礼致し、書院へ通る、雑煮・盃、相濟燗酒出ル、右終て法光寺へ罷越し、式台にて申置、三井にて取次清左衛門書院へ通る、辰右衛門罷出挨拶有之、奥へ罷通る、佐左衛門殿一堵ニ相成ル、無程佐左衛門殿被掃、跡にて雑煮・蛤吸物にて盃、隠居計燗酒にて惣方盃、吸物鳥・取看硯いもかんぶた志ぐれ・煮豆・数の子・午房、下通り帰る、久昌寺へ立寄り、八ッ過頃罷帰ル

- 一 惣方礼
- 一 岡崎玄良来、表にて逢、貝吸物
- 一 村方長百姓・頭百姓礼ニ出ル、人別三拾九人、扇子二本持参、通懸達
- 一 勘六達、盃遣ス 一 半左衛門女房
- 一 安中并治達 一 おるん 一 おりせ
- 一 竜見達、盃遣ス 一 おしゆん・乙五郎
- 一 正入事去年より他出留ニ付、遠慮にて不参
- 一 夕泊初、浅右衛門囃犬山みと、茶間かわり
- 一 今朝買初、滝八郎浅右衛門方へ行、芋蛤調来ル、白米老升
- 一 松本村市四郎・勝蔵・孫六来、淨瑠璃有之
- 三日 乙未 天氣
- 一 昼鏡開ニ付、竜見・千代吉・おるん・おりせ・おとや・いと・と
- 一 滝八郎・庄右衛門・小弥太・孫市来、斎義ハ平島へ行不参、秀之助於次雑煮・飯・屠蘇・重結振廻、半左衛門・并治・文吉同様
- 一 早朝滝八郎・庄右衛門年頭罷出、昼頃帰ル
- 一 平島武兵衛倅彦九郎来ル、雑煮・屠蘇出ス
- 一 犬山より寒中返書并城代用人より祝詞状来、足輕使
- 四日 丙申 天氣
- 一 吉祥院罷出ル、式本入扇子箱・御札持参、逢盃致ス
- 一 久昌寺同断

一 常貞寺・桃春院同道ニて来り右同断
一 少林寺入来、栗一袋・武本入扇子箱・外郎餅持参、表ニて雑煮・
屠蘇出シ、奥へ通し燗酒ニて御盃、下々は茶^{（漬）}、小僧へは雑煮・
屠蘇出ス

一 論道不参ニ付、三千代・つね・哥・菊丸来ル、雑煮出ス
一 林治平来ル、立石持参、逢難煮屠蘇出ス
一 しけ来ル、くわし持参

五日 丁酉 天氣
一 岐阜・加納・切通足輕使天野政藏、大垣書狀平島へ頼遣ス
一 犬山足輕使堀半左衛門
一 くわし少々

六日 戊戌 四ツ過頃より雨天夜四ツ頃地震
一 名古屋へ使天野政藏、山中へ立石・黑豆、小供へ足袋二足、藤村
へ立石遣

一 江戸遺物調ニ遣ス、滝八郎・綱平
一 芋島村武左衛門来ル、^{（舊持）}預持、藤十郎より先々口上ニて立石あ
つらへ来ル、雑煮出ス
一 年越ニ付福茶出来、菊之枝たく

一 去暮桃春院へ野々山より法事来り、右挨拶旁今便申遣左
以別紙致啓上候、余寒御座候所弥御堅勝被成御座珍重奉存候、然
は去冬は桃春院殿御法事料被遣、則桃春院当主へ相渡申候、右御
法会之儀へ先達て取計相濟候ニ付、寺修覆等為仕候儀、御座候、
且又御法会之節御代香等為相勤候ニ付、右等之御挨拶御丁寧被仰

下、被入御念候御義奉存候、就御正當御法会は御執行無之段承
知仕候、其段当主へも申聞置候、右貴報旁如斯御座候、恐惶謹言
正月六日 坪内嘉兵衛

野々山内匠様

一 夕七種囃、滝八郎歸り之程も不相知候間、庄右衛門へ申付ル
七日 己亥 今晩初雷夜明風烈雨降昼後より天氣

一 今晩七種囃庄右衛門
一 粥出来ル、向^{（田作）}・香の物

一 惣方礼受、元日ニ盃遣候所、取紛失念ニ付、今日遣ス
一 庄屋与頭・出入者・寺社方不残来ル

八日 庚子

一 江戸飛脚荷物持、半右衛門方へ別紙遣、左ニ

別啓仕候、余寒強御座候処、被成御揃御安全被成御座、珍重之
御義奉存候、其後御伺も不申上候、御持病氣ニ被成御座候由、追々
御快可被成御座ト目出度奉存候、然兼て内願申上候一条、未何
レ共相分不申、尤相分次第可被仰下旨被仰下、難有承知仕候、毎
度御催促申上候様にて恐入候間、差控罷在不申上候之共、朝暮御
左右御待申上候義ニ御座候、一重ニ御取成ならでハ所詮成就も不
仕様奉存候間、何分此上共可然御執成被成下候様奉願上候、何分
可然様奉願候、申上兼候へ共右御問合旁御物入之儀も御座候ハ、
無御遠慮被仰下候様奉願候、右申上度、如是御座候、以上
一 玉泉院来、御札持参、雑煮・屠蘇出候上ニて逢、草紙二冊貸遣
ス

一 岩佐清藏来ル、蛤吸物ニて燗酒出ス

一 式部様へ御着代金百疋・忍冬酒重壺
一 松之助様へ南完画扇子二本

一 奥様へ枝柿箱十五入

一 小石川へ干茸・枝柿七ツ・看代南一・さき干ずいき、木綿糸、
喜兵衛へたはこ二丸、お重へ紅猪口式百文

一 初太郎へ巾着式匁四分、久五郎へたはこ壱丸、伝次へ時雨曲一
藤五郎へ看代南一・枝柿七ツ、娘兩人わけゆひ一ツ宛おせいよ
り遣ス、さき干

一 ト菴殿へ志はまんちう二十入一箱

一 両寺へ茶湯料南一ツ、東北寺へ茶百文分遣ス

一 半右衛門へ志はまんちう三十入一箱、内方へかんたい地一反
幸右衛門へ枝柿七ツ

一 滝瀬へ志はまんちう二十入一箱
一 作右衛門時雨蛤一曲・うるか一猪口

一 信我志はまんちう一箱

一 右貫目四貫九百目有之、増五匁遣ス

一 武右衛門昨日京都より罷歸り候ニ付来ル、雑煮振廻、京都一件申
聞ル、右は色々懸合方六ヶ鋪候処、先々当月晦日迄日延申置罷歸
候由、当晦日頃京都より治平来ル由、夫より三拾金位拵置候様引
合候由、馬淵心底被計不申候由申聞ル

一 長塚・山後・新加納・中屋・松本・下切、年賀返礼小弥太差遣ス

九日 辛丑 雨天

一 加納年頭、駕籠・土産左ニ

一 志はまんちう三十入一箱
一 海老五ツ

一 手遊とら面の根付・おし鳥、おせいより
上々豆太鼓箱入・司馬温公、李太郎より

一 砂糖曲物・かなかしら五ツ、新三郎殿へ
砂糖曲物一ツ、藤四郎殿へ

一 連柿・外郎餅一、林右衛門

一 ぼら一本林治平へ遣ス、右去年以来無沙汰并年賀返礼ニ遣ス
一 右序ニ作州十ヲ入枝柿、水口へ同断、大溝へ志はまんちう二十
入一箱、飛脚屋へ差出ス、帰リ懸切通塩屋并倭風方年賀ニ寄る

一 如例年吉祥院祈禱ニ来ル
一 岐阜陣屋より返書為持来ル

十日 壬寅

一 常貞寺へ庄右衛門代香

一 小弥太古市忠右衛門方年頭立石遣ス、野口行念寺・愛宕玉泉院・
小伊木正法寺、犬山加藤平左衛門方懸物表具頼遣ス

一 弥兵衛罷出、久藏方へ新加納村新左衛門娘、和吉方へ平島村与藏
妹明日・明後日ニ引取候由届出ル

一 常貞寺来ニ付、村方入組心付も無之哉之段、内々及示談

十一日 癸卯 天氣少々霰降

一 年頭為挨拶、孫市来野・牛子・江川辺へ遣ス、并代香申付

一 庄右衛門古市忠右衛門方へ参ル、尤留主の由、帰り次第此方へ来る歟又ハ使ニても差越答
一 三井より年始使奥へ来ル、蛤来
一 黒藏栄藏祝義ニ来ル、與米少々持参泊ル
十二日 甲辰
一 三軒屋いろはや源吾・松本村市四郎来リ、九條殿修禱講当所ニおゐて催度由申来ル、右は村方さへ納得ニ候ハ、当方は内々之事不知形ニても可相済事ニ候間、村方へ納得致候様申遣ス
一 古市場村忠右衛門来ル、明十三日芥見村篠田惣左衛門一堵ニ大津へ罷出候由申来ルニ付、大津御役所へ何レニも三月迄上納延引相願候段、以書中申遣ス、京都馬淵徳右衛門方へも同様日延申遣ス
十三日 乙巳 天氣
一 滝八郎・武右衛門より当年暮方調帳差出ス、并儉約向之儀申談候事
一 今日切通倭風方月初ニ付、源右衛門同道ニて行、供小弥太
一 三井へ奥より祝儀使遣、立石柿・あさり并御部屋へ連栢遣
十四日 丙午 天氣
一 湯立
一 蝶福太夫来ル、数の子ニて屠蘇出ス
一 小弥太少林寺へ代香
一 明日具足開ニ付、庄屋・与頭・出入之者・竜見・弁治・半左衛門・文吉等罷出候様申遣ス、正入義、また他出留故不能出、勘六罷出候様申遣ス

十五日 丁未 天氣少々曇
一 惣方当賀
一 芋島武左衛門来ル
一 庄屋・与頭・出入之者・勘六・当年鶴・浅右衛門・弁治・半左衛門・文吉・竜見、右へ酒等振廻
一 松本村つま・常吉祝義ニ来、右次之間ニて竜見一堵ニもちを酒振廻
一 吉祥院日待、御札并御備持参
一 右女房・北島正入娘祝義ニ来ル
十六日 戊申 雨天
一 武左衛門逗留、伊賀越始
十七日 己酉 天氣風少々吹
一 井戸水悪敷、殊ニ此節旱魃ニ付、裏へ新規井戸黒藏栄藏掘らせ申候、是迄之井戸潰し、右之石ニて組立候積リ
一 月次会初ニ付、厄祝兼雅色二扇意帆倭風其跡来ル
一 武右衛門・武左衛門
十八日 庚戌
一 武左衛門逗留、玉藻前初
一 水口広沢六郎殿来ル、右は旧冬水口之方籬縁ニ相成候ニ付、名古屋原金十郎隠居かゆうト申人之方ニ逗留之由、昨夜加納ニ止宿ニて今日来ル
十九日 辛亥
一 六郎殿逗留

一 京都九條殿御内若菜彈正ト申者来ル、右は村方ニて橋会初度、此間源弥・市四郎申聞候通、今日来ル由ニて、市四郎案内ニて来ル、侍・草履取連来る、菓子一折持参、滝八郎へも同断
一 常貞寺来リ、村方入組も相済そふな様子之由申聞ル
一 小弥太芋島清左衛門方へ内用ニて遣ス
廿日 壬子
一 武左衛門帰ル
一 吉祥院呼ニ遣シ、井戸埋祈禱為致候
一 如例年之味噌煮、兵助・綱平・嶽藏
一 広沢六郎逗留
一 松本村市四郎用談ニ来、浄瑠璃有之
廿一日 癸丑 少々朝之間雨催晴ル
一 広沢六郎殿帰り加納へ被参、合羽貸遣ス
一 味噌燃
廿二日 甲寅 天氣
廿三日 乙卯 天氣
一 長塚青雲齋へ誹諧月次初ニて、源右衛門同道ニて行、供小弥太
一 山東多兵衛姉京参リ、平右衛門倅伊勢参リ、届出ル
一 桃春院信州へ披露ニ罷越候段申出ル、当廿六日過ニ出立之由
廿四日 丙辰 曇
一 常貞寺庄右衛門罷出、村方入組一件少々之所ニて滞候間、夜前断申切候ニては無之候え共、先々手を引可申段申置候、右ハ三株よりは表立候普請と認込度、小株よりは際限も無之義ニ候間、門庇

土台と名乗申度由申ニ付、其所入組候間、庄右衛門加筆ニて、十一月廿五日被仰出御触之趣と認替、右ニて双方納得も可致出来哉ニ付、猶又威光を以惣代之者於当方利解ニも及候様相願候間、此方ニては先ツは村方入組不存振ニ候間、表向呼出候義は難相成候間、内々常貞寺より相願候ニ付役人共心得ニて呼出し、尤内々上ニても沙汰有之候趣咄合候様、為取計可申段申聞ル、就ハ村方申触候普請等之義ニ付下書致一見候所、少々文面不宜候間其段及沙汰ニ候所、追て之事故夫成り致置候事、右ニ付惣代呼寄候所、三株ニて孫四郎・為次・丈助・鶴松・吉兵衛・藤兵衛罷出ル、滝八郎病氣ニ付不能出、庄右衛門より談事遣ス
一 今日井戸少々水出候、また五尺も掘可申旨申居候
一 南町番所之者年賀ニ来ル
一 牛子村富士吉同断、二日・三日頃浄瑠璃ニ罷越候様申置
廿五日 丁巳 雨天
廿六日 戊午
一 多度より南宮へ源右衛門同道ニて参詣、供孫市・嶽藏
廿七日 己未
廿八日 庚申
一 一夜四ツ過頃罷帰ル
廿九日 辛酉
一 右留主中平島より使来ル、右は名古屋へ罷出候間、留主中之義頼来ル、村方入組之義も常貞寺・武兵衛取扱ニて事済、取替せ書付等滝八郎より致一見、名古屋鈴木五平太ト申者来る由、右之義共

日記＝留有之候＝付、留主中之事故略ス
今日（癸）春三斗程申付ル

晦日 壬戌

一 明日客来＝付掃除等致ス

一新餅配り、三井・平島一備ヘツ、加納・武右衛門・元良・村方
庄屋与頭・出入之者・勘六・彦市・繁七・桃春院・吉祥院・常貞
寺・竜見・久昌寺・明智庵・正入・御家中不残

一 小弥太三井・平島・元良之使者、明日御出有之様案内申遣ス

二月朔日 辛亥

一如例年之地祭洲原へ参ル、御初穂金百疋遣、并書状共相渡ス

一 今日平島は名古屋留主ニて不参、太郎兵衛殿計入来麻上下、元良
来ル、武左衛門来ル、此節魚類至て払底ニて、昨日今日両度笠松
喜六来ル、献立左ニ

三方 三ッ組盃

鉢看 井 大こんおろしかけ

本膳 吸物 硯ふた

汁 平皿

香の物 焼物 猪口

坪 飯

二の膳 引盃

生盛 湯豆腐

大盆 井 差身

吸物 湯豆腐

猪口 湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

湯豆腐

<

付、此間庄右衛門差遣候。付、要人より差図にて右々答罷越候、尤右入組始へ上下一条より事起り入組。相成候由、当方より声懸。も候へ。大方落着可致哉。も要人存候由、右之訳ハ極々内々は、於江戸表豊藏義要人相頼候は、此度御用向。付御国へ御登御座候由、何卒出入も御内済被下候様致度段相頼候由、左候へは豊藏方は先納得。も候へ共、繁右衛門方不納得。候え共、外々は大体得心も致候へ共、繁右衛門兎角手強申候由、然共笠田村出入取扱。繁右衛門・沢右衛門懸居候所、繁右衛門発端にて、頭分ハ勿論次百姓之分も、一株一軒宛門建井庇之義は相互ト申事にて、大体納り可申様子。相見へ申候、笠田村も米野村同様之出入。候へは、繁右衛門心なき事は発言も致間敷候間、右之所を以米野村へも懸合候。は、頭分は頭分にて相立居候間、次百姓覺門三軒有之候間右を相建、庇之義は相互ト申事。取扱申度、双方共極々之所は入用方。困り居候趣。候へ共、引クに引かれぬ場故りきみ居候へ共、内証は弱居候事故、大方ハ御威光を以御利解被仰聞候へ、事納り可申哉。存候由申聞ル、尤此方取懸り不行届節は手之引方無之候間、大概済そふな事ならハ取懸り見可申存念。候所、右之趣故先々要人より伺頼、左候へ。十三日。米野村者共呼出可申候間、要人。も同日御出有之候様致度、尤御用向等若之差懸、十三日御積悪敷候へ。明日中御沙汰可被下候、御左右も無之候へ。十三日ト相心得、十二日。は手紙米野訴答方へ可申遣旨申遣ス。一三井より代助ヲ以七兵衛義。付心配之段申越ス。一平島牧右衛門来ル右同様

相尋候所、是以存付も無之段申候間、左候へ。芋島村武右衛門は如何可有之或、幸イ昨日より参り合居、如何哉之段申候間、至極可然段申候間、右之趣当人へも可申聞旨申候、猶又武右衛門へも申聞候所、承知之旨申聞候、尤御差図を蒙り御使者可仕旨申聞候。

一武右衛門来、昨日米野村へ沢右衛門同道にて罷越、繁右衛門。致對談候所、兎角手強申候、乍然門一件之儀は四郎右衛門門をた。ませると。候出入。また外之者共迄も門を建させる事ハ不相成候由申候故、成程左。も有之候え共、明和酉年御触之趣。ては頭分も不相成。様方頭分たりと言へとも御触は背ひてもよいと言頭分ハ不承、又勘定一件は此儘打捨。相成候てはこもらの道理。相聞へ、末代職名は不通候、右様之御取扱は不心得候間、何レ御料被下候様致度段申候由。付、武右衛門より懸合候は、右御料之出来候事。は所詮不行、又行届。致候ても、黑白相分ケ候上ハ御仕置沙汰之事、左候ては取扱之趣意無之、以後之所を取極さへ致候へは宜。ては無之候哉之段及懸合候所、少々小首傾候由、何レ明晩右之一件。ては無之候え共惣寄致候間、右之段惣方打寄相談可致候旨、繁右衛門申聞候間、左候へ。此書付を以御示談可被下段申置、夫より東組へ参り、右は始末相咄ず、追て可申談旨計申置、又々明後十六日四ツ時罷出候等。て引取候由申聞ル。一平島・三井村役者人ツ。明日江戸立。付為見廻来ル。

一明十一日大盤若。付少林寺へ御経井諸色取。遺ス。一村方も申聞候様申付ル右大盤若之事也。一七兵衛井親類之者共内々呼出江戸差下シ候。付村役等入用義差出し候様請印申付ル。

十一日 癸酉

一大盤若執行。付、野口村大樹寺・大野村慈得寺御隠居・少林寺和尚井御小僧兩人・新加納東光寺・小網村権音寺・桃春院・小佐野普文庵・村役・出入之者・竜見・おるん来ル、明智庵勝手取持ながら罷出ル。一村役共差添江戸下り之義、旅用取賄方六ヶ敷候由。付、七兵衛井親類之者共持高・居屋敷・家財・山林・控地等、親類より村役へ相頼、引当として金子取賄候様申付ル、此上何程入用懸可申哉難計候間、当人。て不行届節は親類之者共致割賦、夫上不行届候へ。村方へ相懸候儀、御定法之事得と取調候様申付。一安田要人来ル、井中野村沢右衛門来ル。

一米野村訴答四人罷出候。付、要人談之上於使者間達、尤要人も同席へ出ル、永々出入氣之毒。も兼々存居候所、今度主税様御家来要人よりも当方差添候様被申候。付、今日相招申候、何レ入組候事之由及承居候事故、中々此方式にて行届義。ハ有之間敷候へ共、夫々趣立之上可及懸合候間、了簡。難あたいかたき事ハ、身不肖ながら主税殿某。任かせ了簡致候様申候、沢右衛門。も逢、此度中度々相見太義之段申述、擬又要人とのより今一人差添候様被申聞候え共、差当り存付も無之、沢右衛門存寄も有之候哉之段

同廿五日 丁亥

一加納祭え太太郎同道。て行、いか五ツ宛安池二軒へ遣ス、せんべい袋。からくりはりこ獅子・名酒一壺致持参候、両安池。て馳走有之、夫より森八・式藏同道。て天神へ参り、帰懸岩井屋へ立寄ル。

同廿九日 辛卯 天氣

一源右衛門・お盛岐卓祭り見物遣ス、供みと孫市・綱平。

一山屋弥兵衛罷出、卯藏娘縁付候由、附は卯藏方絶家。及申候、如何可仕哉之段申出候間、男子も無之女子之事、弥兵衛心得次第。

取計候様申遣ス、井新兵衛悴野村 養子届出ル。

二日 癸巳 曇少々降

一常貞寺罷出、今日より七日之内客僧招請。て法談有之旨申出ル、尾州東川村真入寺住寺之由。

一夜四ツ頃庄右衛門罷帰ル、大津返納分二口之内、八ヶ年済之方元利上納致シ、古証文請取来ル、井三拾兩去酉年元利八兩余上納受取書来ル、新拝借七拾八兩相済、右之内。て取計、尤宿場金也。

三 甲午 曇昼前雨降

一例之通庄屋・組頭・出入之者・勘六・常貞寺親子・吉祥院・庄右衛門・小弥太・孫市斎、表。て御礼、半左衛門・文吉・おるん・おとや・おいと・秀之助・おとら・竜見・千代吉・おみ・輪子供三人、外。元藏娘之由一人召連る、喜左衛門娘離拝見願。

六月朔日 曇晴る。

土用見廻消息終り、太閤記初編卷之第十一五丁、写、村方御殿池さらへ滝八郎出役、今尾茂左衛門来り酒盃を傾餐す、夜、入り村の役人呼出、是ハ葭池さらへ此方へ沙汰、およはす新加納願出候、付、此頃雨乞之節も申出す、付、其節以後之所心得候やふ申付置侍りしに、間もなく差越願致段いかゝの心得やの旨、滝八郎ヲ以申聞候、雨乞も願出候へとも、是ハ此頃勝手、致し、此節出願心よからず、この義も申聞候、三井より来ル、左、

平島・此方連名ニて書状来ル、右は添書相願候之旨申越、文略一筆致啓上候、向署之節御座候え共、弥御堅固被成御勤珍重奉存候、然は拙者妻縁之義、江州彦根家中沢村外記妹縁組致度、依之別紙を以御願申上候間、宜御取結被仰上可被下候、右願之義同苗嘉兵衛・佐左衛門へも相頼呉候様相頼申候、何分可然御取成可被下候、奉頼候、恐惶謹言

六月

坪内太郎兵衛

居判

前野半右衛門様

二日 曇晴る、

一 右之書状認、外ニ平島へ之一封認使遣ス、右使帰之節平島より茄子到来

一 村役人共不念之義ニ付、滝八郎より詫申出候へ共、此間不埒ニ付以後之儀急度相頼候様申付候間もなく候事故、難聞段申聞候所、無程竜見相頼候由ニて同人来り、御隠居様へ御願御言葉添ニ付、

遣候処、今日は当番之由ニて明朝ならてハ得参間敷段、内義より申越候間左候と心得居候処、無程被参、只今宿迄用向ニ付鳥渡参り候所、御出之由承候間、直様参上致し候旨被申聞候間、外之義も無之、今度少々用事ニて罷出候、御用人中御月番は殿方ニて候哉ト相尋候処、則主人権十郎之由被申候、然は願度義有之候、当年知行所早魁ニて此節甚金先差支、無抛、尾州様へ拝借願ニ罷出候、何レ御用人中御月番之方ニて御取扱之事故、幸ひ権十郎殿御月番ト御座候ハ、猶更之義、何卒斎藤勝之右衛門へ可然導御頼申度段談候所、左候ハ、今晩罷越し可致内談旨申、勝之右衛門宅へ参り呉候て、暫程有又々被来申聞候は、勝之右衛門義幸在宿ニて、仰之趣談候所、勝之右衛門申聞候は、明日ハッ頃屋敷へ御出御座候て被仰込候方可然、尤御出御座候ハ、何レ罷出御目ニ懸り可申、御出御座候ハ、御格式も可有之候間、申上候も恐入候え共、御内々御出府ト申儀ニ候ハ、表玄関より御出之儀御止メ、内玄関より御通り御座候へは小座敷へ御通し申、勝之右衛門即刻罷出可申候、勿論右之儀は思召次第之事ニ御座候え共、心付候事故申上候、何方より御出御座候ても同様之事ニ御座候間、此義は此方存寄次第ニ可致段申被越候、就て鳥渡口上御手控同様御願御認、御持参之方可然段被申聞候間、大ニ御世話奈、何レ内々出府之事ニ候えは手輕之方可然候間、若党老人・草履取計り召連罷出可申段申談、酒等申付相振廻、清七郎罷帰り候、翌日草履取大津丁坪内ニて御借り召連候、編三本代九百三拾六文、右為持先へ遣ス、御門迄参、清七殿ニ逢度由申頼候様、使之者ニ申遣ス、夫より肩

其意ニ任かせ差免、書付取之、尤組違之義向後其組庄屋へ及相談可申旨付ル

一 暑氣見廻書状并太閤記八九丁写

三日 曇晴る、

一 太閤記十五丁写、暑氣見廻書状認

四日

一 筆致啓上候、向署之節御座候え共、弥御堅固被成御座珍重之御義奉存候、然は私義知行所七兵衛一件ニ付差控内々奉伺候所、其儀ニは及不申候由御細輪被下、雖有奉存候、御手前様御取成故ト忝奉存候、右御礼申上度如此御座候、御序之節可然御沙汰奉頼候、恐惶謹言

五月廿九日

坪内嘉兵衛

前野半右衛門

五日 空曇夕方少々降

一朝の間土用見廻消息書、琵琶館ニ至り短歌一卷綴り、夜ニ入帰宿、今宵ハ甲子ニ付浄瑠璃有之、武右衛門猿廻し太功記十日目語る

六日

一 大山へ暑氣見廻書状遣ス、半左衛門奇人傳三丁続書状認

七日

一新加納・切通・加納・岐阜書状遣、半左衛門・三井・平島来臨、茶道相勤メ、晝暮有之、夜ニ入帰り

一 十一月廿七日名古屋へ罷出、即刻河井清七郎方へ参り可□□孫市

衣ニて滝川屋敷へ罷越し、内玄関へ参り、上り候て案内を乞候所、取次罷出、勝之右衛門殿御結合御座候ハ、御目ニ懸度由申込候所、こなたへ御通り可有由ニて、直ニ小座敷へ罷通、茶・たはこ出、無程勝之右衛門罷出、時候挨拶終て願之趣申述、口上書持参致候、御一覽之上相分不申候ハ、御加筆も可被成下旨申、差出候、文面左、

口上之覚

一 当夏知行所至て之早魁ニ付、田方植付出来不仕、時後レ候てケ成ニ植付候分も実入不申、田方物成百三拾石程皆無ニ相成、難渡仕候、元来不勝手ニ付、公儀御代官所ニて取扱候名目金等拝借仕罷在候処、当年米納無御座手操致方無御座、知行所百姓逆も難渡之年柄、才覚不行届、誠ニ太切之御金拝借仕居、返納方差支候てハ家名ニも相障り候程之義、心痛仕候、依之不顧恐、御憐愍御敷申上候より外無御座、此度内々出府仕候、御取成ヲ以金子百両拝借仕度奉願上候、何卒御聞濟被成下候ハ、難有仕合奉存候事

文化十一年十一月廿八日

坪内嘉兵衛

右杉原半切、上包大半紙、上ニ口上書、下ニ名前相認候勝之右衛門一覽之上、何ニも可申達候間暫控候様申候間、先刻御看進上仕度、清七郎迄頼置申候、可然頼入候段申候所、承知之由ニて退キ、暫程ありて罷出申聞候は、御口上之趣権十郎へ申聞候所、甚寒之節御安全被成御座珍重ニ存候、見事之御看被下忝、且又御口上書之趣何レ同席共とも相談致御答ニ可及、今日御目ニ

も懸り申度候へとも、只今御用向取懸居候間、御目懸り不申候段、宜可及御断旨被申聞候、就はいつ御引取御座候哉之旨被申聞候間、右願一条付罷出候事故、逗留仕候て相分り候義も候ハ、逗留可仕候え共、可相成候ハ明日も引取可申、又候御用之義も候ハ、清七方迄成り共御沙汰御座候ハ早速罷出可申段申述候、追て勝之右衛門申聞候は、先達て内々被仰聞候御文通文面之儀、権十郎へも申聞候所、同席共へも被相聞候所、右之儀此方て何之御趣意も無御座候義、中納言様初て御入部之節、諸家御改御座候所、御相当之御取扱方は迄不吟味付、御不相応之御方も有之付、御改格被仰出、江戸表より調申参り候て相改り申候、勿論右之義被仰立候義は不宜候間、両三年も立候ハ、権十郎心得方も御座候間、先々此節不被仰立方可然、尤先達て書付下り居候へ共、何レ御出府之節御目懸り可申上ト延引仕候、則演説計ては御同家様へ御通しも如何故、書付御渡申候段被申聞被相渡候、右書付左

先達て御応答方相改候義付、追々御申聞候趣致承知候、右は先般吟味之品有之相訂候義候えは、仍御頼復已前候てハ外差響之筋も有之、旁御申聞候趣乍氣之毒取扱難致候、此段太郎兵衛方佐左衛門方へも宜御通達有之様致度事

九月

右書付相渡候間、段々懸御世話奈、私は勿論同苗共も達て申上候義は無御座、只々先達ても申上候通、何ソ御氣障之義も可有之ト其段恐入候義て、全御文面之義被是申上候義は毛頭無御

座候、仰之趣同苗共へも可申聞段申述引取候、勝之右衛門玄関迄送、夫より帰懸清七郎方へ挨拶立寄、其夜清七来り看二種持参故、又候酒出し候て何角相頼申候、翌日勝之右衛門へ一盃振廻何角咄可致段約束致遣ス、翌日清七より手紙て勝之右衛門夜前之趣咄候所、今ハ頃ならでハ用向之模様も難計候間、ハ頃家来勝之右衛門宅へ承遣候様、勿論清七よりも勝之右衛門へ一封為持差越候間、右刻限乍礼勝之右衛門宅へ参り致対面、猶又先達て平島拜借相叶候事共色々咄、委敷頼置、扱是より御出被下候ハ可致御同伴、尤清七郎よりも手紙差越候、御用透も候哉ト相尋候所、今日は無抛親類共罷越候間、乍残念御断申上候、何卒重て御供可仕段申候間、左候ハ又々重て之儀ト暇乞致し引取候事右書付平島・三井へ遣し、写取之上此方へ返り候

(表紙)

文化十二記録

納戸方

甲乙丙丁戊 己庚辛壬癸

- 一名古屋拜借願返書之事 一 滝八郎小弥太遠州・勢州帰宅之事
- 一片岡身分之儀 一 付入来 一 水口より金談之義 一 付入来
- 一 釈加仏誂之事 一 今尾茂左衛門死去 一 付使者
- 一天神僊宮之事 一 日光御法事一件
- 一村方岩治へ手当之事 一 少林寺御位牌御拝礼
- 一加納参府 一 付来状 一 伊勢一身田借入一件
- 一 尾張様御在着祝書 一 木曾川殺生之事

(正月)
三日己丑曇少々雪散付

一名古屋滝川より白木状箱来ル、右は旧冬申込候拜借金之義断申来ル、左

袖 坪内嘉兵衛様 滝川権十郎

以手紙令啓達候、然は当夏御知行所干損等て、御勝手御不如意付、御借用金之義先頃段々御申聞之趣、江戸表へ相達候處、御難渋無余儀次第ハ可有之候えとも、於当家も従来勝手向不手操之処、近來別て物入等多く難渋之時節付、公辺えも被申立、當時格段省略年限中て、諸向附届等之儀ハ猶更敷被相断候程之

儀付、近頃氣之毒ハ被存候えとも、無抛被及御断候、此段為可相達如此候、已上

十二月廿七日

四日庚寅曇少々雪降風烈

- 一 滝八郎遠州て宿松田屋忠兵衛方へ参り、手代勇助達、何角相喃色々頼候處、何レ元金丈ヶハ新拜借御願之方可然、忠兵衛へも可申聞由て、其後忠兵衛も逢相頼候處、可模通由て証文等取調、左右相待候處、廿九日夕方漸々相済、金五拾両新拜借相済、右之内て元金四拾両、利分は持参候故式拾貳両、都合六拾貳両相納、夫々致挨拶、入用金謝礼計五両貳分程入用之由、右荒増留置候
- 一 少林寺和尚入来、栗一袋・扇子箱一ツ持参、表て雑煮・屠蘇出シ、奥へ通り潤酒て盃、下々は茶凌、小僧へは雑煮・屠蘇出候事

- 一 半左衛門大山使、山岡・榎本へも遣ス、妙海寺へ年礼口上て申遣ス須麻都へ連柿二れん遣ス
- 一 小弥太七ツ頃勢州より罷歸ル、お林御役所おゐて御向有之候由、併利納て証文御引替相成候由申聞ル
- 一 武右衛門義、旧冬少林寺へ渡金之内、自分入用遣込候由て、少林寺より懸合有之候え共、不相渡候付、元日より三日迄日々少林寺より使僧庄右衛門宅迄参り候由、仍之昨日も半左衛門芋島

へ寄候え共不相渡候。付、今日参り候様可申遣由、庄右衛門申聞候間、何レ呼。遣し可申段申聞候。

一東光寺使僧 一西養寺 一明通寺 一松本定兵衛

十日丙申天氣

一庄右衛門常貞寺へ代番

一小弥太小伊木より鶴沼野口辺へ年頭使者、供役

一斎松本迄遣、昼後弁天迄供

一岐阜より足輕使来ル、受取遣

一片岡勘兵衛来ル、右は当年江戸表へ罷下候。付、窺書文言富三郎

下書認候所、少々手尔葉氣。入不申、其訳は私幼少より式人持扶

被下無役。てと有之、左候ては勘兵衛より始候趣。聞へ、右式人

扶持は家。付候事故、其所薄相成。付、相談。米、右は富三郎へ

無腹藏其段相談有之方可然旨申遣ス

一武右衛門昼後松本へ行

一常吉年頭。来ル、太閤記九編十五冊貸遣ス

十一日丁酉七ツ頃より雨少々降

一孫市江川・牛子年頭使者、供役老人

一滝八郎印食年頭使者、供老人

一山御墓へ参詣、奎太郎・源右衛門同道、庄右衛門・忠藏・肇供

一兵左衛門より鴨雄一ツ貰

一看屋多兵衛来ル、独活五本持参、剃身五合買上

一米野村福藏寺年頭入来

一小柿村小平治来、菓子折持参、留ル

一小弥太出勤

一忠藏松本へ綱糸壳。遣候所有之、常吉。て昼てん借来、夕方新田

へ又糸壳。遣ス

一三井より年頭使、蛤・串柿来

十二日戊戌寒風烈

一庄右衛門出勤 一少平治逗留

一諦定年頭。来ル 一小弥太髪髻。来ル

一加納安池へ金談之儀。付使遣、役清左衛門、右金十三日か十四日

取。遣し候様申来ル

一顯赫来、燈籠会絵頼。来

十三日己亥天氣

一早朝及村安兵衛方へ行、供小弥太・綱平、彦之丞へたはこ入遣ス

代四又五分、菓子折并肴笠松。て誂遣代三百五十文

一滝八郎出勤 一大工作右衛門来、仕事。懸る

一昼後小平治帰ル 一夕方水口より兩人来ル、右は一身田金口入之

者之由、足立より書状持来、庄右衛門方。止宿

十四日庚子朝雪又雨降昼後より天氣

一水口より之者庄右衛門方。逗留 一庄右衛門出勤

一蝶福太夫如例年来ル 一芋島村藤九郎年頭。来ル

一古市忠右衛門年頭。来ル、并。水口より之人。金談有之旁々来

一源右衛門大山へ行、供孫市

一山岡久米之助来、蛤・ヲゴ・忍冬酒持参、夜。入帰ル

一顯赫来ル

十五日辛丑天氣

一惣方祝義滝八郎・庄右衛門・小弥太・斎

一庄屋・与頭・出入之者、例年通具足鏡開。付酒振廻、勘六鶏、勇

八・半左衛門・清左衛門取持、牧藏。当病。て不参

一竜見来り酒。しるこ振廻、常貞寺同断

一常貞寺楚境来

一おるん・おりせ・おとや・おいと・おとら・肇・弥作方はる来ル

一源右衛門義加納へ行、供孫市

一水口より来り候者逗留、兵左衛門・庄右衛門方へ参り致対談、金

五百両拝借之義相頼候処、何レ相働可申趣申聞ル

一芋島村定藏夜。入、源右衛門同道致ス、時雨始持参

十六日壬寅天氣風烈

一今晚七ツ頃源右衛門・兵左衛門出立。て京都へ登る、綱平事兵左

衛門自分。て連行、源右衛門義へ今年日光へ参向之公家衆。付可

参由。て上京いたす、滝八郎・小弥太罷出、右祝義申聞

一大山大工武左衛門仕事

一忠藏犬山へ木を取。遣ス、右序。城代用人中へ返書遣ス

一庄右衛門罷出、孫市ト替ル

一作右衛門昼後來候へ共、木見繼候由

一孫市出勤

一名古屋石屋魚棚坂上り口之由、内野民右衛門同道。て来ル、右は

兼て願候釈迦仏台座三ツ・蓮花座并仏式尺三寸位、都合六尺三寸

程。て代三両沓分。て、此方迄届出来之由申来ル、相談之上可申

付段申遣ス、并玄関前石積らせ候所、巾式尺。て沓両三分程懸り

候由、式台向石三方。て三間と積り九又之由、沓間。付三又積り

ト申聞候、飛石あかり段巾尺式寸・長三尺堅八寸位。て沓分ト拾

又ト申聞候、何レ。も追て沙汰可致旨申遣ス

一今朝水口より参り候弥吉当方之受宜候。目録金沓両式人へ遣ス、

弥吉義此方へ参り候。候様庄右衛門申候。付初て逢、猶又一件

頼遣ス

十七日癸卯天氣風少々

一大工武左衛門・作右衛門仕事致居候

一忠藏小山兵助方へ上遣り取。遣ス

一加納疊屋市兵衛へ一兩日中参り候様申遣ス、尤疊表代沓分式朱渡

シ来ル、当廿日か廿一日頃参り候様申来ル、夫より岐阜へ遣シ岐

阜。て杉皮と。のへ来ル、使牧藏

一誂詣定日。付、無働寺永田左内・更木甚右衛門・切通新平・細端

。来ル

一門城寺野垣より使来ル

十八日甲辰天氣

一忠藏加納より岐阜へ遣ス、疊弥無間違参り候様申遣、岐阜松坂屋

。てすひつ。取来る

一庄右衛門出勤

一明日若者呼出候様申付ル 一大工兩人共居申候

十九日乙巳天氣少曇

一 芥見月次黙寿坊方へ行、婦懸□藏へ立寄茶吞婦ル、供小弥太
一大工兩人共居申候 一 滝八郎出勤
一 若者呼出候所罷出ル、右は石屋釈迦仏之義如何可致段申付候所、
右金子差出可申候間、可然被仰付被下候様申候由

廿日丙午天氣暖

一名古屋魚棚西上り口石屋喜八ト申者来リ、釈迦仏申付ル、尤手付
渡し具候様申候え共、出来上相渡可申段申聞、右にて受取、三月
中ニ出来之筈

一 庄右衛門出勤

一大工兩人共居申候

一 今日例年味噌焚ニ付、役方兵助義忌服差支ニ付、民藏罷出ル、是
も差支、磯八来 一加納市兵衛代疊屋来ル

一味増ニ付御神酒遣ス

一大工兩人共在所へ参ル

一 三井より使来、右加納へ対面之義可申込旨申遣候処、二三年も延
引致度由申来ル

廿一日丁未暖

一味増握り子供へ豆遣ス、又々昼後より味噌懸ル、当年は武石之由、
今日も御神酒遣

一大工兩人早朝婦ル、疊屋居申候

一 昼後殺生ニ罷越、小弥太供、肇儀も致供

一大工兩人・疊屋居申候 一 滝八郎出勤

廿二日戊申雨天

一 孫市自分にて大師へ参詣 一大工兩人・疊屋居ル

一 岐阜へ忠藏遣ス 一 庄右衛門出勤

廿三日己酉天氣

一加納新三郎殿入来、久慶・伝四郎同伴、仲藏供、草履取、外ニ吉
三郎・喜兵衛・文右衛門・前野材木屋紋右衛門・芥見卯兵衛来リ、
浄瑠璃有之、吉三郎・卯兵衛止宿

一 岐阜へ清左衛門遣ス

一 滝八郎出勤

一大工兩人・疊屋居、今夜皆々婦ル

廿四日庚戌 雨天

一 庄右衛門出勤

一大工兩人居申候・疊屋居後来

一字兵衛昼後婦ル

一 吉三郎川迄忠藏送り、船にて笠松へ行

一 喜兵衛・十左衛門長屋取繕

廿五日辛亥

一 滝八郎出勤

一大工兩人疊屋作十郎居申候

一 御隠居様・おせい・李太郎、薬師より天神・山墓参詣、供滝八郎・
ゆか

一 武右衛門来ル年賀

一 喜兵衛・十左衛門居申候 一 夕方大工作右衛門在所行

廿六日壬子

一 庄右衛門出勤

一如例年薬師秋葉祭り届出ル

一 昨日御隠居様御参詣之節、薬師庫裏よりあやしき者一人、風俗卑
物着致懷中ふくれ非人体之者戸明罷出候間、近辺之者へ申付、可
致吟味旨申置候所、早速番人ニも申付吟味致候所、怪敷義も無之、
出生上有知之者にて、尤勘当受郡上辺へ罷越、此節近辺へ参、昨

夜ハ須衛ニ止宿致候由、桃春院縁之者故立寄り候所、留主故罷婦
り可申ト戸を明ケ罷出候由申候ニ付、桃春院他行故婦を待受候所、
桃春院罷出、昨日侘体ニ罷出、先方にて少々不相勝止宿致候故御
届も不申上候、右之者ハ存罷在候え共、縁之者ニは無御座、右之
者申趣ニ御座候由申出候、尤其段村方へも申聞候間、今朝送り出
シ遣候由、滝八郎申聞候

一大工武左衛門一人居申候、疊屋昼後婦ル

一 芋しま武左衛門・藤九郎来リ、直様斎方へ行

一 武右衛門逗留

一 滝八郎祖母病氣ニ付尾州へ参ル

一 喜兵衛・十左衛門居申候
一 今夜秋葉ニ浄瑠璃有之ニ付罷越ス、おせい同道、供武右衛門・忠
藏・ゆか、薬師北迄若者向ニ出ル、桃春院にて若者より酒・吸物・
菓子等出ス

一 宮より飛脚来、三州赤坂宿柳屋より之書状来ル、右は古証文封入
ニて来ル

廿七日癸丑曇

一 滝八郎出勤

一大工兩人共居申候、今朝作右衛門来

一 喜兵衛・十左衛門居申候

一 武左衛門・藤十郎来リ、上溜り有之

一 昼後藤九郎・武右衛門婦ル 一 常貞寺来ル

一 中島より人来リ、武左衛門呼ニ来ルニ付、武左衛門婦ル

一 小弥太自分にて新加納へ行、元良方にて丸薬取来ル、三井へも寄

申候、右は今日雅兆参ニ付、此方よりも可参所不参ニ付、断申遣ス

廿八日甲寅雨天

一 庄右衛門・滝八郎出勤

一大工兩人居申候

一 小弥太・孫市・半左衛門当賀

一 平島へ杉の木貰ニ遣ス、使忠藏

一 斎自分にて犬山へ参ニ付、初午買物頼遣ス

廿九日乙卯天氣

一 庄右衛門・滝八郎出勤

一大工兩人居申候

一 昼後武左衛門来ル

一 少林寺使僧来ル、庄右衛門ニ用事之由

晦日丙辰雨天

一 庄右衛門・滝八郎出勤

一大工兩人居申候

一 武左衛門居ル

一 喜兵衛昼前居り広敷直シ

一 明日地祭ニ代参出立ニ付、書状為認、当年ハ茂兵衛・源四郎圖ニ
当り候由、茂兵衛代倅参ル由

二月朔日丁巳天氣

一 壁土揚役彦藏

一 庄右衛門・滝八郎出勤

一大工兩人居ル

一 喜兵衛・久藏来、長屋庇・縁側等直ス

一 小弥太・孫市、稻荷井普請等手伝

一 昼後武左衛門山脇へ行

一 半左衛門・弁治・勘六当賀

二日戊午天氣

一 疊屋市兵衛方へ疊取ニ遣ス、新疊床三疊ト長屋疊宅疊来、便役彦

藏・松右衛門

一 庄右衛門・滝八郎出勤、小弥太・孫市・肇来ル

一 大工兩人居申候 一 初午・付吉祥院来、祈禱有之

一 昼後武左衛門来ル

一 疊屋市兵衛より使ヲ以、作料貸與候様申来り候へ共、疊出来次第可遣旨申遣ス

三日己未天氣風烈

一 庄右衛門・滝八郎出勤

一 大工兩人居申候、先今日切にて仕廻

一 七ツ頃山中隠居入来 一 武左衛門逗留

一 疊屋市兵衛来る、作料借り度由申候へ共、先達て渡金も有之候間、先々不遣、雨天中時分迄出来候様申付遣ス

四日庚申天氣

一 庄右衛門出勤

一 女兩ながら暇遣ス、ゆか義ハ暫やとひ居候

五日辛酉天氣

一 滝八郎当番

一 山中隠居帰ル、堤迄忠藏為送申候

一 米春役才助

一 犬山久兵衛来ル、外郎持参、道具二品預遣ス

一 常貞寺来り、彼岸中尾州稲葉法光寺へ参ル由届出ル

一 昼後御隠居様・奎太郎・お盛、野口行念寺へ開基行念年忌・付、

河野六坊重物左上の御影披露有之・付、参詣供滝八郎・清左衛門・

ゆか・おとら・肇行

一 竜蔵芋貰 一 庄右衛門より同断并ゆて芋も貰

六日壬戌天氣

一 庄右衛門当番 一 武左衛門昼後斎方へ行

一 智光女之儀・付来、同人へ庭之落葉遣ス

一 昼後庄右衛門方行、入廻出来、奎太郎同道

一 少林寺より使僧来

一 滝八郎新加納より平島へ行、右序・来ル十一日大盤若執行之儀申遣ス

七日癸亥天氣

一 滝八郎当番之所、今晚より明日法事・付犬山へ参り度、替孫市出勤

一 名古屋より山崎氏入来、供屯人

一 滝八郎方より温鈍辻夜志并餅卷ツ来ル

八日甲子天氣

一 山崎同道にて平島より三宅・本城へ行、供孫市

一 庄右衛門当番

一 祐左衛門七年・付、香代銀一両、代香庄右衛門申付ル

一 犬山より白木狀持参、足輕使来ル、山岡より来ル

一 加納三河屋林右衛門并市兵衛同道にて来ル、去冬林右衛門義甥嘉藏不埒・付、当春商売も休居候・付、構会取立候間、憐愍之義願・来ル

一 古市辺へ女間合・清左衛門遣ス、以来勤居候きぬ六貫文ならバ可

遣旨、同人母申候由申聞ル

九日乙丑天氣

一 当番滝八郎新加納へ参度由申・付、十一日大盤若之儀頼遣ス、尤

明日諸色取・人足可遣候段申遣ス

一 平島より使来ル、今日鯉殺生有之候間可参由、申来ル

一 滝八郎留主・付、小弥太出勤

一 昼後又々平島へ行、供小弥太・役收蔵、三井へ向参り、太郎兵衛

殿同道にて行

一 古市へ女之儀取極・清左衛門遣ス、十二日・引越ス等

十日丙寅昼後雨天

一 当番庄右衛門

一 孫市掃除手伝

一 岐阜へ使遣ス、役清左衛門、明日調菜方買物

一 新加納へ大盤若取・遣ス、役七人

一 綱平儀京都より帰ル、兵左衛門義四五日も跡より源右衛門并・家

内共来ル由、大津拝借金滞拾八両計、水口にて金子取賄出来、上納相済候趣・綱平尊有之候

一 芋島庄屋角右衛門より使来ル、名古屋用人中手紙来ル

十一日丁卯曇

一 大盤若執行・付、滝八郎・庄右衛門・小弥太・孫市出勤、勝手働

清左衛門、少林寺和尚・慈得寺隠居・法光寺弟子・東光寺弟子・

慈録・祖玄・観音寺・普門庵・少林寺小僧・桃春院・尾州禅源寺

弟子、都合十一人、村役并出入之者罷出ル、竜見へも申遣候へと

も不参、一汁三菜・硯ふた・并出ス

一 御盛物等村役六人・出入之者 半左衛門・并治・家中不残遣ス

桃春院にて打きん借用

十二日戊辰天氣

一 当番庄右衛門 一 役屯人牧蔵、古市きぬ迎・行

一 加納市兵衛より人來ル、安池より之手紙持来ル

一 古市村綱引越ス、半季六貫之極

一 新加納へ大盤若経返ス、役七人

一 元蔵罷出、十五日神楽廻し度、源吉事病氣旁にて御年貢方も少々

明キ候間、若者取持候旨届出ル

十三日己巳昼後雨天

一 滝八郎当番

一 十左衛門壁塗、手伝役屯人

一 米春役屯人

一 村役罷出、先達て村方入組之節難用方出シ不申、甚迷惑之由、御

呼出御座候様申候由、滝八郎申聞ル

一 ゆか儀今日下ル

十四日庚午天氣

一 庄右衛門当番之所、眼病・付、滝八郎出勤

一 三井より使来ル、今尾茂左衛門妻死去・付、悔之儀・付平島へも

申遣候所、先年周右衛門母死去之節清蔵罷出候由、此度も右・准

シ可然旨申来ル・付、同様申遣ス、着用継上下にて可然段申遣ス

一 十左衛門来り壁塗 一 加納市兵衛より人來

十五日辛未天氣

一 滝八郎出勤

一 昼後孫市罷出ル

一 滝八郎茂左衛門妻不幸。付為悔御使者申付ル、着用縫上下、供屯人役

一 市兵衛方より使差出ス、右は旧冬三分渡置候所、今以疊差越不申、其上手間代之儀追々催促申越候。付、右調疊床代并ニ手間代共可致勘定候間、老疊之床并表等差越候。不及旨申遣ス

一 八ッ頃兵左衛門姉并女房源右衛門召連婦ル、土産物銘々え相送候、貝盃・長崎丸菓二箱・するめ、奥へ大茶わん・紅、御隠居様へ味増曲物・みつから・とろろ昆布、おせいへかんざし・はかた人形、李太郎へ覗からくり并竹田人形絵本五冊、滝八郎・庄右衛門・小弥太・女男供へもみやけ相送り候由

一 治郎兵衛来、供屯人、右は京都より同道にて先へ来り、迎ニ人足差出候様先へ可参所、跡ニ相成今日来ル

一 昼後薬師にて神楽廻候。付、李太郎・おせい見物ニ行、供小弥太・おいと・おとら・肇・忠藏、若者より酒・くわし、桃春院よりくわし、おつま・常吉・ゆか・小しゆん・竜見等、くわしくれ候由是より日記は表にて認置事故略ス

廿五日

一 天神拝殿其外修覆有之候処、是迄其儘ニ打捨置候。付、今日右わたまし井湯の花等相催度、尤其段前方ニ申出候。付聞置候所、右わたまし餅十四并備へ一銚・酒一壺差越ス、餅蒔は斎・勘六・肇上下にて蒔候由、右棟札も此度改、当役山本滝八郎・宮川庄右衛門・山本小弥太・安中弁治・長瀬勘六・宮川八兵衛、夫より五十軒程誰一統誰と不残認候由、法印吉祥院神子大衆来ル由

廿六日
一本岡兵左衛門来婦ル、供屯人

晦日

一 兵左衛門長屋へ引越ス
一 俵約向之義改格申付ル、明日より月番相定候様申付ル

三月八日

一 陣屋より廻文ヲ以、西の丸姫君御誕生并御同人様御逝去之由、今八日より十日迄三日之間鳴物静申来ル
一 式部殿改名、玄蕃殿ト申候段為知来ル

同九日

一 江戸飛脚罷婦ル

一 当四月十七日 権現様二百回忌ニ付、京都御旗家并宮様其外御下向ニ付、伝馬方手当村方も願出ル、道中御奉行より之触書村方より借り取、左ニ写置

近衛様

上書

青蓮院様
梶井宮様

日光御参向堂上方控写

六条前大納言殿
甘露寺大納言殿
山科前大納言殿
徳大寺中納言殿
日野中納言殿
四辻宰相中将殿
万里小路大弁宰相殿

御触書

当亥年日光 御法会ニ付、為御用彼地え相越し候面々、領分知行所村々之内中仙道宿々へ定助郷相動候村々之分、当亥二月より七月迄助郷勤高之分不残免除キ申付候間、右高之分は其宿ニ限り惣助郷余荷可相勤候、尤中仙道倉ヶ野より先宿々之儀は、御法会御用難立中ハ、宿助郷出人馬之分へは御手当被下、村々助成共成候間、右免除キ申付候共、自分縁ニ人馬差出候儀は勝手次第之事。候、村々心得違無之様、領主地頭え奉し候間、助郷村々えは右之趣、向々より可申渡間、其旨可心得者也

亥二月廿一日

美濃印

右触書奉行衆より相渡し候間、写遣之候、宿々大切ニ取扱、此帳面式冊共令請印、不限昼夜ニ早々継送、留より触書請印帳共主膳御役所え差出、請印帳は我等役所へ可相返者也

二月廿一日

大岡源右衛門

中仙道宿々 問屋

年寄

庄屋

年寄

当亥年於日光山 御法会ニ付、中仙道宿々人馬難立方之儀、是迄大通行之節当分助郷申付来宿方も、此度ハ加助郷は不申付、宿并定助郷村々役人共差勤キ、最寄村々より雇立可申候、尤前後申合、合宿にて難立いたし候儀は勝手次第、其外渡船川越等之場所も是

又無滞様可取計候、此度ハ御法会御用繼立人馬えは、御朱印御証文之分えは人馬繼立ニ応し御手当被下、賃人馬之分えは一段割増錢被下、右宿々問屋・年寄以下助郷惣代、繼立御用相勤候もの共え御手当被下、宿場諸雜費・渡船川越等之場所も御手当被下候。付、可成丈ケ出情いたし、諸事差支無之様可致候、且宿助郷ニて人馬繼立取計候ニ付ては、出人馬之分え別紙之通御手当被下候間、不益之人馬決て差出間鋪候、繼立候高之儀宿方何程・助郷何程・不足ニ雇之分何程と、繼立相濟候ハ、宿助郷村役人連印書付を以、主膳御役所へ宿繼ニて可差出候、渡船川越も同様ニ可相心得者也
二月廿一日
主膳印
美濃印

中仙道倉ヶ野より本山夫より
加納守山迄
東海道草津より大津迄

船川越場所共
右宿々井
定助郷村々

問屋
年寄
名主
組頭

右触書并御手当帳奉行衆より相渡候間遣之候、於宿々大切ニ取扱、此帳面式冊共請印、不限昼夜早々繼送り、留より触書并御手当帳・

請印帳共主膳正御役所え差出、此請印帳は我等役所え可相返者也
二月廿一日
大岡源右衛門

中仙道倉ヶ野より本山夫より
加納守山迄
東海道草津より大津迄

右宿々

一銀六匁 問屋老人ニ付一日分御手当
一同五匁 年寄老人ニ付一日分御手当
一同五匁 助郷惣代老人ニ付一日分御手当
一錢三百文 馬差老人ニ付一日分御手当
一錢三百文 帳番老人ニ付一日分御手当
一貳百五拾文 助役之者老人ニ付一日分御手当
一金拾兩宛 宿諸雜費として被下候事
一川場御手当之儀、渡船川越等之場所ニ寄り
夫々御手当被下候事

大津より草津迄

一人足老人ニ付

此度被下候分

元賃錢八百匁文

此五倍四百貳拾匁文

一馬老疋ニ付

同断

元賃錢百六拾六文

此五倍八百四拾貳文

草津より守山迄

一人足老人ニ付

同断

元賃錢三拾五文

此五倍百七拾九文

一馬老疋ニ付

同断

元賃金八拾九文

此五倍三百五拾七文

守山より武佐迄

一人足老人ニ付

同断

元賃錢七拾匁文

此五倍三百六拾七文

一馬老疋ニ付

同断

元賃錢百四拾五文

此五倍七百三拾三文

武佐より愛知川迄

一人足老人ニ付

同断

元賃錢五拾文

此五倍貳百五拾八文

一馬老疋ニ付

同断

元賃錢百六文

此五倍五百三拾文

愛知川より高宮迄

一人足老人ニ付

同断

元賃錢四拾匁文

此五倍貳百拾三文

一馬老疋ニ付

同断

元賃錢八拾文

此五倍四百拾六文

右之通被下置候、以上

右は借写置、御通り之公家衆廿二・三日頃追々御通、四月三日例弊使御通り迄引続笠松御役人等加納へ出張ニて、御定之外人馬老人も不差出候由、此度は下々至迄猥々間敷事無之、一統難有かり申候

一四月村方岩治郎義長病ニて、追々親類共助成致候へ共不行届、仍之御手当願出候間、裨老俵差遣候、右親類政藏出ル

一同十四日村役共罷出、来ル十七日ニは伝馬助郷方老万石之分、不残肩休仕、遊可申旨兼て申合申候、右は無滞御伝馬相勤、乍恐万々歳奉祝候心得ニて御座候旨申出る、其節左之書付致持参候

覚

一人足三百五拾七人

老人ニ付玄米老升ツニ代六十文也

此米代貳拾貳貳貳三百八文

一馬拾九疋

老疋ニ付玄米貳升ツニ代百廿四文也

此米代貳貳貳三百七拾貳文

惣ノ貳拾四貳六百八拾文

但シ老高ニ付七貫百文立ニして

此金三兩零分貳朱ト銀六匁九厘

此訳

金三分貳朱ト貳匁九分六厘

山東組御取替

金三分也

西組 御取替

金老高三分ト三匁老分三厘

東組 御取替

右之通り相違無御座候、以上

文化十二年 四月

当番庄屋

茂兵衛印

山本滝八郎様
宮川庄右衛門様

一同十五日於少林寺 御位牌御拜礼御出、尤先年は下々迄茶凌等出候由ニ有之候え共、御備物は御一ヶ所ニて銀五匁ツニ御備之事故、猶又右茶凌等手当無之様納所へ申遣候事、尤前方より御三所御相

談之上右御取計之事、御供方も御徒士略シ

御近習山本小弥太

陸尺 御駕籠 陸尺 御鎗 御長柄

式人 御中小姓宮川孫市 御挾 御草履取

合羽籠一人

少林寺にて御着用 髪斗目長上下

少々誦経有之、此方より順に御拝礼有之、書院にて吸物・酒・硯

ふた・井出ル、夫より三井へ御寄合にて、聊太平之御祝盃有之、

御酒三升平島様・此方、并鯛一枚御両所より御持参

六月五日

一 今日田方無滞植付相済、野遊致段届出ル、去年には引替無難に植

付候段、一統悦候事

一 六月二日尾張殿在着、付、三井・平島は三日・四日にも使遣候由、

当方は七日に遣ス、文面左

一 筆啓上仕候然は、中納言様御道中倍御機嫌克被為成御着城、恐

悦之御義奉存候、右御祝儀申上度、各様迄捧愚札候、御席之刻可

然御執成可被成下候、奉頼候、恐惶謹言

六月十日

御当番

御用人中様

白木状箱上、尾州御当番

御用人中様

(表紙ナシ)

文政四巳年

一 御家督一条

一加納犬山御出入

一 京都御本山同様

一 庄右衛門平島より呼々来ル一条

一 御陣屋被仰達書之事

一 尾州御出入一条

一 御本家へ御家督御礼之事

一 御本家へ被仰達書之事

一 御本家御知行所村役御祝儀申上候一条

一加納へ御使者之事

一 平島・三井村役御祝儀

一加納御使之事

一 右御礼一条

一 庄右衛門辰弥御暇御届之事

一 村役御出入御酒被下候事

一 尾州御出入済来候、付御礼御状之事

一 一糸屋佐右衛門同断

一 芋島又左衛門へ御手当之事

一 山田松木より名代差越候一条

一 芋島村又左衛門御勝手引請証文留

一 一身田へ弥兵衛・弥作罷出候事

一加納安池様御世話向之儀御両家へ御相談之事

一 犬山御城代より挨拶使礼之事

一 主税様へ御頼御状之事

一 御家督御内祝赤飯配方之事

一同御両家様御招安池様同断

一文吉惣吉御墨付之事

一 安池様御法事之事 一 三度目雨請之事
一加納江戸着、付祝書 一大釜吐井下三ヶ村より挨拶候事
一大津金御勘定奉行より御達、付御請書之事 一 夏成金直段之事
一新金御触之事 一 三井御殿飛脚来事
一 并治姉村送り之事 一 御勘定奉行より差紙之事
一 雨請躍之事 一 潤雨、付村方八社へ御礼之事
一 雨請勢州代参 一 木曾川殺生之事
一 保五郎江戸立之事 一 江戸表より御願書御願下、付右御答御状
一 江戸より御先祖より御当代迄御性名御実名御尋、付右御書付并御

書状
一 松原牧右衛門より申願候、付御由緒書
一 三井御殿より飛脚来事 一 尾州草井出願一条
一 江戸来状 一 三井幸太郎様御不幸
一 公儀久姫御逝去穩便之事 一 犬山より鮎粥之儀済来
一 御宗旨証文并御印鑑之事 一 江戸返書
一 信楽へ利納之事 一 江戸書状
一 山田へ書付留并返書 一 一身田へ書付留
一 岐阜備後屋証文留加納永田文通之事 一 江戸書状
一 政次郎様御役人登、付甚七一条懸合一件
一 三井御殿より飛脚、付川辺へ之事状
一 江戸行斧右衛門え金子式両遣ス并亀屋伊兵衛遣候書状
一 山田并一身田え十月晦日切延引断之書状

一 駿州臨濟寺勅化御触之事
一 犬山外町火災御見廻留
一 笠松御役所へ「」罷出候事
一 三井御殿川辺氏加納へ出張之事
一 犬山より御家督御祝儀御使来ル事
一 三井御殿初納之事
一 笠松御役所へ小弥太御差出之事
一 信楽へ利納之事
一 山田松木へ出状之事 一同名代定右衛門来事
一 三井御殿より飛脚之事 一 犬山余坂出火御見廻之事
一 桃春院儀、付土田村報見寺へ懸合之事
一 鷹司様御通行御手当之事
一 桃春院品々什物在り所之事
一 公義陽七郎様御逝去、付穩便之事
一 桃春院後住願之事
一加納江戸参府一条
一 信楽金相滞候、付陣屋より之懸合之事
一 三井初職之事
一 初て雨請之事 一 式度目雨請之事
一 信楽出立并書状案 一 大釜下ノ吐井割合出金
一 庄右衛門方嫁取願一条 一 大津御役所より差紙之事
一 信楽行帰りの事 一 平島様おふう様御帶祝
一 上中屋天神破損取結割合之事

草井村ト前河原一件北方え差出願書

山田え差出願出留 一同松木え遺書狀留

飛州より書狀来ニ付返書 一御勘定奉行より差紙

御片苗へ御本家へ之御礼狀

円満院宮様拝借金一件弥作差遣候一条

飛州より政次郎様一条ニ付来書

秤御触之事 一山田一身田へ書狀留

信楽拝借増弥作差遣候一条

二条御殿より飛脚来事 一一身田より飛脚来事

以剪紙申入候、然ハ殿様御内願御通、御隠居御家督無滞被 仰付

候、御隠居之義ハ祢冬扇様ト候間、右之趣可被成御承知候、依之

明廿六日右為御祝義、御出御座候方可然奉存候、右得其意候様被

仰付、如斯御座候、以上

山本小弥太

十二月廿五日

吉祥院様

桃春院様

常貞院様

久昌寺様

明智庵様

村方へも右ニ順、以廻紙三組へ触出申候、并ニ長頼勘六・同弥作・

同喜左衛門・安中并治一紙ニ申遣、諦定・竜見・芦庵、是又別紙

ニ申遣

一筆致啓上候、其寒之節御座候えとも御堅勝被成御座、珍重奉

存候、然ハ私共願之通隠居被仰付、家督儀倅李太郎へ被下置、雖

有奉存候、依之以来不相替御座等申上度、此段御序之節可然御取

成被成下候様奉頼候、右得貴意度如斯御座候、恐惶謹言

十二月廿七日

坪内李左衛門

下間宮内卿法眼様

下間治部卿法眼様

粟津出羽介様

粟津因幡介様

石井隼人様

一文吉・惣吉御祝儀申上ル

一同廿六日村方庄屋元藏・喜左衛門・弥兵衛、与頭惣左衛門・重吉・

平右衛門、御出入茂兵衛・惣・牧藏・秀七御祝義申上ル、尤

献上物追て差上候段申聞、小弥太麻上下ニて取次

一久昌寺・桃春院・明知庵御祝儀申上ル、吉祥院同断、御酒老升差

上ル

一同五日当殿様御実名安池様へ御頼、則今日印シ来定昌公ト奉申上

候御書判(花押)

一同九日江戸御飛脚ニ付、御礼御狀左

一筆啓上仕候、然ハ今般親義隠居被仰付、家督無相違私ニ蒙仰、

雖有仕合奉存候、右御礼奉申上度、奉捧愚札候、証迄御看一種進

ニ奉申上候通、大塚利右衛門父子へ相頼、最初拝借仕、夫より追々

利納之度毎証文書替候処、利右衛門義致病死、其以前より家来義

ハ地役人ト認差出候処、右御役所拝借金証文模様相替り、地役人

并ニ大庄屋等名目除ニ相成、地頭役人奥印而已ニ罷成候間、家来

義御名内ト相認候訳ハ、先達ても申上候通、公辺向へ書出し候

ハ、御名御知行所前渡村ト相認候様、先年御差図も御座候間、右

之心得ニて相認候、左候えは御名内御家来ならてハ難相濟候故、

相認候儀ニ御座候、右一条其節半右衛門迄返書ニ申上候趣も御座

候、宮川庄右衛門義御構有之者之由被仰越候え共、乍恐御構ト申

儀ニハ無御座、不届御座候ニ付、寛政三亥年十月九日於 御陣屋

古田安兵衛申渡、当方へ御引渡ニ相成、咎等申付候儀ニて、御本

家より御構ニ相成候訳ニてハ無御座候、其節之御記録御料も御座

候えは相分り候儀ト奉存候、其後無人ニ付、以前勤馴候者故、其

日之雇ニ致、召遣申候、全以 公辺偽り候ニハ無御座、乍恐御賢

察奉願上候

一近領障有之浪人等を差置、少林寺齋堂差加、勝手方取扱為致

候由ニて、百姓ともへ無体之用金申付、不承知ニ有之候迎、食

事之心附も無之一昼夜も屋鋪内へ取籠置、百姓共難渋為致候儀

有之趣、非道之事ニ相聞候、浪人共差置候儀不宜旨、両家より

も心付候処、廻縁等有之由申張、不相用段我儘之至ニ候

右浪人義ハ、故障有之尾州名古屋五里四方御構ニ相成候者ニて、

五里余之所御領分中ニ住居仕候ても聊不苦者ニ付、縁家者共内々

被相頼、当時家来ニ召抱置候、其頃同苗政次郎殿知行所世話向も

上之仕候、恐惶謹言

正月五日

坪内李左衛門

参人々御中

一筆啓上仕候、然ハ私儀今般隠居被仰付、家督無相違倅李太郎へ

蒙仰、雖有仕合奉存候、右御礼奉申上度奉捧愚札候、証迄御看一

種進献之仕候、恐惶謹言

正月五日

坪内李左衛門

参人々御中

(正月十日) 乍恐以書付奉申上候事

去冬之御達書十二月廿五日至着仕、被 仰越候趣、私義隠居被仰

付、倅家督被仰付、雖有仕合奉存候、右御達書御ケ条之儀左ニ奉

申上候、乍恐右始末私へ一応御料も可被 仰付義、其儀無御座、

心外之御義ニ奉存候、必竟佐左衛門相巧ニ様々申上候義ト奉存候、

御達書之趣左

山田御役所御貸附金拝借之砌、其元知行所引当拝借致なから、

我等知行所と申立、証文奥印、家来名前我等家来と認出シ、剩

先年不届有之、我等方ニて構申付候宮川庄右衛門儀、一応之断

も無之家来ニ致シ、右証文面え我等家来ト認出シ、全 公辺ヲ

偽り本家ヲ蔑ニ致シ候始末、不相濟儀不埒至極之事ニ候

右山田金拝借、去々春三月廿五日附ニて被仰越趣、四月十一日出

被相頼候間、尚更無人。付召抱候て既。其段御座へも御座旁差
出置候、家来。召抱候者何レ歟浪人。無之者ハ無御座、佐左衛門・
太郎兵衛より差置候て不宜旨申聞候儀も無御座、佐左衛門より
ハ其段申聞候儀も御座候共、右は自分意恨之儀も御座候。付、
筋合相違仕候儀。奉存候間、取用不申候、以後迎も家来召抱候。
も浪人之外町人百姓等。て聞。合不申義。奉存候、近頃尾州浪人
召抱候例も御座候、且又少林寺齋堂差加、勝手方為取計候儀、是
以佐左衛門より申上候儀と奉存候、右は先年中世話向。も相成候
続ヲ以、勝手方及相談候儀。て、勿論僧分之儀俗家世話向等之儀
不行届、少林寺和尚代り。右浪人林辰弥勝手向取計申付候儀。
御座候、然所少林寺名代杯。佐左衛門義常々申触候由及承、是以
筋合相違之儀。御座候、井用金等申付候て百姓共一昼夜も取籠置
候杯。申儀、跡方も無之儀、右は何方より御聞。達候儀哉、急度
御料相請申度奉存候、尤去年中百姓共越訴仕義有之、其段相料候
節、惣百姓之儀大勢。も御座候間、一昼夜も吟味。相懸り候へ共、
其節迎も食事等は差構不申義ハ無御座、元来滝八郎不埒。付暇申
付候一条、佐左衛門申分不筋之義。付取用不申、依之滝八郎へ色々
申付、知行之者共へも様々悪評申聞かせ、愚昧之百姓共相迷わせ
越訴等為致、或ハ私勝手方必至。差候儀ヲ相悦居候様子。て、
勝手方模通附候趣故、浪人等ト申立為引弘候へは、又候私難決。
およひ候儀故、其段ヲ相好候て佐左衛門より色々申懸候儀哉。奉
存候。

一 近來近国へ断も無之勝手次第罷出、身分不相応之行跡有之段

相聞、猶風聞之趣彼是取調候処無相違相聞、両家より意見差加
候儀共も有之処、不相濟事。候。

右一条如何之儀不行跡之段、風聞等御聞。達候儀恐入奉存候、何
様之儀。御座候哉、被仰聞被下置候様奉願上候、且又旧冬廿六日
庄右衛門義佐左衛門方へ差出候様、悴方へ申参り候砌、折節他行
申付、罷歸り候て直様眼病。て引籠居候間、其段以使者佐左衛門
方へ申遣候処、是非共明廿七日庄右衛門井村役不残差出候様申越
候間、愚案仕候処、何様之儀可申渡儀哉、何レ用向之訳等悴方へ
示談も可有御座候、一向無其儀候故、私より以書中申遣候。は、
時節柄。も御座候間、延引之儀申頼候共聞入不申、尤庄右衛門
義ハ廿六日より差控申付、浪人体辰弥勝手引弘申付候、庄右衛
門答之儀は追て悴より佐左衛門・太郎兵衛へ可及相談内存。御
座候、然所当主ヲ差置、一応之子細も不申聞、佐左衛門方。て各
品等申付、村役共へも御達書。無之ケ条ヲ申聞、村役共調印致さ
せ候段、不筋之儀ト奉存候、尤佐左衛門・太郎兵衛方へ御達書之
終、浪人体之もの知行所内へ出入不申様可被申付。有之候共、
此義ハ浪人体之儀哉。奉存候、庄右衛門等佐左衛門方へ相招申付
候様被仰付候儀トハ不奉存候、此段奉伺候、全幼年之悴ヲ穴取、
且は私不行跡之由彼是申立候儀、心得ざる儀。奉存候、悴何之
弁も無御座候間、私より御伺奉申上候、右体之取計向。てハ、悴
ハ勿論家来井百姓とも等、両家支配同様。相成候儀。奉存候、信
実之世話向御座候儀。是迄迎も違背ハ不仕候共、佐左衛門義我
強事而已申聞、筋合相違之儀共も御座候。付、取用不申候故、右

等之儀共心外。存候事ト奉存候、既。今度。ても、差当り月廻之
儀。も御座候間、悴年用意等之差別も相尋可申所其儀無御座、剩
一人役之家来井村役迄も呼寄候儀、無心致方、当主差支も不差
構候段、無情仕方。御座候、是。ても御賢察可被成下候、殊更山
本滝八郎不叶存念暇申付、一統之内勤仕出入とも構申付、其段両
家へも申入置候処、少シ之無遠慮も佐左衛門方。差置候儀、是又
心外之儀。奉存候、佐左衛門逆も不行跡之儀共も御座候、御尋も
御座候ハ、申上度奉存候、滝八郎早々引弘候様被。仰付可被下候、
井。悴知行所之儀当主へ沙汰なく、佐左衛門・太郎兵衛心儘。取
計候儀哉、勿論難心得筋は可申上段、悴方御達書。も御座候間、
乍恐此段奉伺候、尚又相分不申候ハ、蒙御免私罷下り申上度奉
存候、以上。

文政四_己年正月十日

坪内奎左衛門印

坪 左京殿

一筆啓上仕候、然は旧冬被。仰下候御達書之趣。付、奉申上度儀
御座候間、別紙書取奉申上候、乍恐可然奉願上候、右申上度如此
御座候、恐惶謹言。

正月十一日

坪内奎左衛門

坪 左京様

居判

一同九日本家方庄屋、為祝儀罷出申度段、尤此間当村庄屋元藏方迄
申越候。付、則其段申出候間、差支無之候儘、案内可致段申遣候
。付、今日八ツ頃罷出ル、御玄関脇中口より上ケ、御玄関。控
有之、敷居二ツ隔御逢有之、小弥太・孫市取扱、村々より御酒老

斗・鯛廿枚・白へギノ戴差上ル、名前左。

新加納村平 助 長束村金左衛門

小佐野村半十郎
此節大野村兼帯之由

三井村甚兵衛 下中屋村源左衛門

牛子村沖右衛門 松原島村仙左衛門

石田村忠右衛門

江川村久三郎 米野村甚右衛門

中野村久米八

御逢相濟 御酒被下候

拾老入 元藏案内

吸物給 向銘々引置付

三ツ組盃台

硯蓋 九年前
大平 田作

鉢肴 鯛煮付

井 井敷の子

大平 とうふ屋
すゐるめ
千木の子

井 唐からし味増和へ
むき身
大こん

翌十日為御礼元藏出ル

一同十九日加納へ御使者宮川孫市、白木式升樽・鮎鮎七ツ入御進物、
釣り台式人・若党・草履取・挾箱・鎗

口上手控

春暖相催候処、肥前守様倍御勇健被為成御座、恐慶之御儀奉存候、
然は今般家督無滞蒙仰候。付、不相替御出入之儀奉願上候処、御
許容被成下、忝仕合奉存候、右御礼申上度、以使者兩種進上仕候、
此段可然御取成可被下候、以上。

正月十九日

右兩種共岐阜備後屋へ申付ル、加納にて三河屋林右衛門方にて休息、夫より已之助方へ手札・口上書為持遣ス、あの方案内可申旨申越候間待合居候所、沙汰も無之、依之又々申遣候所、今日御出張御座候御役人中病氣之由、旁々手間取、漸々七ツ頃案内有之、御進物釣台先へ釣らせ、玄關前へ釣り寄、夫より兩種取出候所、此方へ通り候様被申候、右は足輕大將新具庄三郎殿ト申仁、御口上相述候所手控有之哉之旨申候間、致持參候段申候所、相渡候様被申候間則渡遣申候、夫より暫待合候所、為御答又々相見へ、余寒之節御座候所御障なく珍重被存候、今般御家督無滞被仰付、御同慶被存候、不相替御懇意被致度、右ニ付兩種御送り忝被存候、此段宜申述候様被申候、夫より暫咄被申、外用向も御座候間引取申候、先矩之通うけ合料理被申候間、緩々休足致候様挨拶有之、被立候間、次之間迄送り申候所達て断ニ付、暇乞いたし相別れ、夫より元之座。直り候所、為挨拶中山九郎兵衛殿ト申仁、吟味奉行之由、盃等出ル

硯ふた 皮裏 かわはこ
あわひい 九年甫

三ツ組盃 けん梅 さいり身
のり

汁 つるな
はんべい

香の物 うり付

めし

引て

平皿 さいり身
さいり身

猪口

さいり身
さいり身
さいり身

坂野三郎兵衛様
神谷新五左衛門様
高田 鏡平 治様

(正月廿六日)

御届書 坪内全太郎 口上之覚

一 去冬蒙御差度候宮川庄右衛門・林辰弥義、兩人共永之暇申付候間、此段御届上候、以上

辛巳二月朔日

一 二月三日惣村方へ御酒被下候、斗樽三ツ凡三斗九升計・鯛二十添惣代三組より老人呼出渡遣ス、村方より為御祝儀金貳百疋差上ル一村役六人・御出入五人・長瀬勘六・同喜佐衛門・同弥作・安中弁治、是又於御屋敷御酒・御吸物被下候、御出入より酒三升、其外銘々老升ツム差上ル

硯ふた 梅干 さいり身
さいり身
さいり身

吸物 いなと

銘々盃

鯛餅

先年は御料理被下候え共、此節魚類弘底、殊ニ御儉約中ニも有之、略致候

一同二日芋島村庄屋より、名古屋御用人中より之白木状箱為持来、右は先達て被仰遣候、御代替ニ付不相替御出入御願御座候所、相

焼物 ひらき

次 盃

平皿 こはしん
さいり身
さいり身

汁 さいり身
さいり身
さいり身

一同日平島村・三井村・中野村・上戸村庄屋与頭、御祝儀ニ罷出ル、酒五升・するめ差上ル、御逢之上御酒被下

硯蓋 さいり身
さいり身
さいり身

鉢 さいり身
さいり身
さいり身

井 さいり身
さいり身
さいり身

皆々はだか踊致候、平島村武源治・彦九郎・三井村喜左衛門

一同日從大山使来ル、出入済来ル

貴札致拜見候、然は旧臘家督無相違蒙 仰候ニ付、右為御飲ニ入御念候預御使札、忝奉存候、右貴報為可得貴意如斯御座候、恐惶謹言

正月

大竹 伝兵衛様

鈴木 彦左衛門様

坪内全太郎

(花押)

貴札致拜見候、然は旧臘家督無相違蒙 仰候ニ付、右為御飲入御念預御使札、忝奉存候、右御報為可得御意如斯御座候、恐惶謹言

正月

坪内全太郎

(花押)

済来ル、渡辺半十郎殿より右之段へ申来、依之右御礼被仰遣、左ニ

貴札致拜見候、然は先達て被仰下候御儉約之儀、去辰年限ニ御座候所、尚此上当巳年より酉年迄五ヶ年之間、是迄之通敝御儉約被仰出候ニ付、諸向一統音物等之儀御断、御附届等は迄之通御省略ニ付、此段御達可有之旨就被 仰付越候、芳札之趣承知仕候、右貴答可得貴意如此御座候、恐惶謹言

二月

坪内全太郎

渡辺半十郎様

書判

覚

一 納米老石也

右は当方勝手向御世話被下、月々定式米金御差入被下候ニ付、為手当被致進入候、依之以書付此段申入候者也

文政四年巳年二月

坪内全太郎

宮川 孫市

山本小弥太

芋島村

又佐衛門殿

糸屋方へも手紙遣、左ニ

以手紙致啓上候、余寒退兼候え共、弥御堅固被成御暮、珍重奉存候、然は追々御厚志御世話被下候ニ付、当且那井隠居義も被致大慶候、右ニ付寸志被及御挨拶度被存候えとも、当時之勝手向不行届、乍微少納米老石被致進入候間、御受納可被下候、右之段宜申

入候様被申付候間如此御座候、以上

二月八日

宮川孫市

糸屋

山本小弥太

佐右衛門様

右両通、庄屋喜左衛門方へ七日夕為持遣候

一同八日夜山田松木より後藤弥三右衛門ト申仁来り、半左衛門方ニ止宿、翌九日孫市・喜左衛門罷越及懸合候処、色々六ヶ敷申聞候処、庄右衛門義此節留守ニ付、尤金子取賄ニ罷出候段申述、帰宅迄及断、尤右不調之節は麦納引当候段申候処、致承知、尤弥三右衛門より敷敷被申聞候段、返書ニ申遣候様申聞候間、引取右返書遣、左ニ

御手紙致拜見候、如仰追々暖相成候処、弥々御安康被成御座、珍重之御義奉存候、然其御役所御用金利分不納ニ付、旧冬より度々被仰下、尚又脇田伊右衛門殿ヲ御差向之節、御駈合申候義致相違、御役所表被仰上方無御座候段、御尤奉存候、依之此度後藤弥三右衛門殿御差向被下、尚又御同人よりも敷敷御駈合御座候て恐入奉存候、此節庄右衛門義少々金子取賄候手筋御座候ニ付、右方へ罷出居申候、依之私共打寄評義致候ても不行届、勿論留守中之儀何方 御役所より御駈合御座候共、帰宅迄御延引相願候様申置罷出候、何レ帰宅迄御猶予被成下候様、精々弥三右衛門殿へ御頼申候えとも御承知無御座、依て色々御頼申、若々金子相調不申候節は庄右衛門其御地へ罷出候様可仕候間、左様御承知被下候様

御頼申候間、此上 御役所表之儀可然奉願候、書余之儀は弥三右衛門殿ニ御聞可被下候、以上

御扶持米并金子借用証文之事

一米貳拾石也 但シ二月より十月迄月々御渡可被下候利足之儀は金老兩ニ付老ヶ月ニ平均銀八分宛

一金子拾兩也

右は地頭所より勝手入用、扶持米貳石・小遣金老兩宛、月々村方より調達仕候様ニ被申付候処、百姓方ニてハ不行届、貴公様之御頼入申候処御聞届被下、月々無指支右定式之通御差入被下、則返済之儀は二納米五拾石相納、急度相送り可申候、直段之儀は村井ニ御仕切被下、指引残過金之儀は御差戻シ可被下候、併患年ニて田物成不作仕候て右引当米不足仕候ハ、畑方金納を以右諸勘定可仕候、就は地頭所より万一如何様之儀被仰出候共、私共より其筋ヲ申立ニは仕間敷候、此上村方役前之者とも相替り候共、新役之者共より此書面ヲ以急度御勘定可仕候、然上は右引当テ二納米、何方へ成共御勝手次第、此手形ヲ以御売払可被下候、二納米相納次第御指図之方へ附払可申候、為後日之証文仍て如件

文政四年二月

前渡村

百姓代 治右衛門

同 孫四郎

同 定 八

同 丈右衛門

同 惣左衛門

芋島村

又左衛門殿

相渡申一札之事

一当已御勝手方御定式米金之儀及談事候処、村方ニて相調不申故、芋島村又左衛門方へ談事有之候処、月御定式御難用方調達致給り候由、致承知候、出金相当分は勿論二納米五拾石相渡可申候間、過不足之儀は其節無差 支取遣り可致段、承知致候上ハ、収納次第落札直段ニ仕切勘定可有之筈ニ付、其段申出次第送り書差遣し可申候、且又左衛門方調達金利足銀均引合之儀、是又致承知候、右は収納先キ到達變為無之、一札相渡置候処仍て如件

同 重 吉
庄屋 弥兵衛
同 元 藏
同 喜左衛門

表書之通相違無之者也

坪 李太印

御印形未御調無之ニ付、御隠居御印御用御座候

文政四年二月

宮川孫市印
山本小弥太印

前渡村
庄屋 喜左衛門殿
同 元 藏殿
同 弥兵衛殿
手頭 重 吉殿
同 惣左衛門殿
同 丈右衛門殿

一二月十三日村役共安池様へ罷出候所、三井・平島より御頼も有之候ハ、御世話向も被成下候趣ニ候へとも、此節之御間柄其段難被仰遣、依之左之通被仰遣候
以手紙致啓上候、追日暖相催候所弥御安泰被成御座、恐慶之御義奉存候、然其私勝手向御承知之振合ニて甚に迷惑仕候、依之今度代替ニも御座候間、格別切替申付度奉存候、就は加納表安池新太郎へも及相談候所、御両所様差置候て世話向仕候儀も如何敷段、申聞候間御相談申上候、御両所様思召も無御座候ハ、安池方へ申頼度奉存候、依之御相談奉申上候間、御返書被成下候様奉願上候、右申上度如此御座候、以上

二月十五日当賀

坪内李太郎

坪 佐左衛門様
坪 太郎兵衛様

一筆啓上仕候、追日暖相催候処弥御安泰被成御座、珍重之御義奉存候、然其旧臘私儀隠居被 仰付、悴家督無滞蒙仰、難有奉存

候、然ル処、山田御奉行所拝借金一条、其外不埒之儀共本家へ相聞候由にて、隠居之上知行所限他出御差留之段、恐入相慎罷在候、尤御達書之内一向跡方も無之儀共御座候間、其段当正月十一日出、以書付本家へ申上置候間、御料も被成下候哉、も奉存候、何レ私義知行所限他出御差留にてハ仏参も不相成、甚以歎ケ敷奉存候間、先祖之命日井、弘参之儀御免被成下候様仕度、此段乍恐本家へ御託被成下候様奉願上候、尤恐入候え共、外へ相頼候方無御座候間奉願上候、何分可然御歎被下候様奉願上候、右申上度如斯御座候、恐惶謹言

二月十六日

坪 主税様

坪内左衛門

一二月廿一日赤飯蒸、白三斗
配方左

岐阜糸屋佐右衛門 安池新太郎様 同 □ 様
平島様 三井様 今尾周右衛門殿
同 和作殿 同 半内殿 河田唯右衛門殿
片岡勘兵衛殿 少林寺 岡崎芦庵
芋島村藤十郎 松原牧右衛門 加藤辰右衛門
平島村源助 上中屋上徳坊 下切村玄仲
菊谷竜見 当庄屋 喜左衛門 同 元藏
同 弥兵衛 同 惣左衛門
丈右衛門 安中弁治 山本小弥太

宮川庄右衛門 吉祥院 常貞寺
桃春院 久昌寺 明智庵
御出入 門右衛門 同 市兵衛 同 紋右衛門
秀七 同 牧藏 同 七郎
和吉 勘六 半左衛門
文吉 惣吉 松本村 弥吉
弥作 おつげ 諦定
△四拾八軒 外利助・長へも遣
一同十九日名古屋へ御飛脚、右は去冬御持参金残老兩式分之所、此間山崎様御出之節老兩渡シ、外へ老分お盛様御染物代、△老兩三分利銀十二・正・二、三ヶ月分四匁式分、外金老兩は離代、三分糯米代老分ト毛氈老枚、水引板△て八尺、右被遣候、序△御家督御内祝赤飯山中様・矢島様・林様へ被進候、右為御祝儀、矢島様酒三升、山崎様より上溜り式升来ル
一同廿八日御家督御祝儀△付御両家様御招、尤廿六日以御使者被仰遣、小弥太相勤
佐左衛門様・太郎兵衛様・吉九郎様・新太郎様・三郎左衛門様・常治様・加藤辰右衛門、牧右衛門義風邪△付断於御表御座敷△
長駈斗 三ッ組盃△御吸物
硯ふた 玉子 皮茸 九年前 さんかん

三玉酌
本膳 鮎 鮎 鮎
鮎 鮎 鮎

汁 菜 菜 菜

下

焼物 焼物 焼物

坪 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

飯

焼物 焼物 焼物

汁 同断

引て 平皿 大椎茸 三ツ葉 いくわ 猪口 青あへ

猪口 青あへ

平 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

飯

焼物 ばら切身

酒肴 鮎 鮎 鮎

井 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

飯

右相済、奥へ御通り
御菓子 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

次待分

覚

長のし

硯ふた

文 吉

吸物 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

井 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

伊左衛門

鉢肴 鯛 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

井 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

伊左衛門

大平 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

坪 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

文政三年極月 坪左左印

文吉父子へ

吸物 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

坪 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

覚

文 吉

差身 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

平皿 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

源右衛門

吸物 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

坪 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

文政三年極月 坪左左印

文吉父子へ

吸物 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

坪 さんなん 竹わ 皮 さんなん 竹わ 皮

文政三年極月 坪左左印

文吉父子へ

窓吉父子へ

永井七郎

其方事、親七兵衛不埒後平百姓に付置候処、親類共よりも常貞寺ヲ以相願候に付、由緒も有之に付、此度改先矩之通申付候、以上

文政四年己卯年三月

一 同十一日夜三井御殿より飛脚来ル、先達て川辺氏加納宿へ出張之節、先月切不納之分可致上納旨被申聞、則請書差出置候に付、今度差紙来ル、当十七日迄判人共罷出候様申来候に付、川辺氏へ書状遣、左に

以手紙致上候、暖和相成候所御安泰被成御座、珍重奉存候、然其御殿御貸附利納不納に付、当二月於加納邸得尊願大慶仕候、其節申上候詔合難決奉願候処、御猶予被成下、先月晦日切返上納可仕旨被仰聞、其段以書付御請申上置候処、其節も申上候通、代替に付何角混雜仕、勝手向格別切替被申付候に付、取統方等取極、其御殿始其外拜借方等之取調も仕、是迄等閑之取計方に付、此上御苦勞筋相懸ケ不申様仕度、彼是内輪相談取極に相懸り居、右御日限延引仕、今度御差紙御差向被下、猶更恐入奉存候、無左共内輪取極も出来仕候事、御座候へは、金子才覚仕、一兩日中罷出可申旨、兼て村役共へも申付置候間、御差紙御日限以前にも罷出候様可申付候、右可得貴意如斯御座候、以上

三月十二日

山本小弥太

川辺七左衛門様

右書状庄屋喜左衛門より相渡、路用金貳分遣ス、尤も先達て不足分も有之、右旁相渡し候

一 同十四日岐阜京都飛脚伊勢屋へ、書状并に金三兩三井御殿上納金川辺七左衛門へ向差出、左に

一筆致上候、暖和相成候所御安泰被成御座、珍重奉存候、然此間は御飛脚御差向被下恐入奉存候、右に付村方判人共罷出可申所、此節流行之風邪にて平臥仕居候者も有之、且は上納金取賄に相懸り、此節出津難決之趣申出候、先々少分金子手に入候間、以飛脚使金三兩上納仕候間御落手被成下、御上納可被成下候、残金之儀、右申上候通才覚取懸居候へ共、此上調達之儀難計哉に奉存候、若不行届候節は当取納迄御猶予被成下候様奉願上候、尤右之段出津之上御款可申上候に御座候へ共、右申上候仕合、何卒自由ケ間敷恐入候へ共御取可然奉願候、右申上候取納十一月迄御延引之儀、何分可然、御聞濟に相成候様奉願上候、是迄龜略之取計方にも御座候所、此度勝手切替に付ては、彼是御苦勞等相懸不申様仕度奉存候間、此段御差含、何分可然御取成奉願候、右御願可得貴意如此御座候、以上

三月十四日

山本小弥太

川辺七左衛門様

一 同十五日笠松へ小弥太出役

乍恐以書付奉願上候御事

一 坪内本太郎知行所当国各務郡前渡村へ拜借罷在候当、御役所御貸附金、返上納相滞、追々敵數御取立被、仰渡奉恐入候、当御役所之儀は金高少分之儀にも御座候へとも、所々御役所拜借罷在候へは、何方迄も敵重御取立被、仰渡、本太郎手前にては余程金高にも相成、上納方難決仕候、右申上候は不相成候へ共、内実才覚方不行届、乍恐御賢察可被成下候、皆上納之儀難決仕候間、今度御利足上納仕候間、元金之儀は当暮迄御猶予被成下候様仕度、右御聞濟難被成下候へ、新拜借之趣に御取扱被成下、新証文差入候様、御憐愍ヲ以被仰付被下候様、奉願上候、以上

文政四年己卯年三月

坪内御名内

笠松

山本小弥太

御役所

同十八日信案へ書状并に金子出ス

一筆啓上仕候、暖和相成候処御安泰被成御座、珍重之御儀奉存候、然ハ当正月御飛脚御差向被成下恐入奉存候、当方義田臘主人隠居相願、家督無相違被仰付、右代替旁勝手方切替、格外之儉約等申付候に付、勝手向取極等に打懸居候て、判人共其御表へ罷出候儀も延引相成、恐入奉存候、今般当主幼年にも御座候事に付、同苗共よりも世話向等御座候て、所々御役所拜借金等、少分宛にても拜借高減候趣にも相成候へハ、此上御役所表之儀何分可然様奉願上度奉存候、今般少分御利足金之内金三兩相納候間、先々御預置被下置候様奉願上候、何レ私罷出可申候間、尚又自由ケ間敷義耳相願恐入候へ共、此上御猶予之儀可然奉願上候、右相願申

度如斯御座候、恐惶謹言

三月十八日

広瀬並 吾様

松原清九郎様

脇谷林左衛門様

同廿六日山田へ書状出ス、左に

以飛札致上候、暖和相成候所御安泰被成御座珍重奉存候、然其御役所拜借金利納相滞候に付、先達ては後藤弥三右衛門殿当地へ御出被下候節、宮川庄右衛門江戸表へ出府に付、何レ帰宅迄御延引被下候様御願申候処、此節庄右衛門義帰国致シ、色々内輪勝手向切替、猶又代替旁敵數儉約被申付、諸々御役所拜借金少々にても減シ候趣に仕度致相談、同苗共は勿論縁家共よりも世話向も有之候て、取統方并拜借高減候様仕法取極候に付、其御役所之儀は格別に付、貴家よりも御懇篤被仰下候義、不成一方奉存候間、何レ当暮は皆上納も仕度段惣方申聞候、若々皆金不行届候とも、半金にても上納可仕手段仕居候へは、御役所表之儀此上可然御取成可被成下候様奉願候、若又殿方にても御差向被下候ても、此節之上納方不行届、何レ当暮取納ならてハ金子才覚方手操差支候間、何分も右之段御差含、御役所表可然御取合奉願候、右得貴意度如此御座候、恐惶謹言

三月廿六日

山本小弥太

松木助之丞様

一 四月七日山田松木より藤方定右衛門来り、色々申談候処、去々年

分并去年分利足是非上納致候様被申聞、若不行届候ハ、印方之者同道可致段、色々六ヶ敷被申聞、漸々金五兩式分上納之旨、外一路用三分都合六兩壹分相渡シ、去年分ハ七月迄御延引之儀申頼、其段書付遣ス、并松木ヘ之返書左。

以剪紙啓上仕候、追日薄暑相催候処、御安泰被成御座、珍重之御儀奉存候、然ハ当配下前渡村桃春院心鏡和尚儀、去廿二日何方へ歟被罷出、其後下切村宝林寺并其寺よりも御弟子御立会之上、院内取調候処、什物之儀は勿論、日用雜具之品も相見ヘ不申候由、誠存外之儀、御座候て、主人手前可申達様無之、私共おゐても迷惑仕候、是迄も永住無覺束奉存候えとも、貴寺より村方へも御頼付其意相任候処、右体不埒之様子相成、近頃御氣之毒奉存候え共、無余儀以使札及御駈合申候、何レ桃春院居不申ては始末不行届候様奉存候間、心鏡和尚在り所御尋候、貴寺御同伴被成下候様仕度、此段御頼可得貴慮旨、主人申付候間如斯御座候、恐惶謹言

四月十五日

山本小弥太

報恩寺様

一 右返書不來、村方へ計返事來ル、小屋名村門通寺へ頼置候間、尚又右方へ可申遣段申來ル

一 同十五日村役罷出、今度鷹司様御通行付、御手当願出ル、尤先年は百文ツ、人足へ頂戴仕候事も有之候へとも、今度は格別大勢も無之、六十人計・馬三疋程も当り可申、何卒人足老人五十

一 桃春院不埒て、仏具其外幕幟・木魚・膳碗・鍋釜迄も不相見候段、去廿二日若者より申出候間、土田報恩寺へも申遣、弟子來候付、下切宝林寺・村役并為藏立会吟味致候所、何も無之、然所釜・木魚等北向・買入・有之由、六軒より元藏方へ為知候者有之付、則人遣候て相料候処、古市村・有之、慥預置候由、尚又尾州山名村・膳碗・幕幟等有之趣付、十八日総平遣

一 五月六日桃春院後住願、関竜泰寺へ村役喜左衛門・下切宝林寺罷出、無滞相済、右一条寺社記録留有之

一 同五日御陣屋今尾周右衛門より手紙來ル、明六日已之上刻当所作兵衛外六人呼出申候間、右之時刻召連罷出候様申來ル、則承知之旨返書遣

一 同六日庄屋元藏・山東藤右衛門 罷出候所、信楽御役所金返納相滞候付、此方て濟方相片付候ハ、其段届出可申、左も無之候ハ、六月五日迄江戸御奉行所へ、おも立候者両三人罷出候様被申渡、右否之儀は当九日迄・申出候様被申聞候て、右之趣書付差出候由、并小弥太改名之儀も以書付相届候、江戸表半右衛門殿より之一封相渡候間、致持参候、右來状之趣は、多羅尾親負様御役所拝借滞候付、御勘定奉行石川主水正様より御達之趣、都合四通致落手候様申來、并可然取計候様申來ル、然所右達書写不來候ハ、祐左衛門へ相尋候処、今日為持差上候由、只右衛門申候由、夫故見合候所沙汰無御座、依之翌七日承合候所、別段写來り不申

文被下候様願候間、御伺之上御聞濟有之、則請書相渡申候、右は惣代呼出可申付候へとも、時節柄も有之候間、村方て調印致、追て差出候様申聞候、左。

乍恐以書付御請申上候御事

一 今度 鷹司様中仙道御通行付、村方御伝馬難決、御座候間、御手当之儀奉願上候処、御聞濟被成下、人足老人付錢五十文、馬老疋百文宛被下置、難有仕合奉存候、依之御請調印奉差上候、以上

文政四辛巳年四月十五日

前渡村本郷百姓代

久右衛門印

同西組百姓代

小兵衛印

同山東百姓代

義兵衛印

同与頭

丈右衛門印

同新

惣左衛門印

同新

重吉印

同庄屋

弥兵衛印

同新

元藏印

同新

喜左衛門印

御地頭所

御役人衆中

候由て、御陣屋へ來り写尚又写差越候、左。

被仰渡書写

領主地頭演説之覚

其御領分御知行所之内別紙村々名前之者共儀、東海道土山・坂下・庄野・石薬師・四日市、右五ヶ宿助成金借請相滞候付、御代官多羅尾親負役所へ呼出、再応濟方申渡候え共、困窮難儀之由ヲ以濟方不致候間、右之者共奉行所へ呼出シ、濟方申渡有之候様致度段、親負申聞候、依之別紙名前之者共両三人宛、來ル六月五日迄当御奉行所へ差出有之候様存候、尤右日限迄於彼地濟方致候ハ、勝手次第之儀付、其心得を以取計、濟方いたし候ハ、其段相届、左も無之候ハ、無相違右日限迄差出候様、存候事

巳三月十三日

式 帳面写

文化十四丑年十二月

貸附元金五拾八兩壹分

一不納金二年八拾六兩永三文四分

實地

作兵衛

同

紋七

同

八郎兵衛

同

斧右衛門

百姓代

定八

金五拾八両壹分 元金滯

金貳拾七両三分永三文四分

寅より辰迄利金残増 但利足年壹割五分

年寄 惣左衛門

喜左衛門

一 同六日照り続候。付、雨請願出候間御聞濟有之、則御願上候処、弁天へ提燈上候様御願。付、其旨取計申候、御代参伊藤忠右衛門相勤、供長吉、着用麻上下

一 同九日定例御祈禱。付吉祥院罷出候間、右序。御外山松木。大分毛虫付候儘、虫除御祈禱被仰付、御執行御座候、忠右衛門差添御山へ行、供長吉

一 同十日弁天へ御礼湯之花上ル

一 同日洲原へ代参、右両様共御願上り候。付、当番庄屋喜左衛門取扱、差書左

一 筆致啓上候、向署御座候え共御堅勝被成御座、珍重奉存候、然は追々照統候。付、雨請御祈禱御願申度段、当知行所より願出申候、依之村方代参差立申候間、可然御祈参可被下候、右為御初穂金百足致進上候、恐惶謹言

五月十日

山本祐左衛門

大家大和守様

一 先達て申来り候信案一条。付、色々致相談、先々利納之内拾両も致持参、跡は收納迄延引御願可申旨。て金子才覚致、安池様より

伊藤忠右衛門殿

下札願之通 御聞濟有之候間、勝手次第引取可被申候、以上

一 同廿五日弥作罷帰ル、金拾両受取書来ル、先達て差遣候金三両も届候由、信案。て清九郎殿病氣。て引籠被居、並吾殿取繕之由、跡金之儀色々願候処、江戸表へ差出候事故、当役所。て取繕難出来候間、本家へ申立、本家より御奉行所へ被仰立候へ、日延之儀も可相叶、半当も上納之儀故とふぞ取繕進度候えとも、右之趣故立帰可申段深切。被申候間、致方なく引取候由申候、外々は手錠等。て皆々宿。居申候て、六ヶ敷有之候由申候、依之右之段届旁祐左衛門御陣屋へ罷出、周右衛門殿。対面致し、江戸表之儀申談候処、何レ書状。ては不行届候間、御費なから一人江戸表へ被遣、御奉行所へ被仰立候方可然旨被申候故、引取申候

一 同廿六日平島おふう様御帯祝。付、白強飯一重・鯛十来ル、松原より奉札。て申来ル、返書遣ス

一 右使之もの加藤氏より上中屋天神修覆割合書付来、左

覚

印 銀貳百三拾五匁 但惣ノ也

此訳

但 金壹両。付銭六貫五百五十文替
銀壹匁。付銭丁百四文八分

銀百貳拾匁九分五厘四毛七五

此金貳両ト銭百四文相渡

銀三拾四匁五分五厘八毛五

今尾周右衛門印

七両・村方。て六両取賄出来致候、尤右之内金壹両貳分余は大釜吐井割合出金分、引て拾壹両貳分信案へ致持参、先達て当三月三両上納有之、右共。利足之所半分。も相当り申候、当村弥作被仰付、同十八日出立御足輕使。て罷出候

一 右十八日出立之由、十九日御陣屋へ届申、祐左衛門行、右序。大釜割合金致持参、則受取書来ル

覚

一金壹両壹分

拾三匁八分七厘五毛

一金貳朱

一 金壹両貳分六匁三分七厘五毛

右之通明後十五日巳刻、当方へ御差出可被成候、以上

辛巳五月十三日

当番

河田唯右衛門

右信案行旁。て十四日。御陣屋へ罷出、当廿日迄延引申願置候

一同廿日庄右衛門より嫁取願書差出ス

縁組願

牛子村

儀右衛門孫

当巳十八才

右年齢相応。も御座候間、倅孫市妻縁仕度奉願上候、以上

文政四 巳年五月廿日

宮川庄右衛門印

山本祐左衛門殿

此金貳分銭四百九拾四文相渡

同 人印

銀貳拾匁七分三厘五毛壹

此金

松原牧右衛門印

同

此金

加藤辰右衛門印

同

此金壹分ト銭六百廿三文相渡ス

山本祐左衛門印

銀拾七匁貳分七厘九毛貳八

上中屋村庄屋

一 銀貳百三拾四匁九分九厘七毛八三

利右衛門

右は上中屋 天神御社被損所、本箱棟并千鳥箱棟・唐破風仕替、其外裏通所々取繕等御入用、任先例致割賦候条、御出金分書面之通上中屋村次郎左衛門へ可相渡者也

辛巳五月廿五日

御役所印

一 六月四日熱田え雨請代参御願上り候。付、善左衛門・庄左衛門罷越候間、添書遣ス

一 筆致啓上候、向署之節御座候え共御堅勝被成御座、珍重奉存候、然は追々照統候。付、雨請御祈禱御願申度段、当知行所より願出申候、依之村方代参差立申候間、可然御祈念可被下候、右為御初穂金百足致進上候、恐惶謹言

六月四日

伊藤忠右衛門

書判

松岡信濃様

山本祐左衛門

書判

一同八日下三ヶ村大釜立樋引拵候。付、村方御陣屋へ出願致候。付、添書遣ス、即刻今尾半内致出役、当方より立会祐左衛門罷出ル、見分之上立樋いけ置申候、翌九日下村呼出、利解有之、以後惣方立会にて水番致候答にて、御請申上候由、祐左衛門罷帰り申聞候

御請申上候事

一 大津御郡代石原庄三郎殿御取扱御貸附金之内百両、私知行所各務郡前渡村へ拝借為仕候処、去寅年より午年迄五ヶ年賦元金不相納、利金も去寅年以前之分是又不相納、右元利合金滞之分九拾兩、いまた相納不申。付、庄三郎殿被申立、右御貸附金之儀は山門南谷寺院惣中願之上御郡代所。おゐて御貸渡有之、諸用并シ候事。付、納方差滞候てハ南谷惣中諸用差支。付、右元利金早々相納可申、尤上納之頃合申上候様、御勘定奉行村垣溪路守殿より御達御座候。付、御達書之趣承知仕候、元来不如意之勝手向、近年別て水早損にて取箇減、御太切之御貸附金自不納。相成、恐入奉存候、何レ口々多借。も御座候間此節不行届、当十一月取納米ヲ以上納可仕候間、何卒御猶予之儀奉願上候、以上

已六月十日

坪内李太郎

坪 左京殿

一同七月廿一日三井より廻文為持来左。

数凡

一 七月朔日夏成直段申触、左。以切紙申達候、然は当夏成御直段別紙之通相定申付候間、当六日迄致皆済候様一統可申付候、此段早々可申触候、以上

七月朔日 御役所印 前渡村三組 庄屋 与頭

追て此切紙留り組より可致返却候、以上

半切 覚

北節町相場両。 老石老斗四五升之由

夏成 御直段 両。老石老斗式升替

右之通相定申付者也

七月 御役所印

以切紙致啓上候、然は照統田畑早魁。付、村々氏神之致祈誓候之共、為指潤雨も無之由、大神宮へ雨請御祈禱之儀、御知行一統願出候付、如先例勢州師職方へ今朝御飛脚差立申候、此段宜御達可被成候、尤於村々も右之趣相心得可致祈念旨、御支配下村々へも当方一同相触申候、右為可得御意如斯御座候、以上

七月廿日

今尾周右衛門

松原牧右衛門様

加藤辰右衛門様

山本祐左衛門様

一同廿一日夜村役共罷出、外御用向兼ル、追々潤雨。付、明廿二日八社え燈明上ヶ、葉師へ灯燈ともし御礼仕度、惣方罷出候様申出ル

為取替一札之事

一 当村方拝借金相滞候。付、今度 御勘定御奉行所より御差紙到着。付、当村方にて罷下り候もの無御座、無拠御懇意合ヲ以貴殿御頼申候所、御承知被下忝奉存候、依之道中賃銀路用共、片道金老兩、江戸逗留中は諸雜用賃銀共一日分銀五匁宛之筈、御奉行所御呼出シ入用共見込、右之通取極申上は、日数幾日相掛候ても、右之積を以金子無差支差下可申候、尤御奉行所願筋。付、格別之儀出来候節ハ御互。助合可申候、頼之一条は精々御出情被下候様頼入候、若又御病氣又は急御用事等出来致候節は、代り人差下可申候、此段御相談得之上取極候上ハ、少も違変無御座候、以上

文政四 年七月

前渡村

一同廿五日須衛村保五郎来り、今度御勘定奉行より御差紙至着。付、同人相頼明廿六日江戸出立。付、色々取調金子三両相渡、其外書類印形等相渡、受取書取置、願面下書等信業御役所書類袋。入置、当村甚平事私用。付、保五郎同道にて罷下ル、小石川様へ御状等頼遣ス

一同日犬山榎本より使来ル、右は先達て御頼被置候木曾川御殺生之儀、是迄之通殺生札御渡被下事哉、又は代替。付別段相願候筋哉之段、内々御用人中へ御問合可被下旨御頼御座候所、先達て之振合以御使者被仰込候方可然段、申来。付、同廿六日山本祐左衛門御使者相勤ル、若党老人・草履取、名札手控持参左。

坪内李太郎使者

山本祐左衛門

手札如斯

残者之節御堅固被成御勤、珍重奉存候、然ハ先年より於木曾川筋殺生致来り候所、近年猥り。殺生不相成。付差控罷在候処、先

代文化十二亥年七月廿八日以使者願上、其後御許容被成下雖有奉
存候、如先代右川筋にて殺生仕度、此段御手前様方迄御願申入度、
使者ヲ以得貴意候、御序之節可然御取成被下候様奉頼候、以上

七月廿六日

右早速江戸表へ可申遣との事也、其上御答可申段、月番御用人高
田鉄平治殿、右方へ菓子一袋代三匁也致持参

一 同廿八日御陣屋より書状為持来ル、右は当正月御差出し御書付并
其後御差出御座候別紙書付、式通共返却有之、依之左、御返書
貴札致拜見候、然は去冬隠居被仰付候節、ケ条書ヲ以御達御座候
処、御答書相認当春願書差出候処、退て愚考仕候処、右は全私心
得違にて、書面等差出候儀恐入奉存候間、右願書願下ケ之儀、永
島長兵衛・遊佐東庵へ向相頼、御託申呉候様相敷候処、折々御屋
敷へも罷出、心得違之段御託申上候、付、左京様思召も御座候え
共、願通願書御下ケ被成下、則今便式通御封入被成下儘落手仕候、
貴様よりも厚御取成被下候儀ト忝奉存候、右貴報可得貴意如斯御
座候、恐惶謹言

七月廿九日

前野半右衛門様

御別紙致拜見候、粹義幼年之儀、付、家事取締之義御陣屋御役人
中へ相願度、其段願上候処、當時御人少々儀御座候間御断之趣承
知仕候、併不行届義へ御相談可申上候間、其節何分可然奉願上候
一 元家来山本滝八郎儀、同苗佐左衛門方ニ罷居候、付、右之者佐左
衛門方ニ差置不申様相願候所、右は同家之儀佐左衛門へ篤ト熟談

仕候ハ、何様ニも可相分義、何レ熟談之上可然取計候様被仰下奉
畏候、何レ佐左衛門へ熟談可仕候間、左様御承知可被下候、例之
愚考ニは御座候へとも、佐左衛門・太郎兵衛方へ去冬御達書ニも、
以後浪人体之者知行所内へ差置不申様被仰渡候間、申上候儀ニ御
座候、此段可然御取成奉願候、乍恐御伺奉申上候、以上

七月廿九日

前野半右衛門様

一 同廿九日佐左衛門様御出、右は江戸表前野半右衛門殿より書状来
ル、左、

一 筆啓上仕候、然は御手前様御三人共、御先祖より御当代迄御性
名御実名、御代々之御住所、右委敷御認メ、重便ニ被遣候様、左
京殿被申聞候、付、此段御掛合得貴意候、恐惶謹言

七月廿一日

坪内佐左衛門様

依之右下書左

一元祖

初名源次郎、其後小十郎改、隠居仕左助
住所尾州野武、後濃州松倉、又同州前渡邑へ移ル
一二代目
初名源三郎
住所前渡村

坪内嘉兵衛俊定

一三代目

初名源三郎

住所前渡村

一四代目

初名源三郎

住所前渡村

一五代目

初名助太郎、左左衛門

住所同断

一六代目

初名助太郎、久米之進

住所同断、其後寛延元戊辰五月江戸表へ罷下、御本家御屋敷
服部坂上同居仕能候

一七代目

初名源之助、円次郎、実名始邦定

住所御本家御屋敷ニ罷在、其後小石川大塚町ニ住居仕候

一八代目

初名惣藏、道雪様より御一字被下

住所小石川大塚町、天明元辛丑八月如前々濃州前渡村住居仕候

一九代目

初名李次郎、大学、嘉兵衛

住所前渡村

右之通、御座候、以上

文政四年巳年八月

坪 左京殿

右本紙、直紙袋とじ

一 兼々御三所様被仰合候、江戸表へ被仰立一条ニ付、松原牧右衛門
弟喜十郎儀、去辰之冬江戸表へ差下、尤御目付方へ住込候様申含
遣シ候処、主膳正殿へ住込、追々御心願一条も、同人より寄り
ノ、物語等仕候処、色々御尋ニ付、御銘々様思召一盃御書取、牧
右衛門迄被下置候様申候、付、当十六日出ニ差下シ申度段、牧右
衛門より願候間左ニ留置

大職冠内大臣鎌足之後胤 利仁十五代之孫前野藤左衛門頼定五
代 坪内玄蕃頼利定二男坪内嘉兵衛定安

一 利仁將軍ヨリ九代富樫権佐重純、文治元年於加賀国新関ヲ相守ル、
然ルニ義経ヲ通タル誤リニヨツテ頼朝公蒙勘気、流浪之身トナル、
比由義経聞給、奥州へ可参旨秀衡諸共進ニマカセ 略ス

右ハ文化二乙丑年六月廿日改之通写遺ス、末ニ

乍恐以書付御訴詔奉申上候

尾州葉栗郡草井村

伊神内右衛門

同州同郡鹿子島村

取替金返済滞出入

坪内嘉兵衛様御家来

相手方

藤田八兵衛門殿
松原牧右衛門殿
岩佐武兵衛殿
山本貞藏殿
松波為治殿
宮川円司殿
御同人様御知行所
濃州各務郡前渡村

百姓惣代 林 蔵
百姓代 金之丞
組頭 平右衛門
組頭 元 蔵
庄屋 久右衛門
百姓惣代 源右衛門
組頭 弥三七
庄屋代 佐兵衛
同助 茂兵衛
同助 要 助
組頭 惣左衛門
庄屋 浅 七
同助 弥兵衛
宮河庄右衛門
川庄屋 市兵衛

右訴詔人門右衛門・与右衛門奉申上候

坪内嘉兵衛様御屋敷金子御要用之儀御座候由、并自分入用金も有之候由。て、金子取賄呉候様、右藤田八兵衛殿初六人之衆御申聞、并御屋敷より御先納被仰付候処、取賄不行届候付貸呉候様、前渡村林蔵初拾五人之者相頼候付、天明年以来追々。金百兩用立達候処、御返済引相成、寛政十一年。至り、右百兩之分三ヶ年済。可被成候筈一旦誤立有之、其内難決等有之候ハ、元居。て利金計長く指出候儀、勘考致呉候様。との儀。付、任其意置候処、右末年より年々金六兩ツ。享和三亥年迄利払有之、其後文政元寅年・同三辰年両度。米貳石附入有之候上。て、元利共勘定不相立、并文化五辰年七月猶又金拾九兩貳分銀六匁用立置候処、是又元利共一兩指滞、迷惑仕候

文化四卯年十二月前渡村宮川庄右衛門え、居家引当。て金六兩取替、右元利之方え五兩壹分請取、殘金差滞相成、追々掛合およひ候へとも、品々申立返済無之、困窮之私共必至難決仕、最早相対。て難行届候付、不得止今般別紙証文写并勘定書共四枚相添、御訴訟奉申上候、御慈悲を以御吟味之上、右三口元利都合貳百六十九兩余、早速返済被仰付被下置候ハ、難有仕合奉存候、以上

文政四年巳八月

伊神門右衛門印

同州同郡鹿子島村

新加納

御役所

須賀与右衛門印

右伊神門右衛門・須賀与右衛門御訴詔奉申上候通、御吟味之上此節早速誤立相成候様、被仰付被下置候様奉願上候、以上

葉栗郡草井村

組頭 小平 治印

同助 嘉 蔵印

同郡鹿子島村

組頭 和兵衛印

一同六日江戸出状左

一切支丹宗門從前々無懈怠今以相改申候、先年被 仰出候御法度書之趣遂詮儀候処、家来并知行所百姓切支丹。紛數者無御座候、依之銘々寺請証文取置申候、若此以後怪數者御座候ハ早速可申上候、為其仍如件

文政四年巳年九月五日

坪内李太郎印

坪 左京殿

書判

九月四日犬山御用人中より白木状箱使来ル、右は鮎殺生之儀済来ル、御返書左

御紙上致拜見候、如仰秋冷相催候え共御堅固被成御座、珍重奉存候、然は先達て御願申上候木曾川筋鮎殺生之儀、江戸表へ被仰上被下候処、勝手次第殺生可仕旨 御許容被成下、難有奉存候、尤殺生。罷出候節は、鑑札家来。為持候様被仰下、承知仕、例之通以使鑑札御請取可申上候間、尚又可然奉頼候、殺生無之時節。相成候ハ、右札返上仕候様、是又承知仕候、彼是御世話相懸候段忝奉存候、右御報如此御座候、以上

九月四日

坪内李太郎

坂野 様

神谷 様

高田 様

九月四日宗旨証文相認左

覚

宗旨証文 御名

村役老人・惣代老人差立申候筈。御座候間、中旬迄。は右之段信楽表より御奉行所へ申参り候儀ト奉存候、左候えは御呼出之上早

速歸村被仰付候儀ト奉存候、其節は兼て御願申候願一条、何レも被仰立被下候様、厚々御願申候、勿論右之願差障り候趣被仰下候故、今度之利納は誠ニ以命ヲ懸相働候事ニ御座候間、何分ノ跡之願は幾重ニも御働被下候様、精々御願申候、尤村方迄も一統右之趣相願居候事ニ御座候間、何レ模通之儀可然奉願候、且又新拜借之義も、土山宿役人其御地へ下り居候ニ付、御願御座候趣承知之由、是以信樂御役所へも相願候えとも、尚又可然御願被下候様奉願候、右迄申入度如斯御座候、以上

九月六日

伊藤

斧右衛門様

山本

尚以隠居・旦那よりも宜得御意候様被申付候、御在所ニても無御替被成御暮候、此間少々金子も遣候間、御安心可被下候、此書状先日参り居候間、今便御届申候、何も早々以上

乍恐以書付奉願上候

一坪内本太郎知行所美濃国各務郡前渡村え、当御役所御取扱宿場助成金五十八両七分半借罷仕候趣、元利相滞候ニ付、当六月御勘定奉行石川主水正様より御差紙到着仕、此節判方之者江戸表へ罷下居申候、然所追々敷敷被仰渡奉恐入候、依之利納仕候様申越候えとも、当年は格別之早魁仕、收納方引当金子才覚仕候手立も無御座、難決仕候へとも、御太切之御金拝借之儀ニ付、惣村方々々割合、漸々御利納文ケ才覚仕候間、今度上納仕候間、何卒此上之御憐愍ニは、江戸表へ罷下り居候判方之者早速歸村被仰付被下候様仕度、日々雑費等相懸、困窮之村方猶更難決仕候間、乍恐右之

趣御聞濟被成下度奉願上候、以上

文政四辛巳年九月

坪内——知行所

美濃国各務郡前渡村

百姓代

孫四郎

彦市

和吉

右村庄屋

惣左衛門

平右衛門

重吉

弥兵衛

元藏

喜左衛門

信樂
御役所

以飛札致啓上候——然先達て得貴意申通、金子水口ニて相調、

当十一日金十三兩三分永百二十八文四分外ニ式兩式分永貳百三十三文三分、信樂御役所へ相納メ、則受取書来り申候、就ハ証文引替之儀信樂ニて御聞濟難成、何レ御勘定奉行へ差出置候ニ付、於江戸表御願可申上、尤其段は信樂御役所よりも御取成被仰遣可被下旨申来り候間、此段可然御願可被下候、且又依之願一条、是又無御座斷被仰立被下候様願入候、以前笠松御元ノ内田彈助様ト申御方、大原四郎右衛門様當時御元ノ之由、右御方へも御内談御座候所、知行三分一も上地ニ致候ハ、年限ヲ切借財相片付可申

趣ニも御内意御座候由、井ニ石川主水正様御儀ハ戸田七内様御聲

之由、小川氏より極内々御申上、右故手錠も輕相濟候由、御役柄之事故別て模通宜候段、何より以大悅致候、右等之御手筋御座候へは猶更之御儀、何レ借財相片付候様厚御勘考之上、御願被下候様御願申候、弥願通御聞濟ニ相成候へは、貴公様御儀中興開山末代迄も御恩ハ不忘、惣方村方迎も悦之事ニ御座候間、厚々御出情之程奉祈候、尚又信樂借増之儀も、是又宜御示談可被下候様奉願候、右迄得貴意度如斯御座候、以上

九月廿一日

尚々、甚兵衛金子埒明不申候由、当人義も迷惑ト奉存候、且又御宿より之書状御届申候、呉々も信樂金借増之儀可然奉願候、跡之願一条ニ付、様子ニより近々村役之内宅下シ可申哉ニも奉存候間、否早々被仰越可被下候、以上

覚

一金五兩ト銀九匁五分八厘

右は無抛要用ニ付借用申所実正也

返済之儀は、当霜月切元利共急度可致返済候、為後日之証文仍て如件

文政四辛巳年

内

山本祐左衛門

証人 宮川庄右衛門

同 岩佐源助

備後屋徳右衛門殿
キツかなヤ丁

一十月十八日江戸状認、同日名古屋小島屋へ出ス、左ニ

以飛札——然ハ三度之御状、道中ニて飛脚之者病氣之由ニて、

宮小島屋極兵衛より断書差添致着、致拜見候、信樂表上納金其節迄御奉行所へ御沙汰無御座候由、併此節は御左右御座候儀ト奉存候、先便も得貴意候跡願一条之儀ニ付、村役共罷下り可申存念ニ御座候趣、右之者共罷下り候ても費ニも有之候間、拙者共之内罷下り可申様被仰下、依之尚又惣方及示談候趣、何レ金子入用之儀、此節金子調方も不都合ニ有之、既ニ今便貴様日賃等ニ当、少分ニても差下シ可申、種々致工面候えとも、未手ニ入不申、無沙汰ニ致置候ては御思惟之程も如何敷候故、先々書状ヲ以此由申入候、何レ急々金子差下可申候間、暫之内御渡可被下候、扱又跡願一条之儀も、何レ願立申度候えとも、何ヲ申も金子入用之儀、当年之不作売米連は一粒も無御座、金子才覚差支候間、先々見合申度、貴様ニも金子差下候ハ、一先御歸村被下候様致度、何レ於此方篤ト御相談之上、春附て願立申度、最早日数余程ニも相成、御宿ニても御待兼之様子ニも御座候間、急々金子差下候ハ、早々御歸村可被下候、先は右迄得貴意度如此御座候、以上

十月十八日

伊藤

斧右衛門様

山本

一同日上中屋村ニ逗留有之候松本村江戸役人え、此間山脇村甚七兄三右衛門・松本村太吉願出候ニ付書状遣、左ニ

未得貴意候へ共一筆致啓上候、追々冷氣相催候へ共御安全被成御座、珍重奉存候、然ハ其御知行所山脇村甚七御仕送り仕候節、公金等借入候一条、御知行所当方へ御頼之節夫々申渡置候趣、御承知之御儀ト奉存候、其後奥村清左衛門殿御登之節、諸事御引渡申候節当方へ差入被申候書面ニも有之、尚又当春宮川庄右衛門龍下候節取扱候趣共、可然御含御取計被下候様致度、右之旨宜及御駈合旨、右兩人よりも当方へ願出候間、此段以書中得貴候様、隠居被申付候間、如斯御座候、以上

政次郎様

御用人中様

山本祐左衛門

同廿四日江戸へ金子式両遣ス

以飛札致啓上候——然ハ金子之儀追々被仰下致承知候、無左共無油断取賄候所、米穀壹粒も納り不申、取賄方差支、漸々金式両相調候間、先之差下申候、何卒右金御路用被成、早々御登り可被下候、尤宿其外御借用も可有之候へ共、中々式両計ニてハ御行届無之ト存候間、何もかも御打捨、早々御登□□様致度、宿亀屋へも以別紙雜用等諸勘定之儀、村役より頼遣候間、是又可然御談可被下候、信表拝借之儀心せき候間、何レ貴丈様御登り無御座ては、右一条も不行届候間、乍御無理此金ニて早々御登之御積ニ御用意被下候様頼入候、右得貴意度如斯御座候、以上

十月廿六日

伊藤

斧右衛門様

山本

文政四^{辛巳}十月廿八日北方へ差出候願書

乍恐以書付奉願上候御事

一去丑年七月奉願上候前渡村前河原之儀、尾州様御領分草井村より立越松木伐取候節、以書付奉願上候、其後卯年三月再願書も奉差上候所、尚又昨廿六日草井村文左衛門・茂平治・九右衛門・惣兵衛龍越、前渡村周左衛門・孫左衛門・文吉・源右衛門耕作仕居候於場所、農具相渡候様文左衛門外三人被申聞候へ共、無謂農具可相渡筋無御座、依之文左衛門外三人共庄屋所へ同道仕、庄屋喜左衛門方ニて及懸合、農具等は相渡不申候へ共、必竟右等之懸合有之儀ニ候ハ、草井村役前之衆中より懸合可被申儀哉ニも奉存候、村役中差置右四人之衆中被立越、被致懸合候儀不心得儀哉ニ奉存候、右河原之儀は助郷御伝馬役相勤候場所ニて、少分ニても起返候へは右助成ニも相成候儀ニ御座候所、草井村より彼是論所ケ間數申聞候儀難心得奉存候、以後右体理不尽之儀申懸不仕様、被仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

坪内左京分家

文政四^{辛巳}年十月廿七日

坪内御名知行所

美濃国各務郡前渡村

百姓代 孫四郎

右村与頭 重吉

右村庄屋 喜左衛門

尾州様

北方

御役所

編集後記

今回発行する「前渡坪内氏御用部屋記録」は、旗本新加納坪内氏の内分家の一つであった坪内嘉兵衛家の記録です。この記録の取り扱いをめぐって、当初は現在編集中の『各務原市史』史料編に収録する予定でしたが、字数が膨大なため史料編（近世は二巻構成）に収録するのはむずかしく、かといって、このまま陽の目をみず埋もれさせてしまうのは余りにも残念だということで、活字化の方向で企画したのが今回の『各務原市資料調査報告書』六号と来年度発行を予定している七号です。全部収録するのが本意ですが、予算面などの問題もあり、ひとまず抄出の形ながら活字化することにしました。抄出作業は岐阜大学の松田之利氏を中心とする近世部会員のうち、豊田高専の篠田壽夫氏に担当していただきました。公刊に当たってやや変則的ですが、天明四年（一七八四）のもののみ史料編近世IIに廻し、本報告書には享和元年（一八〇一）から文政四年（一八二一）までの十一点を収録しました。旗本の本家と内分家との関係や小領主の村支配・財政情況・社会事情など、前渡村一か村を通じた近世後半期の政治・経済・社会面を知るうえで、またとない恰好な研究史料です。また、紙数の関係で収録していない部分も含め、御用部屋記録のマイクロフィルム化も行っており、研究者の便に資する用意もしています。市民のみなさんをはじめ、近世史研究者、特に旗本や相給村の研究者・研究機関の方々に大いに利用していただくことを願ってやみません。

本報告書の発行に際し、史料保存者の富樫心行氏に深く感謝申し上げますと共に、ご指導・ご教示をいただいた市史編さん委員長野村忠夫氏、近世部会長松田之利氏、部会員篠田壽夫氏の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

昭和六十年三月二十二日

社会教育課長

林 友 男

干支早見表(2)

干支	年 号	西暦	年 号	西暦	年 号	西暦	年 号	西暦	年 号	西暦
丙子	寛永13	1636	元禄9	1696	宝暦60	1756	文化13	1816	明治9	1876
丁丑	14	1637	10	1697	7	1757	14	1817	10	1877
戊寅	15	1638	11	1698	8	1758	文政1	1818	11	1878
己卯	16	1639	12	1699	9	1759	2	1819	12	1879
庚辰	17	1640	13	1700	10	1760	3	1820	13	1880
辛巳	18	1641	14	1701	11	1761	4	1821	14	1881
壬午	19	1642	15	1702	12	1762	5	1822	15	1882
癸未	20	1643	16	1703	13	1763	6	1823	16	1883
甲申	正保1	1644	宝永1	1704	明和1	1764	7	1824	17	1884
乙酉	2	1645	2	1705	2	1765	8	1825	18	1885
丙戌	3	1646	3	1706	3	1766	9	1826	19	1886
丁亥	4	1647	4	1707	4	1767	10	1827	20	1887
戊子	慶安1	1648	5	1708	5	1768	11	1828	21	1888
己丑	2	1649	6	1709	6	1769	12	1829	22	1889
庚寅	3	1650	7	1710	7	1770	天保1	1830	23	1890
辛卯	4	1651	8	1711	8	1771	2	1831	24	1891
壬辰	承応1	1652	2	1712	安永1	1772	3	1832	25	1892
癸巳	2	1653	3	1713	2	1773	4	1833	26	1893
甲午	3	1654	4	1714	3	1774	5	1834	27	1894
乙未	明暦1	1655	5	1715	4	1775	6	1835	28	1895
丙申	2	1656	享保1	1716	5	1776	7	1836	29	1896
丁酉	3	1657	2	1717	6	1777	8	1837	30	1897
戊戌	万治1	1658	3	1718	7	1778	9	1838	31	1898
己亥	2	1659	4	1719	8	1779	10	1839	32	1899
庚子	3	1660	5	1720	9	1780	11	1840	33	1900
辛丑	寛文1	1661	6	1721	天明1	1781	12	1841	34	1901
壬寅	2	1662	7	1722	2	1782	13	1842	35	1902
癸卯	3	1663	8	1723	3	1783	14	1843	36	1903
甲辰	4	1664	9	1724	4	1784	弘化1	1844	37	1904
乙巳	5	1665	10	1725	5	1785	2	1845	38	1905
丙午	6	1666	11	1726	6	1786	3	1846	39	1906
丁未	7	1667	12	1727	7	1787	4	1847	40	1907
戊申	8	1668	13	1728	8	1788	嘉永1	1848	41	1908
己酉	9	1669	14	1729	寛政1	1789	2	1849	42	1909
庚戌	10	1670	15	1730	2	1790	3	1850	43	1910
辛亥	11	1671	16	1731	3	1791	4	1851	44	1911
壬子	12	1672	17	1732	4	1792	5	1852	大正1	1912
癸丑	延宝1	1673	18	1733	5	1793	6	1853	2	1913
甲寅	2	1674	19	1734	6	1794	安政1	1854	3	1914
乙卯	3	1675	20	1735	7	1795	2	1855	4	1915
丙辰	4	1676	元文1	1736	8	1796	3	1856	5	1916
丁巳	5	1677	2	1737	9	1797	4	1857	6	1917
戊午	6	1678	3	1738	10	1798	5	1858	7	1918
己未	7	1679	4	1739	11	1799	6	1859	8	1919
庚申	8	1680	5	1740	12	1800	万延1	1860	9	1920
辛酉	天和1	1681	寛保1	1741	享和1	1801	文久1	1861	10	1921
壬戌	2	1682	2	1742	2	1802	2	1862	11	1922
癸亥	3	1683	3	1743	3	1803	3	1863	12	1923
甲子	貞享1	1684	延享1	1744	文化1	1804	元治1	1864	13	1924
乙丑	2	1685	2	1745	2	1805	慶応1	1865	14	1925
丙寅	3	1686	3	1746	3	1806	2	1866	昭和1	1926
丁卯	4	1687	4	1747	4	1807	3	1867	2	1927
戊辰	元禄1	1688	寛延1	1748	5	1808	明治1	1868	3	1928
己巳	2	1689	2	1749	6	1809	2	1869	4	1929
庚午	3	1690	3	1750	7	1810	3	1870	5	1930
辛未	4	1691	宝暦1	1751	8	1811	4	1871	6	1931
壬申	5	1692	2	1752	9	1812	5	1872	7	1932
癸酉	6	1693	3	1753	10	1813	6	1873	8	1933
甲戌	7	1694	4	1754	11	1814	7	1874	9	1934
乙亥	8	1695	5	1755	12	1815	8	1875	10	1935

○は閏月 □は改元月

各務原市資料調査報告書第六号

前渡坪内氏御用部屋記録一

昭和六十年三月二十二日

編集◎ 各務原市教育委員会

各務原市那加坂町一丁目六九番地
電話三八三一一(内七番)
振替名古屋五七三一一各務原市

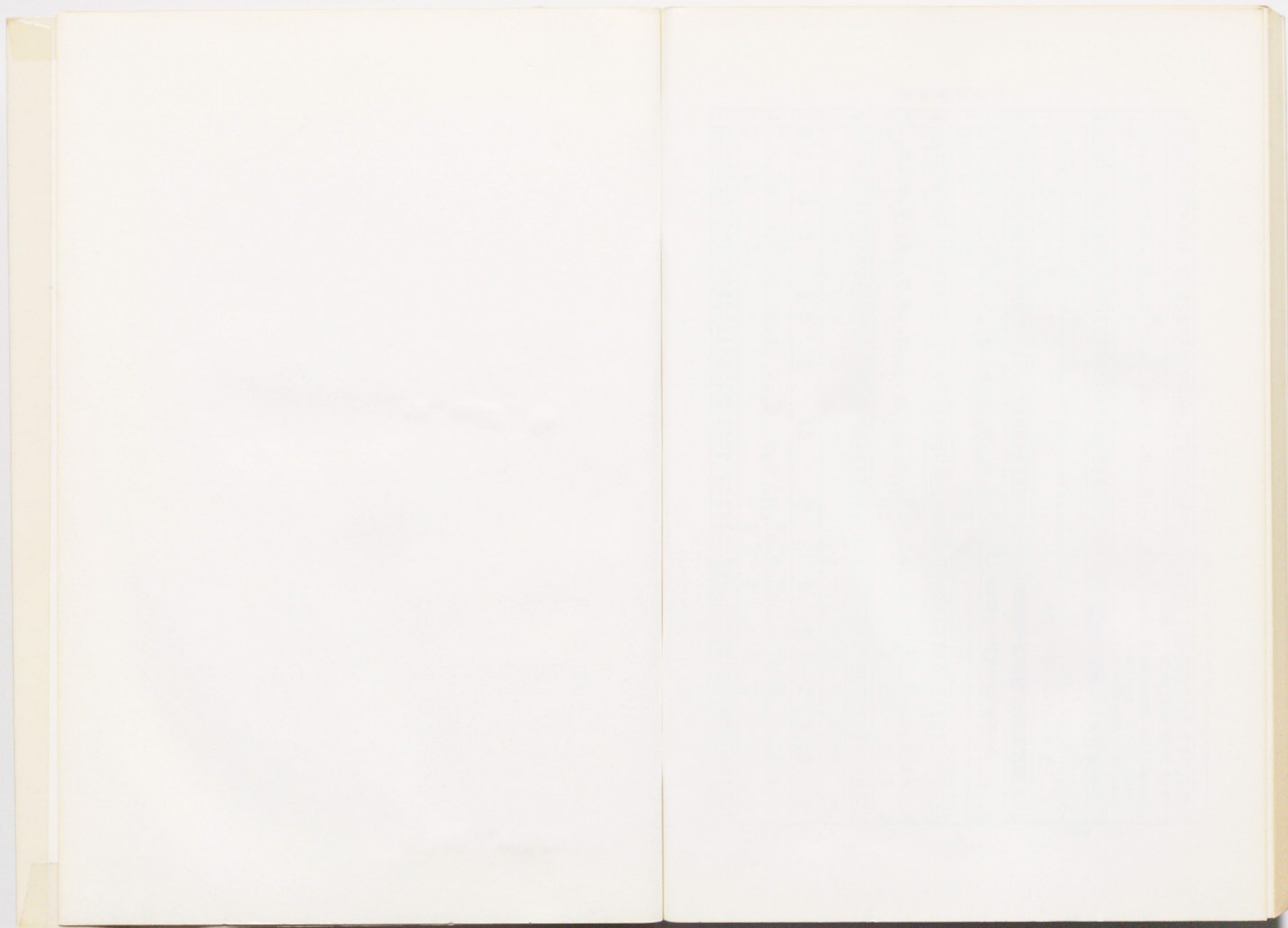
印刷 西濃印刷株式会社

岐阜市七軒町一五一五

干支早見表(1)

干支	年号(南朝)	年号(北朝)	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦
丙子	延元 1 ②	建武 3	1336	応永 3	1396	康正 2	1456	永正13	1516	天正 4	1576
丁丑	2	4	1337	4	1397	長祿 1 ⑨	1457	14⑩	1517	5⑦	1577
戊寅	3⑦	暦応 1 ⑧	1338	5④	1398	2①	1458	15	1518	6	1578
己卯	4	2	1339	6	1399	3	1459	16	1519	7	1579
庚辰	興国 1 ④	3	1340	7	1400	寛正 1⑨⑫	1460	17⑥	1520	8③	1580
辛巳	2④	4	1341	8①	1401	2	1461	大永 1 ⑧	1521	9	1581
壬午	3	康永 1 ④	1342	9	1402	3	1462	2	1522	10	1582
癸未	4	2	1343	10⑩	1403	4⑥	1463	3③	1523	11①	1583
甲申	5②	3	1344	11	1404	5	1464	4	1524	12	1584
乙酉	6	貞和 1 ⑩	1345	12	1405	6	1465	5①	1525	13⑧	1585
丙戌	正平 1⑨⑫	2	1346	13⑥	1406	文正 1②②	1466	6	1526	14	1586
丁亥	2	3	1347	14	1407	応仁 1 ③	1467	7	1527	15	1587
戊子	3	4	1348	15	1408	2⑩	1468	享祿 1⑨⑧	1528	16⑤	1588
己丑	4⑥	5	1349	16③	1409	文明 1 ④	1469	2	1529	17	1589
庚寅	5	観応 1 ②	1350	17	1410	2	1470	3	1530	18	1590
辛卯	6	2	1351	18⑩	1411	3⑧	1471	4⑤	1531	19①	1591
壬辰	7②	文和 1 ⑨	1352	19	1412	4	1472	天文 1 ⑦	1532	文祿 1 ⑫	1592
癸巳	8	2	1353	20	1413	5	1473	2	1533	2⑨	1593
甲午	9⑩	3	1354	21⑦	1414	6⑤	1474	3①	1534	3	1594
乙未	10	4	1355	22	1415	7	1475	4	1535	4	1595
丙申	11	延文 1 ③	1356	23	1416	8	1476	5⑩	1536	慶長 1⑦⑩	1596
丁酉	12⑦	2	1357	24⑤	1417	9①	1477	6	1537	2	1597
戊戌	13	3	1358	25	1418	10	1478	7	1538	3	1598
己亥	14	4	1359	26	1419	11⑨	1479	8⑥	1539	4③	1599
庚子	15④	5	1360	27①	1420	12	1480	9	1540	5	1600
辛丑	16	康安 1 ③	1361	28	1421	13	1481	10	1541	6①	1601
壬寅	17	貞治 1 ⑨	1362	29⑩	1422	14⑦	1482	11③	1542	7	1602
癸卯	18①	2	1363	30	1423	15	1483	12	1543	8	1603
甲辰	19	3	1364	31	1424	16	1484	13①	1544	9⑧	1604
乙巳	20⑨	4	1365	32⑥	1425	17③	1485	14	1545	10	1605
丙午	21	5	1366	33	1426	18	1486	15	1546	11	1606
丁未	22	6	1367	34	1427	長享 1⑩⑦	1487	16⑦	1547	12④	1607
戊申	23⑥	応安 1 ②	1368	正長 1③④	1428	2	1488	17	1548	13	1608
己酉	24	2	1369	永享 1 ⑨	1429	延徳 1 ⑧	1489	18	1549	14	1609
庚戌	建徳 1 ⑦	3	1370	2①	1430	2⑧	1490	19⑤	1550	15②	1610
辛亥	2③	4	1371	3	1431	3	1491	20	1551	16	1611
壬子	文中 1 ④	5	1372	4	1432	明応 1 ⑦	1492	21	1552	17⑩	1612
癸丑	2⑩	6	1373	5⑦	1433	2④	1493	22①	1553	18	1613
甲寅	3	7	1374	6	1434	3	1494	23	1554	19	1614
乙卯	天授 1 ⑤	永和 1 ①	1375	7	1435	4	1495	弘治 1⑩⑩	1555	元和 1⑥⑦	1615
丙辰	2⑦	2	1376	8⑤	1436	5②	1496	2	1556	2	1616
丁巳	3	3	1377	9	1437	6	1497	3	1557	3	1617
戊午	4	4	1378	10	1438	7⑩	1498	永祿 1⑥②	1558	4③	1618
己未	5④	康暦 1 ③	1379	11①	1439	8	1499	2	1559	5	1619
庚申	6	2	1380	12	1440	9	1500	3	1560	6②	1620
辛酉	弘和 1 ②	永徳 1 ②	1381	嘉吉 1⑨②	1441	文亀 1⑥②	1501	4③	1561	7	1621
壬戌	2①	2	1382	2	1442	2	1502	5	1562	8	1622
癸亥	3	3	1383	3	1443	3	1503	6③	1563	9⑧	1623
甲子	元中 1⑨④	至徳 1 ②	1384	文安 1⑥②	1444	永正 1③②	1504	7	1564	寛永 1 ②	1624
乙丑	2	2	1385	2	1445	2	1505	8	1565	2	1625
丙寅	3	3	1386	3	1446	3①	1506	9⑧	1566	3④	1626
丁卯	4⑤	嘉慶 1 ⑧	1387	4②	1447	4	1507	10	1567	4	1627
戊辰	5	2	1388	5	1448	5	1508	11	1568	5	1628
己巳	6	康応 1 ②	1389	宝徳 1⑩⑦	1449	6⑧	1509	12⑤	1569	6②	1629
庚午	7③	明徳 1 ③	1390	2	1450	7	1510	元亀 1 ④	1570	7	1630
辛未	8	2	1391	3	1451	8	1511	2	1571	8⑩	1631
壬申	9⑩	3	1392	享徳 1⑧⑦	1452	9④	1512	3①	1572	9	1632
癸酉		4	1393	2	1453	10	1513	天正 1 ⑦	1573	10	1633
甲戌		応永 1 ⑦	1394	3	1454	11	1514	2①	1574	11⑦	1634
乙亥		2⑦	1395	康正 1④⑦	1455	12②	1515	3	1575	12	1635

○は閏月 □は改元月



各務原市
中央公民館図書室

この本は、きめられた日までに、おかえしください。
最後の日付が、あなたの返却期限です。

60.12.10

各務原市圖書館

各務原市図書館



210000857